

三好特別支援学校／竹下智彦「新宿副都心」



2014-12 第37号  
一般社団法人 愛知県測量設計業協会

方位

40周年記念誌

一般社団法人 愛知県測量設計業協会

方 位  
40 周 年 記 念 誌

三好特別支援学校／竹下智彦「ジャカルタ」



## 一般社団法人愛知県測量設計業協会

(一社)だんだんアティックアート dandanbox

だんだんボックスの活動は『アート・福祉・地域活性化・経済活動』をつなげます。

一般社団法人愛知県測量設計業協会は、この活動に賛同し、

平成24年度より機関誌「方位」の表紙のデザインに、

障がいがありながらも自立し社会参加を目指すアーティストの方々の絵を採用しています。

制作した費用の一部はだんだんアティックアートを通じてアーティストに贈られています。

# 一般社団法人 愛知県測量設計業協会について

昭和49年11月、社団法人愛知県測量設計業協会は愛知県知事の認可を得て正式に発足しました。

「測量業」の生立ちは、昭和24年6月測量法の公布により、測量技術者の資格と担当範囲が制定され、ここに測量業者の誕生となり、昭和36年6月の測量法一部改正により、測量業の登録制度が法制化されました。

測量業者の組織では、昭和36年8月社団法人全国測量業協会が発足し、全国に8支部を設置。当地区にも中部支部が設置され活発な事業を展開しました。各県に会員が増加し、昭和42年8月支部内に愛知県支会が発足、地域独自の諸問題に対処してまいりました。その後、県内独自の組織の強化が叫ばれ、支会の公益法人化を目指し、昭和49年11月愛知県知事の認可により社団法人の資格を得、社団法人愛知県測量設計業協会が発足致しました。

「公益法人改革3法」が平成20年12月1日から施行されたことに従い、私共は

一般社団法人化を目指すこととしました。愛知県建設部の御指導を賜り、平成25年4月1日付けで移行許可を受けることができました。

今後とも、公益法人の自覚のもと、使命に基づき、測量設計無料相談所の設置運営、災害等緊急時協力体制の整備確立等の地域社会への貢献、会員の親睦と団結、技術の研鑽等の研修活動、各種要望、陳情活動、並びに協会の広報活動等々、協会の目的達成のために、幅広い活動を展開して参ります。

創立以来、関係機関の皆様からの厚いご支援、ご鞭撻のお蔭を持ちまして、当協会も順調に推移してまいりましたが、昨今の業界を取り巻く環境は厳しく、健全な発展を図る為に、更に一層のご支援、ご鞭撻をお願いする次第であります。

会員一同は、一致団結してこの難局に対処致し、地域社会への貢献、技術の向上、経営の安定化、社会的地位の向上等々に、尚一層取り組んで参りたいと存じます。

## 協会の主要な事業

- (1) 測量、調査、設計、技術等の向上の為研修及び講習会の開催
- (2) 測量及び設計業の技術及び経営業務の改善に関する調査研究
- (3) 災害復旧における技術援助計画の立案及び実施
- (4) 関係機関及び各種団体との連絡及び提携
- (5) 測量及び設計業の社会的使命に関する宣伝及び啓蒙
- (6) 県民無料測量及び設計相談所の開設
- (7) その他本会の目的を達成する為に必要な事業

## 「方位」第37号の概要

広報委員会 広報グループ

1年に1度、皆様にお届けしている『方位』ですが、第37号が完成し発行することが出来ました。県民の皆様の1人でも多くの方が読んで、社会資本整備の必要性を認識して頂くとともに、理工系の大学生、高校生の学術資料になればと、今回は3,000部を用意致しました。県内の全ての公立図書館・官公庁・大学（建設系）・高校（建設系）などで読んでもらえれば幸いと考えております。

当協会は、創立40周年を迎えることが出来ました。ひとえに、御指導、御支援を賜りました、国土交通省、愛知県を始め社会資本整備に携わる皆様方のおかげと感謝申し上げます。建設関連業のエンジニアとしては、迫り来る南海トラフ大地震を始めとする自然災害への備え等々、議論すべきことは多いですが、今回の特集は、～写真で紹介するこの10年間の社会資本整備～と致しました。県民の命・生活を守る事業、経済・流通を良くする事業などを紹介させて頂きます。

当協会の40周年記念特別講演として、大石久和先生をお迎えし、「国土」について、お話を頂きました。エンジニアとして考えるヒントをたくさん頂きました。忙しい方に恐縮でしたが、その一部を掲載しております。社会資本の有り様について過去を見つめつつこれからを考えることのできる内容となっております。それでは皆様、時間の許す限りお読みください。

## 一目 次

「方位」第37号の概要

### ご挨拶

創立40周年を迎えて .....	二村 貴和	3
創立40周年記念誌発刊にあたり .....	倉知 俊彦	5

### お祝い

創立40周年に寄せて .....	八鍬 隆	9
祝 辞 .....	黒石 裕樹	11
祝 辞 .....	大村 秀章	13
創立40周年を祝して .....	三浦 孝司	14
祝 辞 .....	河村たかし	16
祝 辞 .....	野瀬 操	17

### 特 集 40周年記念 ~写真で紹介する この10年間の社会資本整備~

国土交通省事業10選 .....	21
庄内川河川事務所、豊橋河川事務所、設楽ダム工事事務所、 名古屋国道事務所、愛知国道事務所、名四国道事務所、 矢作ダム管理所	
愛知県事業10選 .....	28
尾張建設事務所、名古屋東部丘陵工事事務所、一宮建設事務所、 海部建設事務所、知多建設事務所、西三河建設事務所、 知立建設事務所、豊田加茂建設事務所、新城設楽建設事務所、 東三河建設事務所、衣浦港務所、三河港務所	
市町・公社事業10選 .....	40
名古屋市、豊橋市、岡崎市、一宮市、春日井市、豊田市、 名古屋高速道路公社	
創立40周年記念行事 .....	49

記念講演 .....	大石 久和	59
------------	-------	----

### 歩 み ~この40年間の建設行政と愛測協~

40年史年表（1973～2014年） .....	78
組織図 .....	92
歴代役員 .....	95

## 未 来

日本の成長をリードする強靭な県土づくりの推進 ..... 市川 育夫 99

## おもう ～これからの社会資本整備～

尾張地域における今後の社会資本整備について .....	今村 鐘年 103
「改正品確法」に期待します .....	中西喜久雄 106
～これからの社会資本整備～西三河地域会員を代表して .....	川澄 功 108
私の思うこれからの社会資本整備 .....	高木 喜一 111

## 公益事業の紹介

愛知県農業高校測量競技会支援事業 .....	早川 友幸 115
～頼もしい若者達の真剣な取組み～	
地図教室開催支援事業 .....	榎原 雅彦 119
～小学生達に「君の10歩は何メートル？」で測量体験～	
だんだんボックス活動支援事業 .....	須藤 一彦 123
～障がい がありながらも自立を目指す才能あるアーティストを応援します～	

## 委員会報告

総務委員会 .....	久松 顕 131
広報委員会 .....	石田 徹 134
測量委員会 .....	中西喜久雄 137
建設コンサルタンツ委員会 .....	廣瀬 博 140

## 紹 介

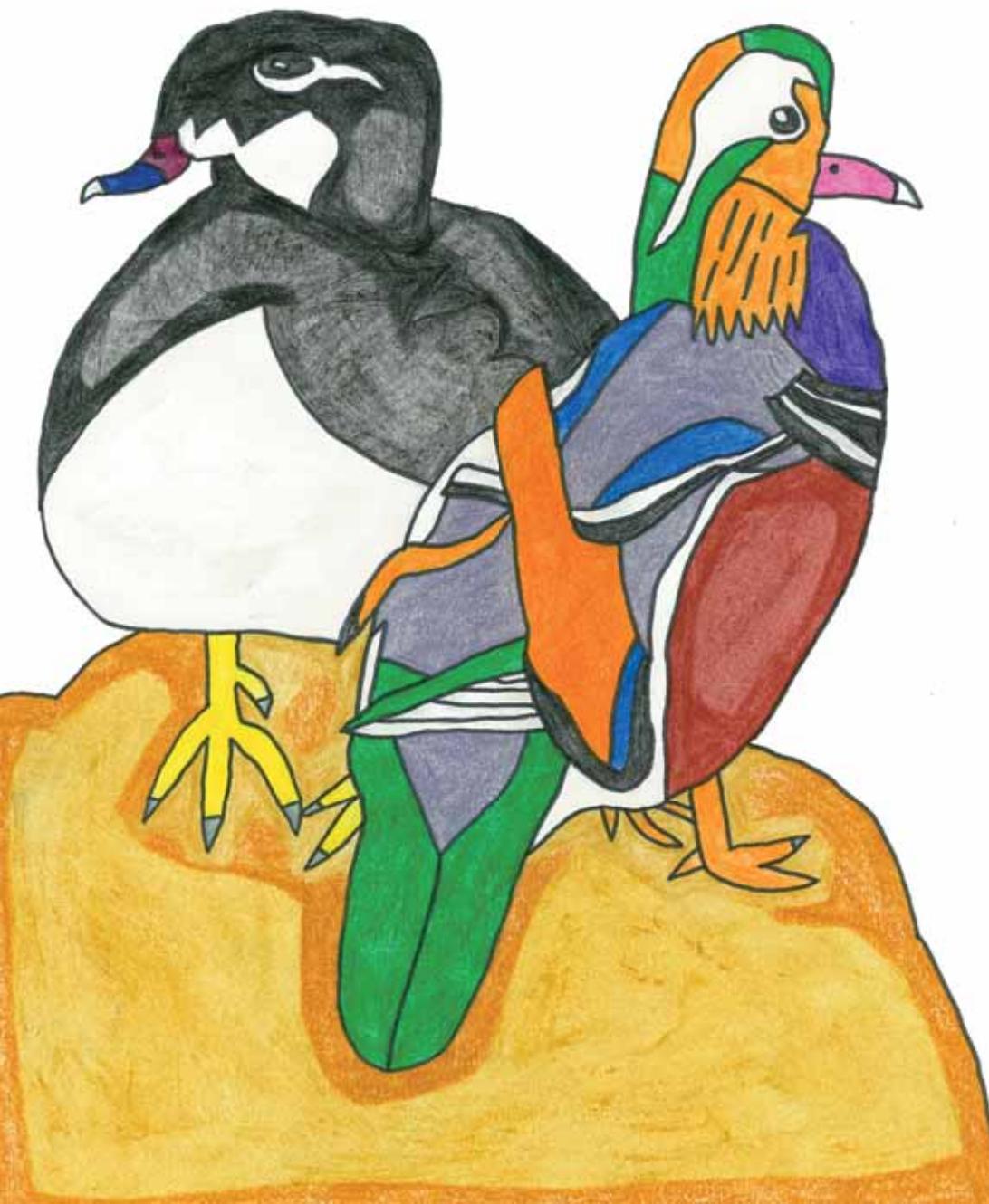
顧問紹介 .....	145
会員紹介 .....	149
編集後記 .....	卷末

表 紙 指導「方位」 ..... 一般社団法人 愛知県測量設計業協会会長  
二村 貴和

表 紙 (写真) だんだんボックス活動  
我々は、障がい者支援活動を応援します。

ご挨拶

安城特別支援学校／内藤 涼太「仲良しカップル」



40th  
Anniversary



愛測協は障がいが有りながらも自立を目指す  
才能あるアーティストを応援します。

# ごあいさつ



## 創立40周年を迎えて

一般社団法人 愛知県測量設計業協会  
会長 二村 貴和

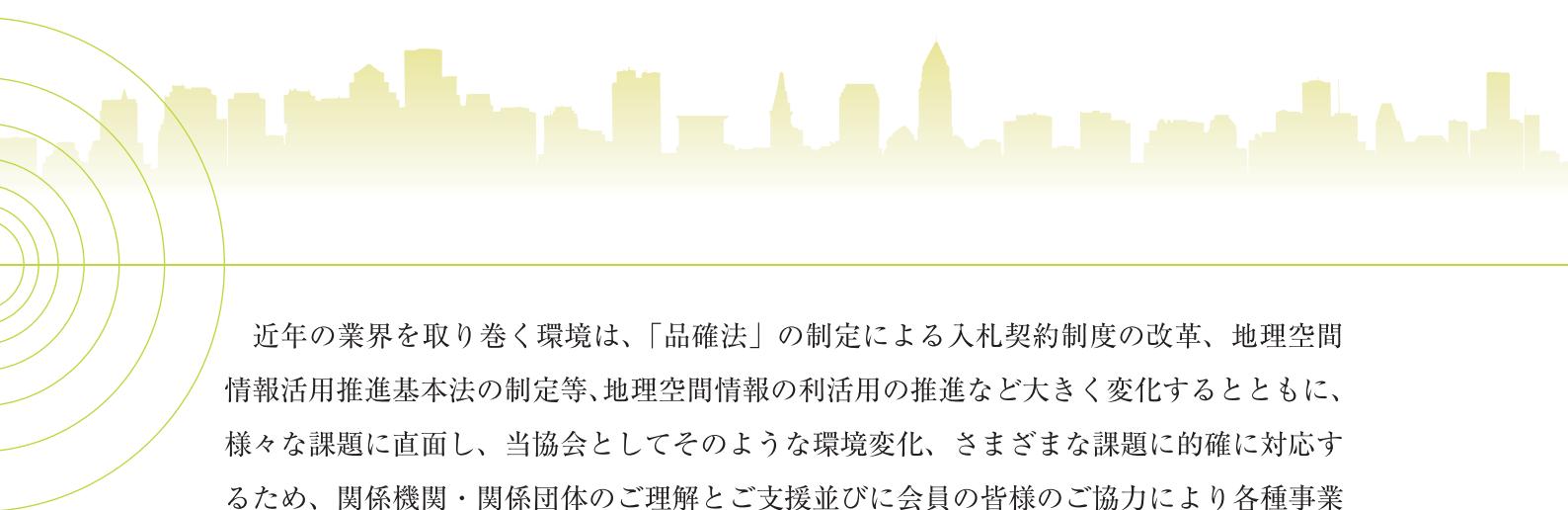
一般社団法人愛知県測量設計業協会は昭和49年11月に発足し、爾来月日を重ね、本年創立40周年を迎えることが出来ました。当初は愛知県知事の許可を得て「社団法人」としての設立でしたが、昨年4月、新公益法人制度の施行に伴い「一般社団法人」へ移行し現在に到っています。

当協会は、創立以降社会環境の幾多の変遷を乗り越えてまいりました。平成21年に35周年記念をさせていただいた折りには、リーマンショックによる世界同時不況の渦中にあり、業界あるいは会員企業の存続に危機感を抱いた記憶があります。

その後5年間には、公共事業には大きな政策大転換即ち「コンクリートから人へ」の大合唱、また想像を超える「東日本大震災」と「福島の原発事故」の発生により、積み重ねてきた歴史を覆す大きな出来事が発生しました。その反省から、国土強靭化など意識変化がある中「不惑」を迎えることが出来ました。関係機関、関係団体の皆様のご理解とご支援の賜物でありますと共に歴代役員、諸先輩並びに会員の皆様のご努力によるものであり、敬意と感謝を申し上げる次第であります。

私共協会は、測量・設計を通じて社会に、地域に大いに貢献していると自負をしていますが、あらゆる社会インフラの前段を担う私共の存在に社会的認知度が低いのが残念でなりません。作家の曾野綾子氏は「難工事の現場で働き、日本の復興を支えた人たちが名も残さず、時には報われることもなく死んでいく。そうした人生への贊辞を、すべての構造物は『無名碑』として刻んでいると思った」と述べられています。なお彼女は20年以上にわたり土木の現場に入り道路、隧道、ダムを勉強され小説を書かれていますが、土木の仕事は、誇りを持って素晴らしい仕事であると語られています。会員が「誇りと自信」を持って、来る50周年に向けて情報発信をする必要を感じる次第であります。

今後の我が国、愛知県を取り巻く環境は人口減少社会との戦いになると思われます。コンパクトシティが話題になっていますが、キーワードは「縮小」との説があります。そんな中「地方創生」が掲げられ、「まち・ひと・しごと」創生本部が発足しました。地方の視点に光明があたられるのではと今後の推移に期待するものであります。



近年の業界を取り巻く環境は、「品確法」の制定による入札契約制度の改革、地理空間情報活用推進基本法の制定等、地理空間情報の利活用の推進など大きく変化するとともに、様々な課題に直面し、当協会としてそのような環境変化、さまざまな課題に的確に対応するため、関係機関・関係団体のご理解とご支援並びに会員の皆様のご協力により各種事業活動に取り組んでまいりました。

忘れてならないのは東海・東南海・南海の三連動地震とともに、近年の極端気象であります。世界では、日本を「災害のショーウィンドウ」と表しているようです。確かに地震、津波、火山噴火、台風、集中豪雨、洪水、豪雪、竜巻、地すべり、山崩れ、土石流等々存在しない災害は無いほどです。今や「非常時」の表現と決別する時が来ています。全測連中部地区協議会として中部地方整備局との間にて「災害又は事故における中部地方整備局管内の緊急的な応急対策の支援に関する協定」、当協会として愛知県と「災害時における愛知県建設部が管理する公共土木施設の緊急的な応急対策等の支援に関する協定」の締結をしていますが、緊急時の支援活動には迅速な対応が求められます。今後とも継続した技術者育成、技術伝承により対応力の強化に努めてまいります。

このたび、創立40周年記念特集号としての機関紙「方位」を発行させていただきましたが、多くの方の多大なご協力に篤く感謝の意を表する次第であります。有難うございました。

今後とも、愛知県測量設計業協会に変わらぬ御叱正と、なお一層の御支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

# ごあいさつ



## 創立40周年記念誌発刊にあたり

愛知県議会議員  
倉知 俊彦

ここに、一般社団法人愛知県測量設計業協会創立40周年を迎えたことに心から祝意を表します。

また、発足以来、土木事業をはじめとする社会基盤整備の根幹となる調査、測量、設計などの業務を通じて、安全で安心な街づくりに貢献されました貴協会員の皆様に心から感謝を申しあげます。

さて、3年前に発生した東日本大震災を契機に、今後想定される巨大地震や、ここ数年の集中豪雨による災害、公共施設の老朽化等に対する対策が急がれるところであります。

国では「国土強靭化」の施策を進めて、国民が安心して暮らせる社会資本の整備を進めています。強靭化のために建設関連産業の果たすべき役割は重大であり、測量設計業におかれましてはその基礎を支える重要な役割を担っています。

長かったデフレから脱却し、景気回復の傾向がみられ今後の公共事業の増加が期待されるものの、建設関連産業においては、技術者の不足、建設資材の高騰で依然厳しい現状が続くことが懸念されますが、2020年には東京オリンピックの開催、2027年には東京・名古屋間リニア中央新幹線の開業とビックプロジェクトがあり愛知県を取り巻く環境は大きく変化すると思われます。

しかしその一方で、少子化の進行とともに、若者が東京を目指す傾向が一層強まり、2040年代には極点社会（一極集中）が到来し、地方が消滅すると予言する学者もいます。

日本が国力を保つには、健全な地方自治体の存在が必要です。今後の愛知県政におきましても未来に希望がもてる、若者が輝く新しい愛知を創造することが重要になります。

貴協会におかれましては、この40周年を節目とし更なる飛躍、発展を期して儘力されますことを祈念します。



お祝い



豊田高等特別支援学校(卒)／山口 真由「ひまわり」

40th  
Anniversary

## お祝い

国土交通省 中部地方整備局長

八鍬 隆

国土交通省 国土地理院中部地方測量部長

黒石 裕樹

愛知県知事

大村 秀章

愛知県議会議長

三浦 孝司

名古屋市長

河村 たかし

(一社) 全国測量設計業協会連合会 会長

野瀬 操



愛測協は障がいが有りながらも自立を目指す  
才能あるアーティストを応援します。

# お祝い



## 創立 40 周年に寄せて

国土交通省 中部地方整備局長 八鍬 隆

一般社団法人愛知県測量設計業協会が創立 40 周年を迎られましたことを心からお慶び申し上げます。

また、貴協会が昭和 49 年の創立以来、測量設計業の発展のためにご尽力されるとともに、調査、測量、設計等の業務を通じて、愛知県をはじめとした地域の社会資本の整備に多大な貢献をされてきたことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

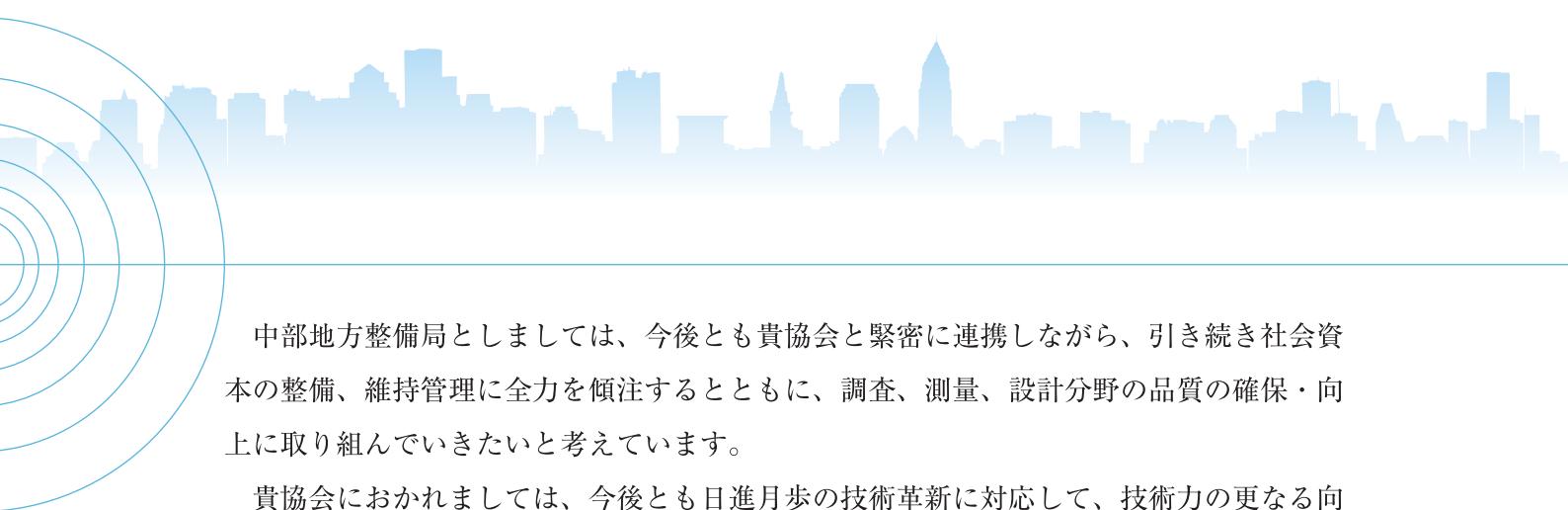
貴協会の歴史は、まさに、愛知県の社会資本の形成、充実の歴史と軌を一にするものであり、昭和 34 年の伊勢湾台風や平成 12 年の東海豪雨などの甚大な災害から地域を守るための治水対策や高潮対策の推進、我が国のもつくり産業の拠点として経済を牽引する愛知県の産業、経済、生活を支える名古屋高速道路、東海環状自動車道東回りなどの道路、名古屋港、三河港、中部国際空港の整備など、地域の安全、安心を守り、地域経済の発展、利便性の向上に資する社会資本の整備が着実に進展してきました。

一方で、近い将来の発生が懸念される南海トラフ巨大地震・巨大津波、スーパー伊勢湾台風あるいは全国的に増加する集中豪雨などに対するハード・ソフト両面での防災・減災対策は喫緊の課題になっていますし、老朽化したインフラ対策として、今年の 7 月よりすべての橋梁、トンネルについて 5 年に 1 回の近接目視点検が義務付けられたところであります。今後、定期的な点検、安全性診断及び維持修繕工事などの確実な履行が求められています。

また、2027 年に名古屋一東京間でリニア中央新幹線が開通する予定であり、今後、大深度地下を走行するリニアの建設とともに、名古屋駅の大改造及び駅周辺を中心としたまちづくりなど、歴史的大事業が展開されていくことになります。

こうした社会的な要請に的確に対応し、愛知県のますますの発展を確実なものにしていくためには、公共事業における効率的で質の高い調査、測量、設計の実施が必要不可欠であり、貴協会の皆様に対する期待は極めて大きいと考えています。

今年 6 月には、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が改正され、公共工事に加えて調査及び設計についても品質確保の重要性とその確保のための発注者、受注者双方の責務が明示されました。



中部地方整備局としましては、今後とも貴協会と緊密に連携しながら、引き続き社会資本の整備、維持管理に全力を傾注するとともに、調査、測量、設計分野の品質の確保・向上に取り組んでいきたいと考えています。

貴協会におかれましては、今後とも日進月歩の技術革新に対応して、技術力の更なる向上に努められ、次の50年、100年に向けてますますご発展されますことを衷心よりご祈念申し上げます。

# お祝い



## 祝 辞

国土交通省国土地理院中部地方測量部長 黒石 裕樹

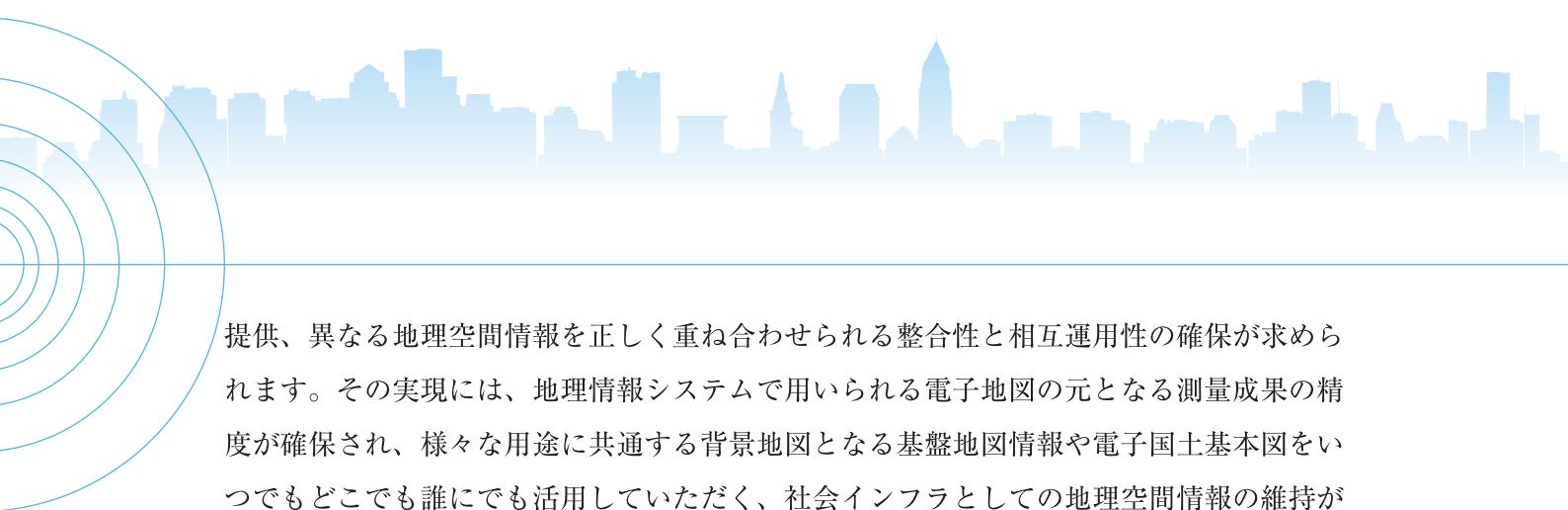
一般社団法人愛知県測量設計業協会が創立40周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴協会は、創立以来今日まで、愛知県内の測量設計業界の健全な発展、地位向上と社会資本整備の推進に大きく貢献され、産業の振興と発展、公共福祉の増進に寄与されてこられました。これはひとえに、役員をはじめ、会員の皆様のご尽力の賜であり、心から敬意の念を表します。

さて、測量を取り巻く世界では、この10年間に大きな変化がありました。衛星測位技術の世界測地系に基づく測量への普及、情報通信技術の発展に伴い、市民の生活から国土の管理、防災まで、地理空間情報が広く活用されるようになりました。それに対応し、基本測量の成果をインターネット等により提供することなどを内容とする測量法の改正や、地理空間情報の活用推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とする地理空間情報活用推進基本法の制定が行われました。後者では、衛星測位と地理情報システムにかかる施策を組合せ、国民の利便性の向上、国民経済の健全な発展、行政運営の効率化とその機能の高度化に寄与することなどを基本理念に、地理空間情報を高度に利用するG空間社会の実現を目指すこととされました。

平成23年3月に発生した東日本大震災では、多様な主体が連携し、地理空間情報を活用する取組により、被害の把握、被災者支援、復旧・復興に大きく貢献しました。それを踏まえ、平成24年3月に新たに閣議決定された地理空間情報活用推進基本計画では、今後想定される南海トラフの巨大地震等の自然災害等に対し、事前の備えから災害対応、復興支援において地理空間情報を生かすための体制や防災・減災に資する地理空間情報の整備などに取り組むこととされています。

このような地理空間情報の基盤をなすものは、測量法のもと、重複を排除し、正確さを保持しつつ、統一された基準に従い、最大限に活用される成果を取得する測量であると考えられます。人やモノの位置、移動と周辺の情報を扱う位置情報サービスから国土や地球環境の把握、管理まで、地理空間情報は国、地方公共団体から民間事業者まで多様な主体により整備、利用されるようになりました。それらの情報を質の高い暮らしの実現、経済の健全な発展や災害に強く持続可能な国土形成に活用するため、位置情報基盤の持続的な



提供、異なる地理空間情報を正しく重ね合わせられる整合性と相互運用性の確保が求められます。その実現には、地理情報システムで用いられる電子地図の元となる測量成果の精度が確保され、様々な用途に共通する背景地図となる基盤地図情報や電子国土基本図をいつでもどこでも誰にでも活用していただく、社会インフラとしての地理空間情報の維持が必要になります。

このように、測量は、その基本理念を変えることなく、技術や社会の進展に応じて新たな技術を導入しながら、時代の要請にこたえる成果を提供してきました。G空間社会のさらなる進展にむけ、より広い分野で地理空間情報を利活用する社会の実現を支える基盤として、測量の担う社会での役割はますます重要になっています。測量設計の専門家である会員の皆様にも、測量分野において、引き続き研鑽を積まれ、なお一層ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、貴協会並びに会員の皆様のますますのご活躍とご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# お祝い



## 祝　辞

愛知県知事 大村 秀章

一般社団法人愛知県測量設計業協会の創立 40 周年を心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和 49 年の創立以来今日まで、測量設計業の健全な発展・向上に多大な貢献をされてきたことはもとより、本県の社会基盤の整備・地域社会の繁栄に大きな役割を果たされておりますことに深く敬意を表します。また、県民の安心・安全に資する本県との防災協定の締結など、建設行政のみならず県政全般にわたり、格別の御支援、御協力を賜っておりますことに心から感謝を申し上げます。

さて、グローバル経済の進展など世界規模での大都市圏間競争が一層激しさを増すとともに、我が国の本格的な人口減少・高齢社会の到来の中にあって、高い潜在力を持つ愛知が大きく飛躍し、日本全体の発展をリードしていくためには、2027 年度に予定されているリニア中央新幹線の東京－名古屋間の開業インパクトを最大限生かしながら、戦略的大都市圏づくりを進めなければなりません。また、人口減少・高齢社会への対応はもとより、南海トラフの巨大地震など防災対策や環境・エネルギーリスクといった課題にもしっかりと対応していく必要があります。

こうした認識のもと、本県では、リニア開業後の 2030 年頃を展望し、2020 年までに取り組むべき、12 の重要政策課題や政策の方向性を明らかにした「あいちビジョン 2020」を本年 3 月に策定しました。

県といたしましては、愛知の大きな飛躍のため、このビジョンの適確な推進を図り、「日本一の元気を暮らしの豊かさに」の実現に向け、全力を挙げて着実な取り組みを進めいく所存であります。

この新しい愛知の地域づくりためには、皆様方の専門知識や豊富な経験が是非とも必要であります。どうか、より一層のお力添えを賜りますことと、併せて、これまでの 40 年もの間、たゆまぬ努力と研鑽により、激動ともいえる時代を乗り越えて着実な発展を遂げてこられた貴協会におかれましては、今後、50 周年、さらには 60 周年を見据え、さらなる研鑽に努められ、県政の推進に一層の御支援、御協力を賜ることを心からお願い申し上げます。

最後に、貴協会並びに会員各位の益々の御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

# お祝い



## 創立40周年を祝して

愛知県議会議長 三浦 孝司

一般社団法人愛知県測量設計業協会が、このたび記念すべき創立40周年を迎えたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和49年の創立以来、測量設計技術の向上のため、調査・研究に努められ、県土基盤の整備を通じて、本県の発展に多大な御貢献をいただいており、深く敬意と感謝の意を表する次第です。

さて、測量技術は、古代エジプトにおいて始まりピラミッドの建設に用いられ、その後現代に至るまで私たちの文明を支えてきた高度な技術です。特に、近年、宇宙技術・情報通信技術の進歩により、測量技術の飛躍的な向上とグローバル化が進みました。また、高度情報化社会の進展に伴い、国民のニーズもより高度化・多様化してきております。

こうした中、貴協会におかれましては、研修会や講習会を通して、技術の研究・向上に努められるとともに、県行政との意見交換や、次代を担う児童・生徒への測量体験実習の実施、県民に対する無料相談所の開設などの幅広い活動を通じて、県民生活のさらなる向上に御貢献をいただいております。

また、今後発生が懸念されている南海トラフ巨大地震や、集中豪雨などの災害時における応急対策や復旧対策など、行政機関との協力体制の整備にも積極的に取り組んでいただいており、誠に心強い限りです。

現在、国においては、安全・安心な国土・地域・経済社会の構築に向け、「国土強靱化」の施策を推進しております。愛知県においても、災害から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくりに向け国土強靱化地域計画の策定に取り組んでいるところであります。

これらの災害等に強い国土づくり・県土づくりにおいて、道路・橋梁・上下水道などの社会資本の整備は欠かせないものであり、建設関連産業の果たすべき役割は極めて重要であります。そして、測量やこれに関する設計・調査業務は、社会資本整備の基礎を支える大変重要な役割を担っております。

どうか、皆様方には、この意義ある40周年を契機にさらに連携を深められ、より一層の研鑽・研究に努められるとともに、今後とも豊富な経験と高度な専門知識を十分に発揮していただき、本県の良質な社会資本整備の推進に更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、愛知県測量設計業協会の今後ますますの御発展と、会員の皆様方の御健勝を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

# お祝い



## 祝 辞

名古屋市長 河村 たかし

このたび、一般社団法人愛知県測量設計業協会が、創立40周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会並びに会員の皆様方におかれましては、創立以来40年の長きにわたり、測量設計業における技術研究や、各種の関係事業など、日々堅実な業務の遂行と安心・安全で豊かなまちづくりのためにご尽力されておりますことに敬意を表します。また、日頃から名古屋市内での測量設計事業はもとより、名古屋市の行政に格別のご理解と多大なご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成12年9月に名古屋市内を中心として発生した東海豪雨や近年多発するゲリラ豪雨を始め、東日本大震災や本年8月20日に発生した広島市での土砂災害など、今後も起こりうる大規模な自然災害に対して、迅速な応急復旧に関する業務にご支援をいただくため、「災害時における緊急的な災害応急対策業務の支援に関する協定」を貴協会と平成15年3月に締結しました。そして、平成21年度以降は、貴協会と合同で防災訓練や情報伝達訓練を実施するなど、着実に協力関係を築いてきました。

このような中、名古屋市では本年2月及び3月に「南海トラフ巨大地震に関する被害想定」を公表したところですが、この巨大地震が発生しますと名古屋市内では津波被害や液状化現象などにより、甚大な被害が起こると予測しています。

発災後における緊急的な災害応急対策を始め、被災後における測量設計業務を通じた迅速なまちの復興のためには、数々の実績や経験などを有する貴協会のご支援ご協力が必要不可欠であると考えています。

さらに名古屋市では、平成39年に予定されていますリニア中央新幹線の開業を見据え、名古屋駅周辺では高いレベルの機能性や多彩な魅力を備えたまちづくりを目指しています。このためには、行政と民間が連携・協働してまちづくりを推進し、着実に構想を実現していくかなくてはなりません。

このような背景のもと、測量設計業に携わる貴協会の専門的な知識や経験、築き上げられてこられました技術や実績が果たす役割は、大変重要であると認識しています。

これからも、測量設計に関わる事業を通じて、名古屋市の発展と市民生活の安心・安全にご協力いただきますようお願い申し上げます。

貴協会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

# お祝い



## 祝　辞

一般社団法人 全国測量設計業協会連合会 会長 野瀬 操

一般社団法人 愛知県測量設計業協会の素晴らしい40年の歩みを寿ぎ、心からお慶び申し上げます。

昭和48年に端を発した第一次オイルショックによる公共事業の減少という厳しい時代の昭和49年に貴協会は設立され、現在までの40年の長い年月には幾多の試練があったこととは思いますが、会員一同のたゆまぬ努力と協力のもと、愛知県唯一の測量設計業界として活動を継続されたことに敬服いたします。

「今は変革の時代だ」と大層にいいますが、変革の時代は今に始まったことではなく、世の中は絶えず揺れ動き進化しています。

この動きは、情報伝達方法の大幅な進化・少子高齢化・国際環境の複雑化により、私たちを取り巻く社会のニーズとして変化していく事でしょう。

この変化の中においても、貴協会の目的に『測量設計業に係る調査研究、研修会等の開催、普及・啓発等に関する事業を行い、測量設計業界の健全な発展及び地位の向上を図るとともに、社会資本整備の推進に貢献し、もって愛知県産業の振興及び発展並びに公共の福祉の増進に寄与することを目的とする』とあり、この事が活動の根底にある限り、愛知県測量設計業協会及び会員は、国や地方公共団体並びに愛知県民から信頼される筈です。

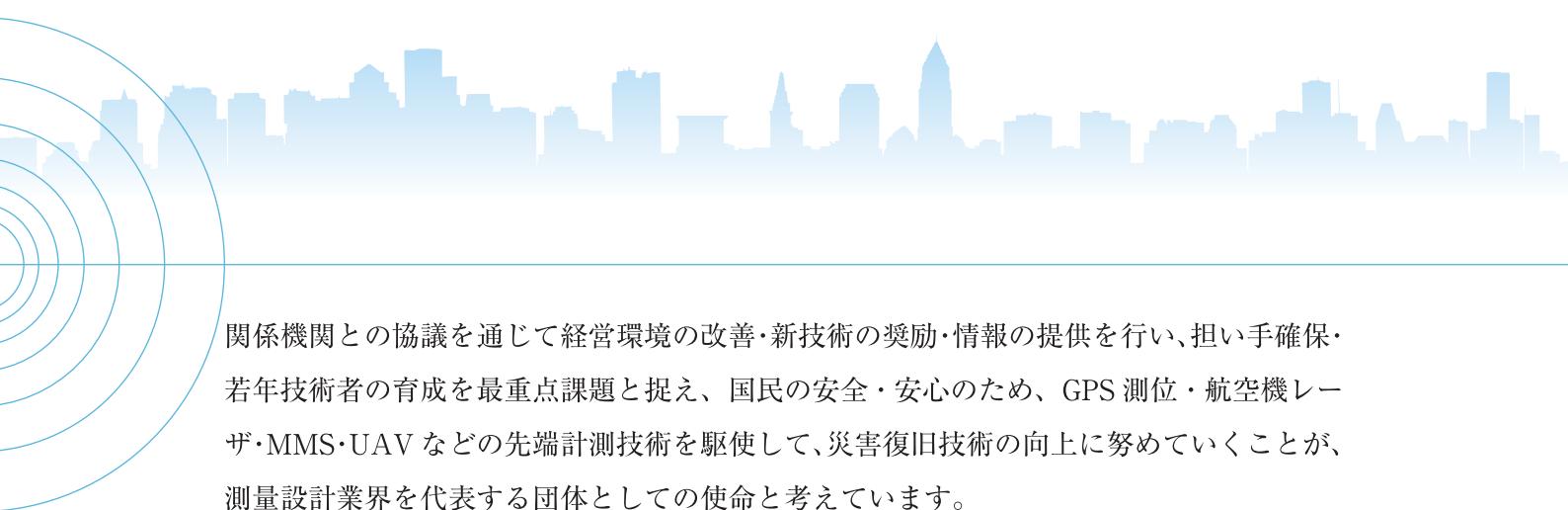
愛知県は、源頼朝・織田信長・豊臣秀吉及び徳川家康等、日本の歴史を彩った有名な武将の生誕地であり、また「伊勢は津でもつ、尾張名古屋は城でもつ」と謳われた名古屋城は金の鯱を頂き悠然とそびえ立っています。

現在では、日本のみならず、世界経済を牽引する巨大企業トヨタの活動拠点であり、愛知県がなければ日本経済はもちません。

また、歴史的にも東海道の要所であり、日本の中点にある愛知県が発展することこそが国力を高める必須条件です。

しかしながら愛知県は、あってはならない事ですが高い確率で想定されています「東南海トラフ地震」による被災が考えられています。このことを受け国土強靭化基本法が昨年12月に制定され、同法に基づく国の基本計画が策定されるなど、大規模自然災害等に備えた強靭な国づくりに向けた施策が総合的、計画的に推進されることとなりました。

全測連は、測量設計業の全国組織として、業界の健全な発展及び地位向上を図るため、



関係機関との協議を通じて経営環境の改善・新技術の奨励・情報の提供を行い、担い手確保・若年技術者の育成を最重点課題と捉え、国民の安全・安心のため、GPS測位・航空機レーダー・MMS・UAVなどの先端計測技術を駆使して、災害復旧技術の向上に努めていくことが、測量設計業界を代表する団体としての使命と考えています。

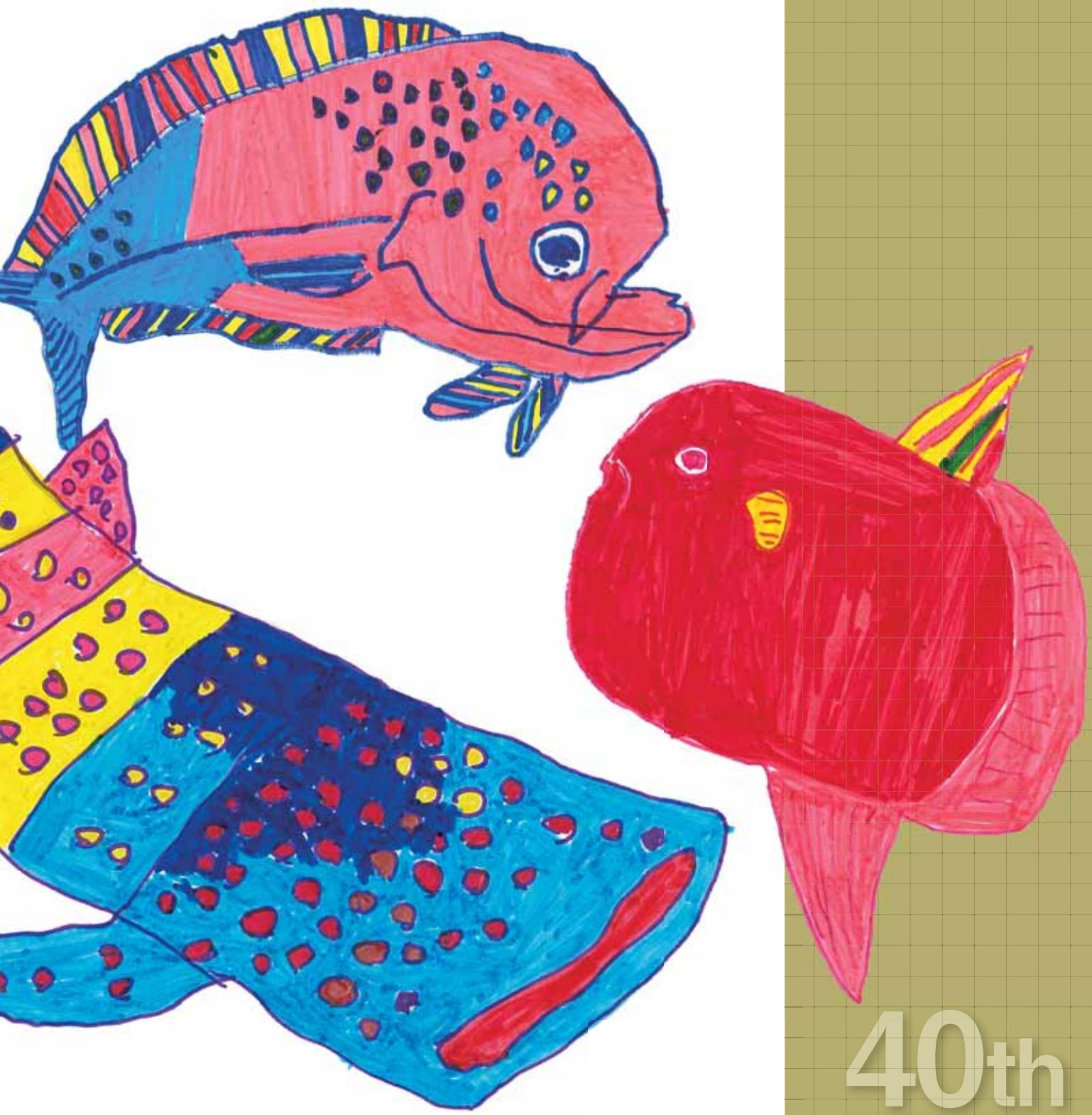
国民の安全・安心を守る社会資本整備は、ある意味では、医療福祉予算より優先させるべきもので、多数の人命を救うため絶対不可欠の『社会資本医療』ともいえます。人間の体でいえば、河川は動脈、道路は静脈で、これが充分に機能しない場合は手術しなければなりません。手術に例えると、『事前検査＝測量・調査、手術方針決定＝設計、手術＝土木工事、回復状態確認検査＝点検測量』となるのではないでしょうか。

これらの課題対策には、貴協会の積極的参画が必要不可欠です。貴協会は愛知県民のために、全測連は国民のためにお互いに協力していく必要があります。

結びにあたり、設立40周年を期に、貴協会の一層のご発展とご活躍、会員各位のご繁栄を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 特集

～写真で紹介する この10年間の社会資本整備～



## 40周年記念 ~写真で紹介する この10年間の社会資本整備~

### 【国土交通省事業10選】

庄内川河川事務所  
豊橋河川事務所  
設楽ダム工事事務所  
名古屋国道事務所  
愛知国道事務所  
名四国道事務所  
矢作ダム管理所

### 【愛知県事業10選】

尾張建設事務所  
名古屋東部丘陵工事事務所  
一宮建設事務所  
海部建設事務所  
知多建設事務所  
西三河建設事務所  
知立建設事務所  
豊田加茂建設事務所  
新城設楽建設事務所  
東三河建設事務所  
衣浦港務所  
三河港務所

### 【市町・公社事業10選】

名古屋市  
豊橋市  
岡崎市  
一宮市  
春日井市  
豊田市  
名古屋高速道路公社



愛測協は障がいが有りながらも自立を目指す才能あるアーティストを応援します。

# 国土交通省事業 10 選 中部地方整備局 庄内川河川事務所

## 事業概要

事業名 庄内川しゅんせつ事業

事業個所 名古屋市港区当知町～名古屋市中村区稻葉地町

事業期間 平成18年～

所管事務所 国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所

庄内川では、平成12年9月の東海豪雨と同規模の洪水を安全に流下させることを目的に、しゅんせつ・堤防整備（嵩上げ、質的強化）等を中心に河川改修事業を実施しています。

特に河道断面が不足している下流部（河口から2km～12kmの区間）において、概ね平成30年度の完了を目指して、重点的にしゅんせつ工事を実施しています（総掘削量約110万m<sup>3</sup>）。このうち、比較的土質の良い7km～12kmの区間においては、掘削効率に優れ、河川敷からオペレータが操作する「水中ブルドーザ（国内保有数はわずか5台）」を複数台使用しコスト縮減に努めています。



しゅんせつ作業状況



水中ブルドーザ全景

# 国土交通省事業 10 選 中部地方整備局 豊橋河川事務所

## 事業概要

事業名	豊川大村地区弱小堤対策 堤防整備事業
事業箇所	豊橋市大村町
事業期間	平成 17 年度～平成 23 年度
所管事務所	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

豊川右岸の大村地区は、豊川本川と豊川放水路に囲まれた閉鎖型氾濫域で、人口及び資産が集中する地域となっている一方、この地区の堤防は、堤防断面が不足する弱小堤区間であると共に過去の出水で、度々、川裏部で漏水が発生しており、破堤・氾濫が懸念されていたため、漏水対策工を含む約 1km の堤防整備、樋管改築をすると共に約 7,000m<sup>2</sup> の水防拠点を整備しました。



全景



小見堂樋管



地元小学生の工事見学会



完工式の記念植樹

# 国土交通省事業 10 選 中部地方整備局 設楽ダム工事事務所

## 事業概要

事業名	設楽ダム建設事業
事業箇所	愛知県北設楽郡設楽町
事業期間	平成 15 年度～
所管事務所	国土交通省中部地方整備局 設楽ダム工事事務所

設楽ダムは、愛知県東三河地域を流れる豊川の上流約 70km の愛知県北設楽郡設楽町に建設される、堤高約 129m、総貯水容量約 9,800 万 m<sup>3</sup> の重力式コンクリートダムで、洪水調節と流水の正常な機能の維持、新規水資源開発（かんがい用水、水道用水）の 3 つの目的を持った多目的ダムです。

設楽ダム建設事業は、平成 15 年度から建設事業に着手し、本年 4 月には「設楽ダム建設事業に係る検証」において「継続」の対応方針が決定されました。現在は、付替道路工事、用地補償、各種調査・設計等を行っています。



豊川流域図



設楽ダム完成予想図



付替道路工事の施工状況



付替道路の橋梁完成予想図

# 国土交通省事業 10 選 中部地方整備局 名古屋国道事務所

## 事業概要

事業名 国道1号 愛知1号西部環境対策

事業箇所 名古屋市中川区高杉町～中川区富田町江松

事業期間 平成16年度～

担当事務所 国土交通省 中部地方整備局 名古屋国道事務所

当事業は、自動車NOx・PM法の対象地域内で、主要渋滞箇所及び事故危険箇所が存在する名古屋市西部の国道1号の円滑な交通の確保と沿道環境の改善を目的とした延長2.1km環境整備事業です。

最近では、平成26年3月28日に一色大橋の架替を含む中川区高杉交差点から下之一色交差点間の0.8kmを4車線で開通しました。当事業の整備により、交通混雑の緩和とともに、一色大橋を架替えたことにより、橋梁の安全性が向上しました。



一色大橋左岸側より岡崎方面を望む



庄内川下流側より一色大橋を望む



国道1号高杉交差点より四日市方面を望む

# 国土交通省事業 10 選 中部地方整備局 愛知国道事務所、 中日本高速道路名古屋工事事務所

## 事業概要

事業名 名古屋環状2号線

事業箇所 名古屋市中川区富田町～名古屋市中川区富田町

事業期間 昭和46年度～

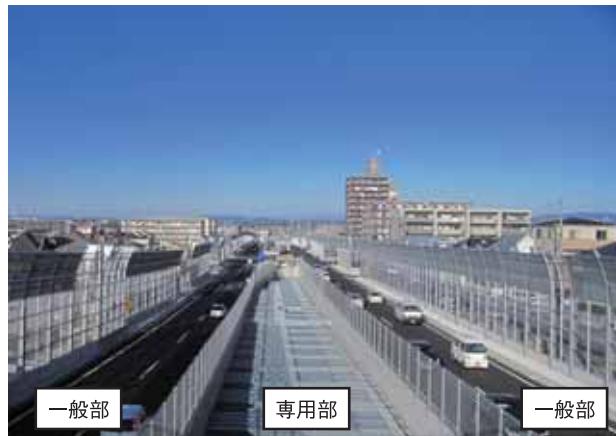
担当事務所 国土交通省中部地方整備局 愛知国道事務所、中日本高速道路名古屋工事事務所

名古屋環状2号線は、名古屋の外周部を通り、名古屋市を中心に放射状に伸びる幹線道路を主要地点で連結し、名古屋都市圏の道路網の骨格をなす総延長約66kmの環状道路です。

「一般部」と呼んでいる国道302号と「専用部」と呼んでいる自動車専用道路が立体的に並行した「複断面構造」から構成されています。現在約54kmが開通し、残る約12kmの整備を進めています。全線開通することにより、都市部に流入・集中する交通を適切に分散・迂回させ、交通混雑の緩和、社会経済活動の発展に寄与するものと期待されています。



原一丁目交差点より



名古屋市天白区しまだ歩道橋より



名古屋南 JCT

# 国土交通省事業 10 選 中部地方整備局 名四国道事務所

## 事業概要

事業名 国道23号 名豊道路

事業箇所 豊橋市東細谷町～豊明市阿野町

事業期間 昭和47年度～

担当事務所 国土交通省 中部地方整備局 名四国道事務所

国道23号名豊道路は、名古屋市と豊橋市を結ぶ延長約73kmの大規模バイパス（豊橋東、豊橋、蒲郡、岡崎、知立の5バイパスで構成）で、昭和47年度に着手して以降、順次開通しており、最近では、平成25年6月に豊橋バイパス・豊橋東バイパスが、平成26年3月には蒲郡バイパスの西部区間（約5.9km）が開通しました。残る蒲郡バイパスの東部区間（約9.1km）が開通すれば全線開通となります。

名豊道路は、三河港等の重要拠点を結び、自動車産業等の日本経済を牽引する“ものづくり産業”的物流を支援し、地域間の交流、連携に寄与する道路として、多い区間で一日10万台近い交通を支えています。



# 国土交通省事業 10 選 中部地方整備局 矢作ダム管理所

## 事業概要

事業者名 国土交通省矢作ダム管理所

キャッチフレーズ 矢作ダム～豊かな自然に囲まれたアーチダム～

事業期間 昭和46年度～

矢作ダムは矢作川河口より上流約80km地点の愛知県（豊田市閑羅瀬町）と岐阜県（恵那市串原）の県境に位置し、治水（洪水調節）と利水（農業用水、工業用水、水道用水、発電）を目的とする多目的ダムです。昭和41年度に工事着手し、昭和46年3月に5年の年月と総事業費145億円を要して完成しました。

矢作ダムの総貯水容量は8,000万m<sup>3</sup>あり、これはナゴヤドームの約64杯分に相当します。矢作ダムはこれらの水を用いて西三河の安全と発展を支えています。



矢作ダム全景



クレスト(非常用)ゲートからの放流  
(H12.9 東海豪雨)



ダム見学の様子



桜と矢作ダム



紅葉と矢作ダム



ダム湖に堆積した土砂の掘削工事



ダム湖設置した濁水対策フェンスによる効果

# 愛知県事業 10 選 尾張建設事務所

## 事業概要

事業名 新川西部流域下水道事業

呼称 新川西部流域下水道

事業個所 清須市及び北名古屋市

事業期間等 平成 17 年度～平成 37 年度（平成 25 年 3 月一部供用開始）

所管事務所 愛知県尾張建設事務所

新川西部流域下水道は平成 25 年 3 月末に供用開始し、愛知県で計画された 11 の流域下水道がすべて供用開始した。浄化センターは、清須市西枇杷島町地内に建設されており、当地は東海豪雨で多大な被害を受けたことから、災害時の避難場所としての機能や、地域の憩いの場となるよう、テニスコートや運動広場、緑地などを配置し、周辺環境に配慮した計画となっている。

庄内川、新川、五条川に囲まれ、水に恵まれたこの地域の環境を守るため、遅れていた下水道の整備を積極的に進めしていく。

## 現在の姿



処理場全景

## 懐かしき昔の姿



# 愛知県事業 10 選 尾張建設事務所 名古屋東部丘陵工事事務所

## 事業概要

事業名	東部丘陵アクセス事業
呼称	名古屋瀬戸道路 東部丘陵線（リニモ）
事業箇所	瀬戸市、日進市、長久手市、豊田市
事業期間等	平成 11 年度～平成 16 年度
所管事務所	愛知県尾張建設事務所 名古屋東部丘陵工事事務所

名古屋瀬戸道路は、名二環から東海環状自動車道を結ぶ地域高規格道路の一部区間として、日進 JCT から長久手 IC まで、平成 11 年度から着手し、平成 16 年 11 月に開通した。東部丘陵線（リニモ）は、地下鉄東山線（藤ヶ丘駅）と愛知環状鉄道（八草駅）とを結ぶ常電導磁気浮上式新交通システムで、平成 13 年度から着手し、平成 17 年 3 月に開業した。両事業は、広域的な交通ネットワークを形成し、自動車交通混雑を緩和する役割を担っている。2005 年に開催された愛知万博では、来場者の主要なアクセスとして活躍した。



名古屋瀬戸道路開通



東部丘陵線 リニモ



名古屋瀬戸道路 日進 JCT



リニモ開通式

# 愛知県事業 10 選 一宮建設事務所

## 事業概要

事業名	総合治水対策特定河川事業
呼称	一級河川青木川 青木川放水路
事業個所	江南市、丹羽郡大口町
事業期間等	平成 56 年度～平成 23 年度 (木曽川から昭和川までの暫定供用)
所管事務所	愛知県一宮建設事務所

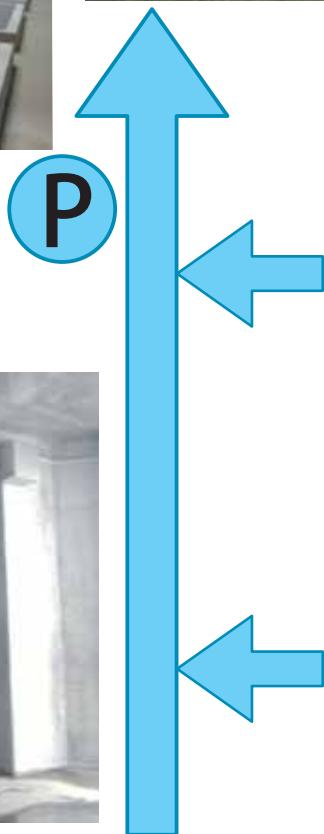
青木川を始めとしたこの地域の小河川は氾濫した木曽川の流れのあとに形成された。近年、流域の開発が進み、毎年のように浸水被害を繰り返してきた。青木川放水路は、これらの小河川を横断的に結び木曽川に排水する全長 5.2km の地下放水路である。洪水はいったん分水池に越流させたあとに放水路函体に流す。放水路を流下した水は、木曽川にある排水機場において毎秒最大 25m<sup>3</sup>のポンプで排水される。年に数回木曽川に放流し、浸水被害の軽減に寄与している。



排水機場ポンプ



木曽川



放水路函体



般若川



青木川

# 愛知県事業 10 選 海部建設事務所

## 事業概要

事業名 道路改良事業

呼称 名古屋津島線バイパス（大治七宝工区）

事業個所 海部郡大治町、あま市

事業期間等 平成6年度～平成24年度

所管事務所 愛知県海部建設事務所

（主）名古屋津島線は名古屋市と津島市中心部を結ぶ主要幹線道路である。防災面においても緊急輸送道路として重要な位置づけにある中、歩道未整備、幅員狭小および慢性的な渋滞等多くの問題を抱えていた。平成8年に名古屋市内～国道302号までの区間を4車線供用、そして平成24年5月19日に国道302号から県道須成七宝稻沢線までのバイパス区間（大治七宝工区）L=1.5kmを暫定2車線にて供用開始し、この区間における著しい交通渋滞が解消された。

引き続き津島市内に向かっての整備を促進し、この地域の円滑な都市・地域活動を支え、地域経済の活性化を図るためのバイパス整備を進めていく。

## 旧道の様子



バイパス開通前



バイパス開通後

## 現在の姿



名古屋津島線バイパス開通



# 愛知県事業 10 選 知多建設事務所

## 事業概要

事業名 名鉄常滑線等太田川駅付近連続立体交差事業

事業個所 東海市大田町地内始め

事業期間等 平成13年度～平成25年度

所管事務所 愛知県知多建設事務所

東海市を南北に貫く名鉄常滑線・河和線は、市の発展に重要な役割を果たしているが、自動車交通の増加に伴い踏切による交通遮断は渋滞をおこすとともに、地域の分断等は市街地の健全な発展の支障となってきた。こうした状況を解消し、都市交通の円滑化と健全な都市機能の発展をはかるため、太田川駅を含む区間の鉄道高架化を行った。この連続立体交差事業とともに、東海市の「顔・玄関口」にふさわしい中心街とするため、土地区画整理事業、市街地再開発事業が進められ、交通円滑化、生活環境・都市機能の向上等がはかられている。

## 懐かしき昔の姿



鉄道高架前



旧・太田川駅舎

## 現在の姿



太田川駅全景



賑わいの創出



新しい太田川駅

# 愛知県事業 10 選 西三河建設事務所

## 事業概要

事業名	主要地方道 岡崎碧南線 道路改良事業 都市計画道路 衣浦岡崎線 街路改良事業
事業個所	岡崎市上地町～岡崎市中島町
事業期間等	平成 8 年度～平成 26 年度
所管事務所	愛知県西三河建設事務所

東名岡崎インターより西尾市を経て衣浦港へ至る都市計画道路 衣浦岡崎線が、平成 26 年 3 月に全線開通した。都市計画道路として決定されてから半世紀を経て、街づくりの進展とともに区間を切り分けて、着実に道路整備を進めてきた結果、西三河南西部を貫く大動脈が一本の道路としてつながった。JR 東海道本線や新幹線との交差箇所をスムーズに通り抜けられる新しいバイパスが開通したことにより移動時間が大幅に短縮され、また旧道では住宅密集地を通過する交通量が減り、歩行者が安全に歩けるようになるなど交通事故の減少効果も期待されている。

## 旧道の様子



岡崎碧南線（旧道）の状況①



岡崎碧南線（旧道）の状況②



岡崎碧南線（旧道）の状況③  
(JR 東海道新幹線 交差部)

## 現在の姿



(都) 衣浦岡崎線（バイパス）  
(上地高架橋付近)



正名アンダーパス（バイパス）  
(JR 東海道新幹線 交差部)



宮脇跨線橋（旧道）  
(JR 東海道本線跨線部)



上地跨線橋（バイパス）  
(JR 東海道本線跨線部)

# 愛知県事業 10 選 知立建設事務所

## 事業概要

事業名 床上浸水対策特別緊急事業

河川名 一級河川 鹿乗川

事業個所 安城市木戸町、寺領町、小川町地内

事業期間等 平成 21 年度～平成 25 年度

所管事務所 愛知県知立建設事務所

鹿乗川は、その源を岡崎市北野町の水田地帯に発し、矢作川右岸低地を南流し、途中安城台地を流下してきた支川西鹿乗川を合流させ、矢作川 7km 地点に合流する流域面積約 44km<sup>2</sup>、河川延長約 16km の一級河川である。

平成 20 年 8 月の豪雨により鹿乗川上流部地区で多数の床上浸水が発生したことから、浸水被害の軽減を図るために、床上浸水対策特別緊急事業として、安城市内の鹿乗川(6k200 ～ 7k200)において橋梁の改築、河川断面拡幅などを重点的、緊急的に実施し、環境に配慮した多自然川づくりとした。

## 懐かしき昔の姿



## 現在の姿



寺領橋



# 愛知県事業 10 選 豊田加茂建設事務所

## 事業概要

事業名 急傾斜地崩壊対策事業

呼称 西ノ山区域

事業個所 豊田市保見町地内

事業期間等 平成 19 年度～平成 26 年度

所管事務所 愛知県豊田加茂建設事務所

西ノ山区域は愛知県の中部、豊田市の北西部に位置し、保全対象として人家 32 戸、非常時には緊急輸送路となる国道 155 号が被害想定区域内に位置し、土砂災害防止法により平成 21 年 3 月に特別警戒区域の指定を受けている危険箇所である。当該地は土質が強風化花崗岩で、高さ 25 m、勾配約 60° の崖地で、その崖下に住宅が密集しており、非常に危険な状態であることから、急傾斜地崩壊危険区域に指定し対策施設を設置することにより人家及び緊急輸送路の安全を図った。



現場打法枠+アンカーワーク



張コンクリート+アンカーワーク



緊急輸送路 国道 155 号



待受重力式擁壁工

# 愛知県事業 10 選 新城設楽建設事務所

## 事業概要

事業名	道路改良事業
呼称	一般国道 151 号（三輪バイパス）
事業個所	北設楽郡 東栄町 大字三輪地内
事業期間等	平成 14 年度～平成 21 年度
所管事務所	愛知県新城設楽建設事務所

一般国道 151 号は、長野県飯田市を起点とし、長野県、愛知県の両県山間部を抜け、愛知県豊根村、新城市を経て豊橋市に至る約 136km の道路であり、南信州地域と東三河地域との連携・交流を促進し、産業活動の活性のために重要な幹線道路である。

当該区間は、東栄町地内の事故が多発していた幅員狭小なトンネル、およびその前後の線形不良な箇所の解消を目的に改良事業を実施した。

## 旧道の様子



旧市原トンネル



旧海老嶋トンネル

## 現在の姿



市原トンネル付近



# 愛知県事業 10 選 東三河建設事務所

## 事業概要

事業名	東三河ふるさと公園（第一期区域）整備事業
呼称	東三河ふるさと公園
事業個所	豊川市御油町・国府町・御津町
事業期間等	平成 7 年度～平成 20 年度（平成 17 年度御油側開園、平成 20 年度御津側開園）
所管事務所	愛知県東三河建設事務所

里山の豊かな「自然」と旧東海道の宿場町に残る「歴史」をテーマに、東三河の「ふるさと」を再現することを目指して整備を進めている。現在、全体計画 174.8 ヘクタールのうち、第一期区域として 124.4 ヘクタールを開園している。平日は、中高年の方々が健康づくりに高低差のある園路でウォーキングを楽しめたり、近くの幼稚園児が遠足に訪れ、賑やかな声を響かせてくれている。休日は、子ども連れでピクニックを楽しめたり、ご夫婦で四季折々の花などを観に来られたりしている。また、自然観察会などの定例企画や春、秋のお祭りなどの開催により、ふるさと公園の魅力を少しでも多くの方に知っていただくための活動に取り組んでおり、平成 25 年度には約 26 万人の方にご来園いただいた。



# 愛知県事業 10 選 衣浦港務所

## 事業概要

事業名 衣浦港改修（防災安全対策）事業

呼称 武豊北ふ頭1号岸壁（-10.0 m）

事業箇所 知多郡武豊町字五号地地内

事業期間 平成19年度～平成24年度

所管事務所 愛知県衣浦港務所

重要港湾衣浦港はバルク貨物を多く取り扱っており、広域に渡って物流・生産活動を支えている工業港として発展し、また、災害時には緊急輸送道路と連携し、海上輸送基地として緊急物資を輸送する重要な港となっている。このため、「あいち地震対策アクションプラン」に基づき、「武豊北ふ頭1号岸壁（-10.0 m）、L = 185 m」を耐震強化岸壁として整備を行ったものである。

完成した耐震強化岸壁は、地震直後においても緊急物資などを輸送できる岸壁として、知多半島地域を支えていくものとして期待している。



ケーソン中詰改良工

## 現在の姿



衣浦港全景



捨石置換工



サンドコンパクションパイル工



緊急輸送道路との連携

# 愛知県事業 10 選 三河港務所

## 事業概要

事業名 三河港改修（防災安全対策）事業 三河港インターチェンジ 耐震補強工

呼称 三河港インターチェンジ（港大橋及び A・B・C・D ランプ）

事業個所 豊橋市神野ふ頭町始め

事業期間等 平成 15 年度～平成 19 年度（港大橋：昭和 55 年 1 期供用、平成 2 年 2 期供用 ABCD ランプ：平成 4 年供用）

所管事務所 愛知県三河港務所

三河港インターチェンジは、三河港のメインとなる神野ふ頭と船渡・田原の各ふ頭及び背後の豊橋市街を結ぶ臨港道路である。近年、大規模な地震への対策が急がれる中、船渡ふ頭の耐震強化岸壁と神野ふ頭及び背後の緊急輸送道路を結ぶ重要な輸送路として、地震発生時の人員や緊急物資を輸送するために、橋梁の耐震化整備（橋脚補強工）を実施した。



着前



施工中

現在の姿



施工中（鋼製函体締切）

# 市町・公社事業 10 選 名古屋市 緑政土木局

## 事業概要

事業名 都市計画道路3・5・156 豆田町線街路整備事業

事業箇所 名古屋市瑞穂区堀田通5丁目～豆田町5丁目

事業期間 平成5年度～平成23年度

所管事務所 名古屋市 緑政土木局

豆田町線は熱田区白鳥町から瑞穂区弥富町までを東西に結ぶ延長約5.3kmの都市計画道路（以下「都計」という。）であり、国道1号、都計東郊線及び都計名古屋環状線と連絡する幹線道路である。このうち、本事業区間は都計東郊線から都計高田町線（未整備）までの延長約700mである。この区間は、従来、幅員約7.3mの西行き一方通行であったが、これを往復4車線、幅員30mに拡幅整備するとともに、電線共同溝を併せて整備した。



# 市町・公社事業 10 選 豊橋市建設部 道路建設課

## 事業概要

事業名 幹線市道整備事業（市道 明海町・老津町 27 号線）

事業箇所 老津町地内ほか

事業年度 平成 21 年度～平成 24 年度

所管部局 豊橋市建設部 道路建設課

本路線は三河港臨海部の主要幹線道路である（主）豊橋渥美線と一般国道 259 号植田 B P を結ぶ幹線市道である。

整備前には、臨海部の大規模工場等の通勤交通などにより朝夕を中心に渋滞が顕著であり、今後臨海部の開発や一般国道 259 号植田 B P の開通によって更なる渋滞が懸念された。

渋滞の改善や物流及び広域交流の活性化のため、2 車線を 4 車線化したものである。開通後は朝夕の渋滞も解消され交通流の改善が図られた。

## 懐かしき昔の姿



老津町から明海町方面を望む

## 現在の姿



明海町から老津町方面を望む



多門田交差点



# 市町・公社事業 10 選 岡崎市土木建設部

## 事業概要

事業名 丸岡線及び丸岡新橋（乙川）整備

呼称 乙川 丸岡新橋

事業個所 岡崎市丸山町字由ノ木（右岸） 岡町字北久保、字沖中（左岸）

事業期間 平成 18 年度～平成 24 年度（新設）

所管事業所 岡崎市土木建設部

平成 27 年に家康公顕彰 400 年、翌 28 年には市制施行 100 周年といった記念すべき節目の年を迎える岡崎市から「丸岡新橋」を紹介させていただきます。丸山町と岡町を結ぶ丸岡橋は、昭和 45 年に架けられた幅員 4 メートルの狭い橋ではありますが、市の中心部と東部地域を結ぶ重要な役割を担ってきました。その後、高度経済成長とともに周辺地域で大型の事業所が次々に建設され、地域の発展と同時に自動車交通が増加し、朝夕の通勤時には激しい渋滞が発生し、歩行者や自転車も相当数あったため、バイパス路線として安全で円滑な交通の確保を図りました。

位置図



丸岡橋の交通状況



丸岡新橋

# 市町・公社事業 10 選 一宮市建設部まちづくり課

## 事業概要

事業名 JR尾張一宮駅前ビル整備推進事業

呼称 尾張一宮駅前ビル（愛称「i-ビル」）

事業箇所 愛知県一宮市栄3丁目1番2号

事業期間 平成20年度～平成24年度

事業担当課 一宮市建設部まちづくり課

一宮市の玄関口であるJR尾張一宮駅前に、公共公益施設を主体とした「交流・文化拠点」として、「尾張一宮駅前ビル（愛称「i-ビル」）」を平成24年11月に開館した。外観は、「せんいのまち」であることから、縦糸と横糸が織りなす織物の美しさをイメージしている。

市の顔となる駅前にふさわしい景観形成を図るとともに、図書館、子育て支援センター、市民活動支援センター、多目的ホール、イベント広場などの多様な機能を導入したことにより、都市機能・集客機能が向上し、中心市街地の新たな交流の生まれるにぎわい空間を創出している。

施設：中央図書館、貸会議室  
市民活動支援センター  
中央子育て支援センター  
多目的ルーム、商業施設  
ビジネス支援センター  
シビックホール、駐車場  
シビックテラス、交番  
観光案内所  
敷地面積：4,339.67m<sup>2</sup>  
建築面積：3,855.49m<sup>2</sup>  
延床面積：21,406.98m<sup>2</sup>  
構造：鉄骨造  
階数：地上7階、塔屋1階

受賞歴：  
2013年度 グッドデザイン賞  
2013年度 JIA優秀建築100選  
第45回 中部建築賞 入賞  
第21回 愛知まちなみ  
建築賞 大賞



# 市町・公社事業 10 選 春日井市建設部道路課

## 事業概要

事業名 都市計画道路高座線

事業箇所 春日井市玉野町から高座町まで

事業期間 平成 10 年度～平成 28 年度

所管 春日井市建設部道路課

春日井市の東部地区に位置する重要な幹線道路で、高蔵寺ニュータウンの東部や玉野地区から、JR 高蔵寺駅にアクセスする道路です。現在は踏み切りなどにより大変な交通渋滞をきたしていますが、この道路の開通により解消できるもので、地域からも早期の完成が望まれています。



玉川橋



高座町から玉野町方面を望む



(仮称) 新月見橋 床固工



(仮称) 新月見橋 橋台施工状況

# 市町・公社事業 10 選 豊田市都市整備部都市整備課

## 事業概要

事業名 足助香嵐渓地区 都市再生整備計画事業

事業個所 豊田市足助町

事業期間 平成 21 年度～平成 25 年度

担当部署 豊田市都市整備部都市整備課

足助地区は、愛知県の北東部の山間部に位置し、全国的に有名な紅葉の名勝「香嵐渓」と、『美しい日本の歴史的風土100選』に選ばれた町並みを有する、都市近郊型の農山村である。しかし、隣接する景勝地「香嵐渓」の賑わいと反し、歴史的町並みがある区域は、空き家や空き店舗が目立ち、かつて賑わいのあった街道沿いの町並みが失われつつあった。都市再生整備計画事業により、電線類の地中化及び道路修景整備等を実施し、町並みを保存・活用するまちづくりを進めた。



整備前



整備後（無電柱化及び道路修景整備）



整備前



整備後（橋梁修景整備）



歩行者サイン整備

# 市町・公社事業 10 選 名古屋高速道路公社

## 事業概要

事業者名 名古屋高速道路公社

キャッチフレーズ いつも近くに名古屋高速

事業箇所 名古屋市及びその周辺地域

事業期間 昭和 45 年度～

名古屋都市圏の基幹道路網として都心環状線を中心に放射状に拡がる名古屋高速道路は、この 10 年間で一宮線・清須線・東海線が開通しており、平成 25 年 11 月の東海線六番北～木場間の開通によって全計画路線 81.2Km が完成しました。

このうち高架構造は 90% を超え、それ以外はトンネル構造と半地下構造になっています。

全線開通により周辺の高速道路網と一体となって、交通の円滑化や利便性の向上などそのネットワーク機能をますます発揮しており、一日平均 30 万台を超えるお客様にご利用いただいております。



全線開通記念  
「わくわくサンキューウォーク」



いつも近くに  
**名古屋高速**



一宮線  
一宮 IC 付近

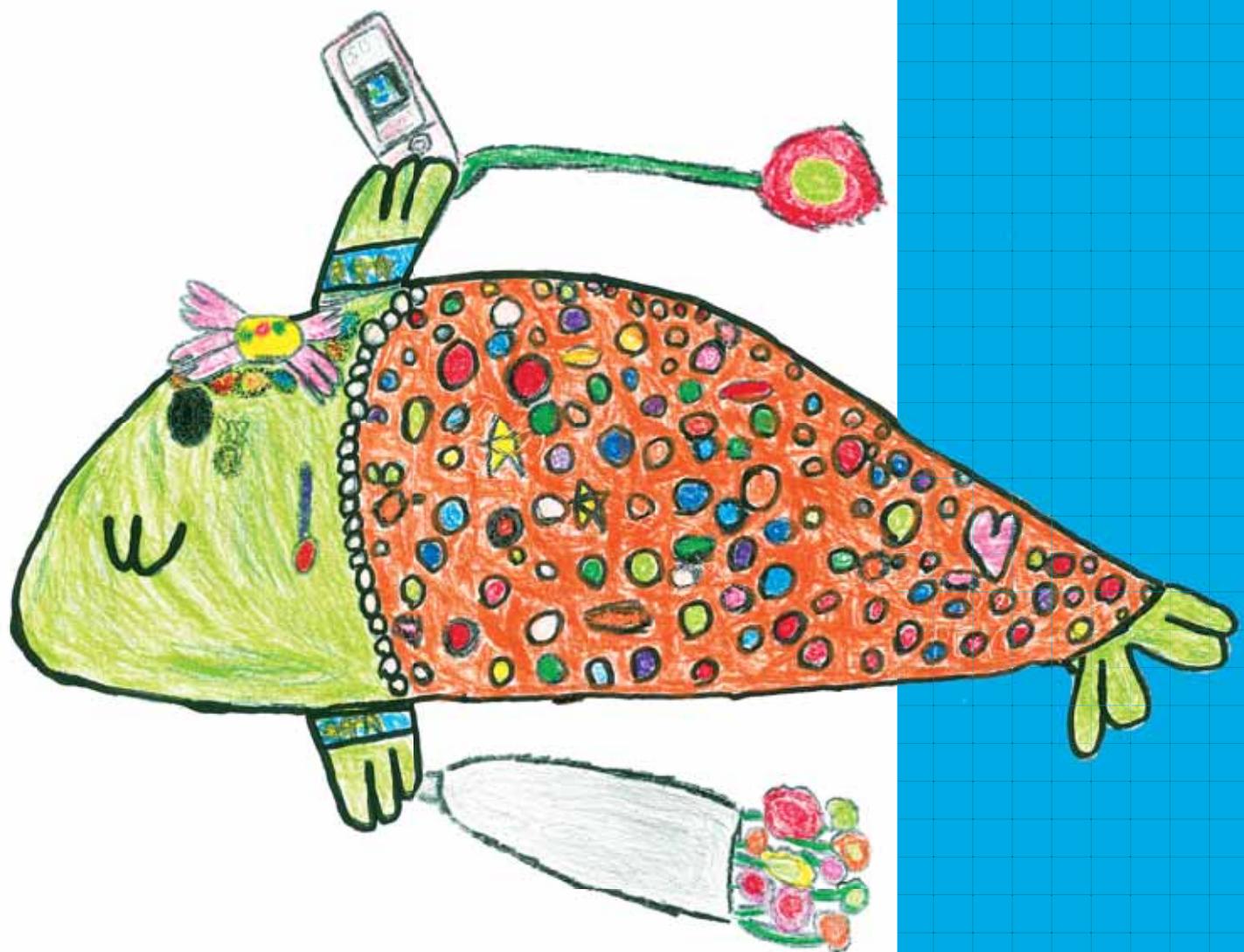


清須線  
赤とんぼ橋と一般国道 22 号新名西橋



東海線  
新幹線跨線部

記念行事



半田特別支援学校桃花校舎／玉置 大裕「おしゃれなアザラシ」

40th  
Anniversary



愛測協は障がいが有りながらも自立を目指す  
才能あるアーティストを応援します。

# 創立 40 周年記念行事

一般社団法人 愛知県測量設計業協会は、  
昭和 49 年 11 月 12 日に愛知県知事の許可を受け、発足致し、  
平成 26 年 11 月で創立 40 周年を迎えることができました。  
これも偏に関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。  
今後ともよろしく、ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。  
概要を報告いたします。



## 1. 開催日時

- 月 日 平成 26 年 11 月 11 日（火） 14 時～19 時 30 分
- 場 所 レセプションハウス 名古屋通信会館
- ご来賓

国土交通省中部地方整備局長	八鍬 隆 様
国土交通省中部地方整備局副局長	海野 修司 様
国土交通省中部地方整備局副局長	谷脇 曜 様
国土交通省中部地方整備局企画部長	森山 誠二 様
国土交通省中部地方整備局道路部長	大庭 孝之 様
国土交通省中部地方整備局地方事業評価管理官	田中 隆司 様
国土交通省中部地方整備局企画部企画調整官	舟橋 弥生 様
国土交通省中部地方整備局企画部技術調整管理官	山内 博 様
国土交通省中部地方整備局企画部技術開発調整官	岡田 武久 様
国土交通省中部地方整備局企画部総括技術検査官	中川 義治 様
国土交通省中部地方整備局道路部地域道路調整官	花木 道治 様



国土交通省名古屋国道事務所長	島村 喜一 様
国土交通省愛知国道事務所長	梅村 博 様
国土交通省名四国道事務所長	松田 正尚 様
国土交通省木曽川上流河川事務所長	大澤 健治 様
国土交通省国土地理院中部地方測量部長	黒石 裕樹 様
愛知県知事	大村 秀章 様
愛知県建設部長	平井 雄二 様
愛知県建設部技監	田中 義章 様
愛知県建設部建設企画課長	風岡 嘉光 様
愛知県建設部用地課長	茶谷 泰樹 様
愛知県尾張建設事務所長	広浜 全洋 様
愛知県一宮建設事務所長	向井 克之 様
愛知県海部建設事務所長	山田 祥文 様
愛知県西三河建設事務所長	多田 哲也 様
愛知県豊田加茂建設事務所長	安井 雅彦 様
愛知県新城設楽建設事務所長	鈴木 秀育 様
愛知県東三河建設事務所長	村澤 勇一 様
愛知県三河港務所長	山口 豊 様
愛知県企業庁技術監	種村充誉広 様
名古屋市緑政土木局長	黒川 和博 様
名古屋高速道路公社理事長	村上 芳樹 様
愛知県道路公社理事長	澤田 弘二 様
愛知県土地開発公社理事長	戸田 真生 様
(公財) 愛知水と緑の公社理事長	八代 一延 様
(公財) 愛知県都市整備協会理事長	川崎 昭弘 様
(一社) 中部地域づくり協会理事長	福田 晴耕 様

東海工業専門学校教務部長  
(公社) 日本測量協会中部支部幹事長  
(一社) 愛知県土木研究会長  
(一社) 建設コンサルタンツ協会中部支部長  
中部地質調査業協会理事長  
(一社) 日本補償コンサルタント協会中部支部長  
(一社) 全国上下水道コンサルタント協会中部支部長

野村 稔明様  
古橋 春二様  
松井 守夫様  
田部井伸夫様  
成瀬 文宏様  
秋山 学様  
安藤 敏博様

(一社) 全国測量設計業協会連合会長  
(一社) 静岡県測量設計業協会会長  
(一社) 岐阜県測量設計業協会副会長  
(一社) 名古屋市測量設計業協会会長

野瀬 操様  
杉山 博様  
市橋 博司様  
今村 鐘年様

#### 顧問

愛知県議會議員  
愛知県議會議員

倉知 俊彦様  
久保田浩文様

## 2. 記念式典

### ● 14時～15時20分

- 1) 開会の辞 協会副会長 今村 鐘年
- 2) 物故者追悼 黙祷

物故者名簿（平成16年11月以降の物故者の方々）

平成16年12月 高見 敬一様 中部復建(株)  
平成17年3月 石田 弘幸様 (株)石田技術コンサルタンツ  
平成17年7月 永草 信様 (株)中部テック  
平成17年11月 梅村 宣朗様 (株)丸太測量設計事務所  
平成18年3月 天野 馨様 アマノコンサルタント(株)  
平成18年10月 早川 史郎様 (株)オオバ名古屋支店  
平成19年1月 工藤 真澄様 (株)オオバ名古屋支店  
平成19年11月 神田 敏彦様 (株)神田設計  
平成22年9月 宮田 享様 愛測協 専務理事兼事務局長  
平成23年5月 西出 善助様 (株)大増コンサルタンツ



平成23年8月	橋本 昭二様	(株)旭調査
平成23年11月	松本 滋樹様	東栄測量設計(株)
平成24年1月	山田 耕造様	(株)名北総合技研
平成25年12月	高津要次郎様	(株)葵コンサルタント
平成26年1月	鈴木 健夫様	新晃コンサルタント(株)

### 3) 会長あいさつ

本日ここに愛知県知事様、国土交通省中部地方整備局八鍬局長様はじめ、多数のご来賓のご列席のもとに一般社団法人愛知県測量設計業協会の創立40周年記念式典を開催できますことは、関係者一同この上ない慶びであります。

愛知県測協は本日をもちまして創立40周年という節目を迎えました、ふり返れば昭和49年11月に愛知県知事より「社団法人愛知県測量設計業協会」として設立許可を頂き、昨年新公益法人制度の施行に伴い「一般社団法人」へ移行し現在に到っております。

当協会は創立以降社会環境の幾多の変遷を乗り越えてまいりました、平成21年に35周年記念をさせて頂いた節にはリーマンショックによる世界同時不況の渦中にあり、業界あるいは会員企業の存続に大変な危機感を抱いた記憶があります。その後5年の間には大きな政策大転換「コンクリートから人へ」のうねり、そして想像を超える「東日本大震災」と「福島の原発事故」の発生があり、積み重ねてきた歴史を翻す大きな出来事が発生した経緯から国土強靭化などの意識変化の中で「不惑」を迎えることが出来ました。このことは関係機関、関係団体の皆様のご理解とご支援の賜物でありますと共に協会歴代役員、諸先輩並びに会員の皆様のご努力によるものであり、敬意と感謝を申し上げます。

私共協会は測量・設計を通じてあらゆる社会インフラの前段を担い、且つ地域インフラの町医者の存在と自負しています。

ご出席の皆様すべての方が「ローマの道はローマに通ず」という言葉をご存知だと思いますが、歴史作家塩野七生さんの「ローマ人の物語X」の副題でもあります、紀元前に作られたローマ街道、特に紀元前312年に着工の延長540キロのアッピア街道について触れられており非常に興味を持って読みましたが、多くの驚きと新たな発見がありました。一部ご紹介を致しますが、まずその構



ご挨拶を申し上げる二村会長

造です車道は対向二車線で幅員4メートル、両側に排水溝が敷設され3メートル前後の歩道が両側に設置されており全幅10メートル強、車道の路盤構造が4層で深さ2メートルほど、当時セメントはあったものの石と砂利と粘土にて築造、驚くのは2,400年前のものが現在も現役で使われていることです、文字通りハードなインフラ整備がなされている事実、国土強靭化が呼ばれる中、歴史認識として再確認すべきではないかと思います。

当地域では東海・東南海・南海の三連動地震が懸念され又世界では日本を「災害のショウウインドウ」と表現していますが、私共協会員は、国・県との防災協定の締結をしていただいていますが、その為に日々技術伝承、技術研鑽に努めているものの、やはり健全な経営が大前提であります、その為に今まで以上にお一層の会員企業の活用をお願いさせて頂き、起業者の皆様のお一層のご理解を頂ければ幸いです。今後東京オリンピック、そしてこの地域にインパクトのあるリニア新幹線と夢をのせた大きなプロジェクトへの期待から、私共も何らかの形で関与し次なる周年を迎えたく思います。

今回私共の業界誌「方位」を40周年記念誌として皆様にお届けさせて頂きますが、地図教室開催支援事業にて「君の10歩は何メートル」として測量体験を行った小学生の感想文が掲載されています、非常に「純粋な夢」を感じられると思いますので紹介させて頂きます。

最後になりましたが本日御参列の皆様方の御健勝とご多幸を祈念申し上げて式辞といたします。

#### 4) 来賓のご紹介

本日、ご臨席を賜りました来賓の皆様を紹介致しました。



来賓の皆様方

## 5) 来賓祝辞

愛知県知事 大村 秀章 様  
自由民主党 測量設計議員連盟  
衆議院議員 工藤 彰三 様（代理）  
同 大見 正 様（代理）  
同 今枝宗一郎 様（代理）  
参議院議員 藤川 政人 様（代理）  
国土交通省中部地方整備局長 八鍬 隆 様  
全国測量設計業協会連合会長 野瀬 操 様

## 6) 顧問あいさつ

協会顧問 愛知県議会議員 倉知 俊彦 様



祝辞を頂戴した大村知事



祝辞を頂戴した八鍬局長



倉知顧問団長のご挨拶

## 7) 記念表彰

①国土交通省 土地・建設産業局長 感謝状

私共、（一社）愛知県測量設計業協会が感謝状を頂けることとなり、八鍬  
局長から二村会長に手渡されました。

②愛知県知事表彰

愛知県知事の表彰状が愛知県建設部の田中技監より受賞者に手渡されまし  
た。

廣瀬 博 （株）大建コンサルタント代表取締役

③（一社）全国測量設計業協会連合会 会長表彰

全測連の表彰状が野瀬会長より受賞者に手渡されました。

廣瀬 博 （株）大建コンサルタント代表取締役

④当協会より感謝状

当協会の顧問として、永年協会活動にご尽力頂きました顧問団長 倉知俊  
彦県議会議員様に会長より感謝状が手渡されました。



国土交通省感謝状を授与された二村会長



愛知県知事表彰を授与された廣瀬会員



会長表彰を受賞された会員の方々



受賞者を代表し謝辞を述べる廣瀬会員

## ⑤協会表彰規定に基づく表彰

### イ. 第3条第5号（会員で測量設計業に永年従事し、20年以上所属）

愛徳コンサルタント 株式会社	有限会社 大場測量設計事務所
株式会社 大屋測量設計	株式会社 酒井設計事務所
株式会社 伸 和	セイコー測量設計 株式会社
株式会社 つかもと	久松測量設計 株式会社

### ロ. 第3条第7号（協会の役員及び委員として永年その職にあった者）

青木 拓生	安藤 敦司	伊藤 宏	石田 徹
今村 鐘年	小沢 芳文	大場 邦弘	大西 俊次
梶川 洋	川口 英朗	香村 信男	酒井 誠
鈴木 善晴	筒井 正博	寺島 新吾	濱田 常雄
早川 友幸	浜田 哲也	馬場 慎一	日置 俊夫
藤本 博史	森 正樹	山田 雅登	山本 章好

### ハ. 第3条第9号（永年勤続事務局員・10年以上）

飯吉 智子	大島 里奈
-------	-------

計 26名

## 8) 閉会の言葉

協会副会長 青木 拓生

## 3. 記念講演会

- 15時30分～17時20分
- テーマ 「国土と日本人」…活力ある地域を後世に残すため
- 講師 一般財団法人 国土技術研究センター 国土政策研究所  
所長 大石 久和 様
- ～次章の講演録を拝読して下さい～

## 4. 記念祝賀会

- 17時30分～19時30分

- |           |       |                  |
|-----------|-------|------------------|
| 1) 開宴の言葉  | 当協会理事 | 中西 喜久雄           |
| 2) 会長挨拶   | 協会会长  | 二村 貴和            |
| 3) 乾杯のご発声 | 当協会顧問 | 愛知県議会議員 久保田 浩文 様 |
| 4) 閉宴の言葉  | 当協会理事 | 久松 頤             |



久保田顧問の乾杯のご発声



先人に感謝し万歳三唱



受付係ごくろう様でした



案内係ごくろう様でした

## 記念講演



三好特別支援学校／竹下 智彦「クアラルンプール」

40th  
Anniversary

## 記念講演

講師：大石 久和 様

国土地理学者

一般財団法人国土技術研究センター・国土政策研究所長

京都大学大学院特命教授

略歴：

昭和20年（1945年）兵庫県生まれ  
昭和45年（1970年）京都大学大学院工学研究科修士課程修了、建設省（現国土交通省）入省  
昭和61年（1986年）中部地方建設局沼津工事事務所長  
昭和63年（1988年）中部地方建設局企画部企画調査官  
平成5年（1993年）国土庁計画・調整局総合交通課長  
平成7年（1995年）建設省道路局道路環境課長  
平成8年（1996年）建設大臣官房技術審議官  
平成11年（1999年）建設省道路局長  
平成13年（2001年）国土交通省道路局長  
平成14年（2002年）国土交通省技監  
平成16年（2004年）財団法人国土技術研究センター理事長  
平成25年（2013年）一般財団法人国土技術研究センター・国土政策研究所長

著書

『国土地理学事始め』毎日新聞社（平成18年）  
『国土地理学再考「公」と新・日本人論』毎日新聞社（平成21年）  
『日本人はなぜ大災害を受け止めることができるのか  
—グローバル時代を生きるための新・日本人論』海竜社（平成23年）  
『国土と日本人—災害大国の生き方』中央公論新社（平成24年）

# 記念講演

## 「国土と日本人～活力ある地域を後世に残すために～」

ご紹介に預かりました大石です。本日は、2つの心配事をプレゼンテーションさせていただきます。ひとつは、わが国は財政や経済に対する理解の仕方、認識の仕方に大きな誤りがあるということ、もうひとつは、東京の一極集中により地方が崩壊しつつあるということです。インフラですべてが救えるとは言いませんが、しっかりとしたインフラを戦略的に用意する必要があるのではないかと考えています。それが今日全体を通して皆様方にお伝えしたいメッセージであります。



講師 大石 久和 様

### 1. 公共事業の概念について～財政および経済、インフラに対する認識の誤り

経済には「フローの経済」と「ストックの経済」があります。皆さんの企業において、測量や設計を行うということは、経済の活動で言うと、「フロー経済」にくくられます。今年、国土交通省中部地方整備局がどのくらいの測量業務を発注するのか、愛知県がどのくらいの設計業務を発注するのか。その仕事を通じて、経営者の皆さんには企業の経営、社員の生計が成り立つようにならなければなりません。それゆえに、皆様にとっての測量や設計業務は「フロー経済」ということになるわけです。しかし、こと公共事業においては、「フロー経済」だけで語るわけにはいきません。中部地方整備局をはじめとする発注者が何のために道路や港湾、河川改修計画の測量・設計を行うかと言えば、港湾で言うなら「将来的に大型コンテナ船が入れるようになる施設をつくる」、道路で言うなら「将来的に都

市と都市とが結ばれるようになる施設を完成させる」というビジョンを実現させるためです。すなわち、公共事業は、今年1年間の成果を求めるのではなく、将来にかけてどれだけの「ストック」が出来上がるかという努力をしているということになります。

しかし、残念ながらわが国は、「公共事業＝フロー」という観念から一歩も抜け出せていません。公共事業は本来、「ストック」を形成する手段であるにもかかわらず、それが認識されていないわけです。これは大変な危機であると感じています。長期にわたる日銀の政策の誤りにより、わが国は財政・経済において、大変に厳しい危機を迎えてます。これは「財政赤字が大きい」という意味から言っているではありません。財政や経済に対する理解の仕方、認識の仕方に大きな誤りがあることこそが危機



なのです。

例えば、民主党政権時代、道路の草刈りを無駄な作業、無駄な出費になるとしで、財政の節約のために年4回の草刈りを年1回に減らしました。そうすることで、草刈りの回数を減らしたから、財政からの支出を減らしたという認識に至るわけです。しかし、家計と財政は全く違います。家計で言えば、お父さんのお小遣いを減らすと、奥さんや子供のお小遣いが増えるという構造になります。しかし、国の構造はそうではありません。草刈りの回数を減らせば、草刈り業者は3回分の収入減となります。そうすれば、企業としては従業員の数を減らすか、従業員の給料を減らすしかありません。当然のことながら、草刈り機を買わなくなりますから、草刈り機を製造するメーカー、販売するメーカーも従業員を減らすか、給料を下げなければなりません。機械の部品メーカーも同様です。そうすると、各企業は法人税が払えなくなり、従業員も所得税を払えなくなります。すなわち、草刈りの回数を減らしたことによって、市場にお金が回らないという「負のスパイラル」が生まれてしまいます。今年度の財政支出は少し減ったものの、来年度以降の税収が永久に減るという本末転倒な結果になるわけです。

この構造をGDPの定義で考えます。GDPが増えないと税収はもちろん増えません。一般的にGDPが1%伸びれば、法人税が3%伸びると言われています。す

なわち、GDPを増やそうと思えば、公共事業を増やせばいいわけです。日本では20年もの間、歳出を減らしても減らしても、また減らさなければならない状況にあり、減らしたことを理由にまた減らさなくてはならないという恐怖の悪循環に陥ってしまいました。この20年間、マスコミをはじめ、世論は「公共投資=悪」の構図の下、公共事業の足を引っ張ることに必死でした。新聞がアベノミクスをどう評価しているかというと、「建設会社が政治家や官僚に賄賂を贈る汚職も相次いだ。極めつきは、財政の悪化だ。公共事業を増やしたせいなどで、政府の借金残高は90年度末の166兆円から、12年度末には約700兆円に達する」と書き立てます。すると、この紙面を読んだ一般国民は、「公共事業が財政赤字の原因」と勘違いします。しかし、実際には、国債の発行残高が530兆円増えた分は、建設国債（公共事業）が145兆円の増に対し、残りの385兆円は社会保障費などの別項目のものが増えているわけです。新聞の指摘する政府の借金残高700兆円の主な原因は、特例赤字公債の急増であり、財政の最大の危機は、高齢化が進んだための社会保障費、医療費の増大だったわけです。本来、マスコミがメスを入れるべきはここだということになぜ気づかないのか甚だ疑問です。新聞の作為とメディア報道のあり方に疑問を呈さざるを得ません。

わが国の経済・財政の問題点は、ひとつはデフレから脱却できること、もうひ

とつは成長しない経済下で税収が伸びないのに高齢化による社会保障費が急増していることです。しかし、世界的に見れば、人口が減っている国でもGDPが伸びている国はいくらもあります。わが国も、本来の趣旨に立ち返り、税収を上げることを議論しなければなりません。例えば、2013年の統計によると、日本は付加価値税率（消費税率）が5%で、国税に占める割合が約25%となっています。これに対して、スウェーデンでは付加価値税率25%で、国税に占める割合は18.5%しかありません。すなわち、消費税以外による税収確保を考えなければならないということは火を見るより明らかです。この問題点がメディアで伝えられることはあります。さらに踏み込んで言えば、公共事業の資金は、すべて建設国債のため、公共事業費を削っても他の予算費目に回らないという制度上の現実もあります。逆に言えば、公共事業費を増やしても他の予算費目を圧迫しないということになります。「公共事業を減らすということは、内需を減らしてデフレを促進し、経済成長を減速するだけ」ということに国民が気づき、メディアをも巻き込んだ眞の議論を望みたいと思います。

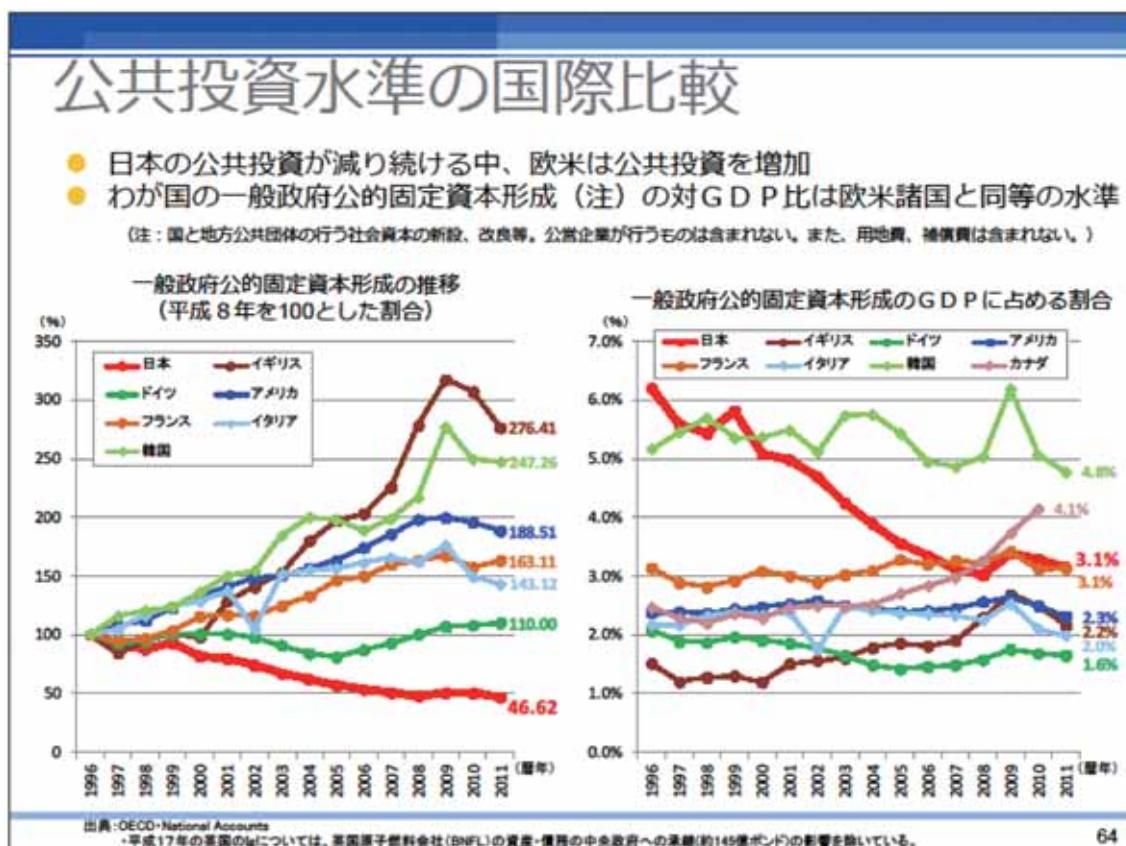
一方、「わが国は輸出大国であるから、輸出を伸ばせば経済は活性化する」と言われる方もみえます。輸出額をGDPで割り算し、各国の輸出依存度を算出すると、中国は25%、韓国にいたっては50%の輸出がGDPの占める割合となっています。

こうした国において、「輸出を伸ばせばGDPが伸びる」という議論は間違ってはいません。では一方、日本はどうかというと、GDPに占める輸出の割合は13%しかなく、他国に比べて圧倒的に低い水準であることがわかります（表1）。すなわち、85%以上は内需で回っているというところです。それにも関わらず、公共投資水準の国際比較を見れば（表2）、欧米は公共投資を増加させる中、日本の公共投資は減り続けています。なぜ先進国の中で日本だけが違う方向へ船を進めているのか？その答えは、「インフラストラクチャーの概念」がこの国では欠けているからです。社会を支える基礎構造は社会の前提条件であり、これが充実していないことにはプライベートな活動が豊かなものになりえませんし、安全で効率的なものになりません。インフラストラクチャーの概念は、「ひとりひとりの努力ではなく、みんなのために、みんなの力で、みんなのお金で整備する」というものです。インフラストラクチャーには、「法律」に代表される「制度インフラストラクチャー」

表1

各国の輸出依存度（2012年）	
日本	13.4%
韓国	48.5%
中国	24.9%
アメリカ	9.9%
イギリス	19.5%
ドイツ	41.5%
フランス	21.4%

表2



と、「道路」「港湾」などに代表される「装置インフラストラクチャー」とがあります。その両インフラストラクチャーが相まって国および社会の基礎構造になり、個々人が充実する生活を送り、安全・快適・効率的に暮らせることになります。しかし残念ながら、わが国では依然この考え方方にたどり着いていません。

その結果、道路ネットワークの現状を見ても分かる通り、日本では1時間で51kmしか移動できないのに対し、ドイツでは1時間で90kmの移動を可能にする道路網が整備されています。面積で計算すると、日本が8200km<sup>2</sup>であるのに対し、ドイツは2万5000km<sup>2</sup>ということになります。これを企業活動に当てはめると、ドイツでは

1時間当たり日本の3倍のエリアに商品や製品、部品を納めることが可能になっているということです。この数字を見ても、日本はまだまだ国土を有効に使えていないことが分かります。これで社会基盤整備が十分と言えるでしょうか。諸外国の高速道路整備延長の変化を見ても（表3）、フランスは人口6430万人に対し、高速道路の延長が1万1413kmで、年平均増加量が135kmであるのに対し、日本は人口1億2730万人に対し同8021km、同106kmとなっています。これでは経済を活発に回すことはできません。ネットワークが欠如しているからです。港湾も同様で、大型コンテナが入ることができないような港湾の整備状況では、国際基幹航

表3

諸外国の高速道路整備延長の変化			
	人口 (2013年)	2001年 → 2011年	年平均増加量 (直近10年間)
中国	13億8560万人	19,437km → 84,946km	6,551(km/年)
アメリカ	3億2010万人	89,468km → 100,872km	1,140(km/年)
フランス	6430万人	10,068km → 11,413km	135(km/年)
韓国	4930万人	2,637km → 3,913km	128(km/年)
ドイツ	8270万人	11,786km → 12,845km	106(km/年)
日本	1億2730万人	6,959km → 8,021km	106(km/年) <sup>※</sup>

(注) ①世界主要都市を対象として、その都市名及び付近の高速道路網の整備状況を示す。②このデータは、国土交通省の「世界主要都市の高速道路網の整備状況」(2013年版)による。③このデータは、国土交通省の「世界主要都市の高速道路網の整備状況」(2013年版)による。④これは以外に一般国道の自動車専用道路等が約3000kmある。

出典: 国土交通省統計局「世界主要都市の高速道路網の整備状況」(2013年版) <http://www.mlit.go.jp/statistics/011.html#01>

路がわが国の港湾に寄ることが無くなり、わが国の貨物はアジアの主要港で積み替えて輸送されることになります。すなわち、輸送コストと時間は無駄に増加します。これでは世界との競争に勝てるはずがありません。こここのところ円安が進んでいるにも関わらず、わが国の輸出は一向に増えません。これはインフラ整備水準が劣位化したことに起因するものと私は考えます。

これは、わが国のメディア、経済学者が「ストック」の意味を理解できていないことから生じています。メディアはこう書きます。「公共投資の追加は一時的な効果しかもたらさない」「公共投資が経済全体をかさ上げする効果は弱まっている」「公共事業は一時的に景気を上向かせるものの、国の財政を悪化させるとの見方が今は定説」。経済学者はこう発言します。「公共事業費の増額は波及効果が限定的で時代錯誤だ」「短期的な景気対策が必要としても（中略）公共事業など裁量的な政策対応の必要性は限定的だ」。いずれの発言も、公共事業を「フロー」でしか理解

できない典型的な発言です。繰り返しになりますが公共事業は「ストック」です。道路がつながることによって物流は円滑化し、その効果は未来永劫、恒久的なものとなります。「公共事業」は、インフラという「ストック形成」の手段です。今現在のための投資ではありません。現時点、われわれが享受している「インフラの形態」も、過去から脈々と受け継がれてきたものであるということを、われわれは決して忘れてはなりません。

## 2. 海外のインフラ整備は ～ストックとしての充実を語る海外～

2012年4月29日、民主党の野田佳彦代表は、「まだまだ至らぬ点があることを率直にお詫び申し上げるが、公共事業費を3割以上削減するなど、政権交代以前にはできなかったことが次々と実現している」と発言しました。果たして、それは何をしたことなのでしょうか？私はこう考えます。①将来世代がより安全に、より効率的に、より快適に暮せたり、活動できたりする環境整備を遅らせた、②デフレスパイラルの泥沼にある国で、内需を縮小して、デフレを放置した、③わが国の経済成長をおさえ、経済競争力の向上を阻んだー。まさに、この発言から見ても分かるように、わが国の首脳は「公共事業」というフローの表現に引きずられた思考しか持てないわけです。

一方、海外を見ると、各国は競争力を高めるために社会資本整備を積極的に行っ

ています。首脳の発言を見れば一目瞭然で、アメリカでは、オバマ大統領が2014年度の「予算教書」を提出した祭（2013年4月10日）、「21世紀のインフラの構築」①道路既存インフラの補修と将来のインフラ整備に投資②500億ドルをインフラの先行投資に充てる。そのうち高速道路、橋梁等の緊急補修＝Fix it First「まず補修せよ」プロジェクトに400億ドル③インフラへの民間投資を加速するため「国家インフラ銀行」を設立④高速鉄道、航空システム、高速等のレベルアップのためのファンドを確保⑤プロジェクトの許可手続きを短縮する改革を実施－、と発言しました。また、2013年7月には①国家経済の成長に向け、交通プロジェクトへの予算増額の必要性を強調②国との経済競争に遅れをとると警告－、2013年11月8日には、実際に雇用を創出し、経済を成長させることに投資すべきだ。その一つが、新しい道路・橋梁・学校・港湾の建設である。（中略）アメリカのインフラのことを考えてみてほしい。今日の世界経済に於いて、最も速く信頼性ある交通・通信網が存在する場所であればどこでも事業活動は定着し、発展する。すなわち、事業活動はどこでも行うことが可能なのである。そのため、中国ではインフラに大規模な投資を実施している。また、欧州もブラジルも非常に多くの資金をインフラに投資している。我々は何をしているのだろうか？－。2014年1月28日、さらにわれわれは、税制改正を進める中で確保した予

算を、道路の改築、港湾機能の向上、通勤・通学の混雑解消のための仕事にあてることができる。なぜなら、今日のグローバル経済の中では、第一級の仕事は第一級のインフラに引き寄せられるからである－。2014年5月14日、新たな仕事を創出し、米経済を刺激する最善の方法の一つは、国内のインフラを再構築することだ。（中略）アメリカが世界第一の経済超大国に成長した理由の1つは、世界最高の交通システムを作りあげたことだ。しかしながらこの50年間で、交通分野の投資は50%縮小した。他国はどうか？欧州諸国は我々の2倍、中国は4倍もの投資を交通分野で行っている。（中略）企業を、人を、サービスを動かす良質なインフラがある所に企業は集まる－と、事あるごとにインフラ整備の重要性を訴えています。

アメリカ以外の国でも、イギリスのトニー・ブレア首相は、2004年10月、「優れた交通システムは、経済および社会の繁栄に欠くことのできないものである。（中略）わが国の交通システムは何十年にもわたって過少投資の状態が続き、損害を被ってきた」、同国キャメロン首相は、2012年3月19日、「インフラは、現代生活を支え、経済戦略の重要な要素であることから、後回しにできる課題ではない。インフラは、国のビジネスの競争力に影響し、またビジネスを成功へと導く見えない糸である。（中略）インフラは、今日では想像できないような明日を実現する力を持っている。もし、我々のインフラ



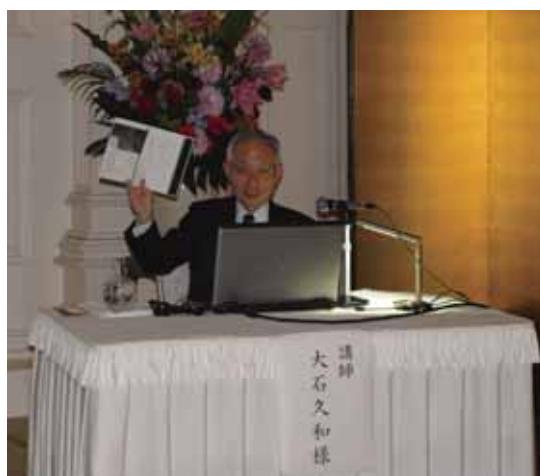
会場風景

が二流になれば、我々の国も二流になる」と発言。イタリアのロマーノ・プロディ首相は、2006年3月16日、「インフラストラクチャーへの投資を怠っては、グローバル化に伴う競争の中でイタリアは生き残ることができなくなる」、スペインのペドロ・ソルベス経済財務大臣は2006年10月17日、「交通インフラへの投資を増額させることで、わが国の経済を活性化し、競争力を強化し、国内および欧州諸国との連絡を改善することができる」、ドイツのペーター・ラムザウアー連邦交通大臣は、2013年5月1日、「成長と雇用創出は、適切な交通インフラと高いモビリティ水準によってのみ可能となる」と発言しています。

さらに、ドイツのアンゲラ・メルケル首相は、2013年12月に出された連立政権の3党合意文書の中で、「交通分野の基本姿勢として、モビリティは個人の自由、社会参加および豊かさと経済成長のための重要な前提となるものである。そのために必要な基盤が質の高い交通インフラである。それは、欧州およびグローバル

社会におけるドイツの競争力を保障するものとなる。(中略)長年にわたる構造的な過少投資に対して、根本的な改革により交通路の計画および財源確保を、長期的な信頼性と実効性のある新たな基盤の上に築いていきたい」と発言し、ドブリント連邦交通デジタルインフラ担当大臣も、「経済成長なしに繁栄が可能であるという認識は完全に誤っている。また、交通の増加なしに経済成長をなし得るという認識も同様である。インフラは、成長と繁栄の原動力である」(2014年5月1日)と述べています。さらに、国際通貨基金IMFサーベイですら、2014年9月30日、「公共インフラ投資の増加は、残された数少ない成長促進のための政策手段である。(中略)公共インフラへの投資の拡大は、短期的には需要の増大、長期的には経済の生産能力の向上により、生産を向上させる」と発表しています。

各国首脳の上記の発言を見ても、日本だけが違う方向に向かっていることは明らかです。現在の民主党の代表を務める海江田万里氏は、2014年9月14日の読売



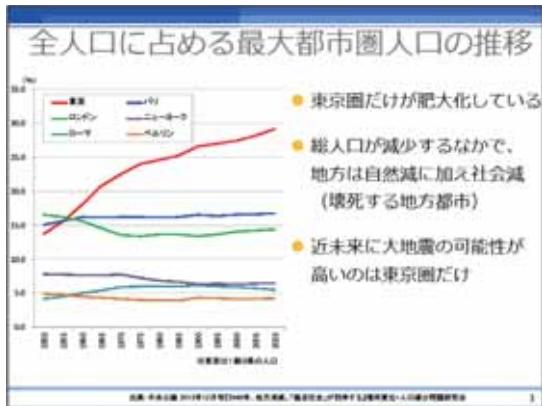
新聞の中で、「地方創生という言葉によって無駄な公共事業が復活することのないよう、野党としてしっかりチェックしたい」と発言しています。このような発言は、政治家だけに留まりません。国内の有識者の中でも同様の発言が繰り返されています。例えば、株式会社経営共創基盤の富山和彦氏は、2014年9月4日付の日本経済新聞の中で「労働者が減って公共事業のような政策は効果が薄い」と述べているほか、株式会社第一生命経済研究所の永濱利廣氏は2014年9月16日号の週刊エコノミストの中で、「(ガソリン税)のトリガー条項の発効に伴い月額1500億円の財源が必要だが、それはすでに人手不足や資材高騰で入札不調となっている公共事業予算から回すことが可能ではないか」、BNPパリバ証券株式会社の河野龍太郎氏は2014年9月8日号の日経ビジネスの中で、「さらなる財政出動は、民間の建設投資をさらに抑制してしまうリスクがある」と発言しています。しかし、彼らの発言は本当に的を射ていると言えるでしょうか？本来、海江田代表の言う「無駄」の定義は何なのでしょうか？また、永濱氏や河野氏の「人手不足」「民間の建設投資の抑制」という発言は、現実とはかけ離れたものとなっています。なぜなら、建築業と土木業において、根本的に技術者が異なるということを分かっていないからです。建築において技術者が不足しているという現状があったとしても、土木ではそうとも言い切れません。公共事業

のせいで人手不足になり、民間抑制をしているという論理はありません。さらに言えば、公共事業が民間投資を牽引している事実にも蓋をしてしまっています。例えば、関東の圏央道沿線における企業立地状況を見ると、圏央道沿線では、開通後、新規工場の立地面積の伸びは、全国平均の約3.6倍、1都4県平均の約2.4倍になったという結果が出ています。結論から言えば、公共事業を進めることによって、民間の建築投資を誘引していることが分かると思います。圏央道（東京・神奈川区間）の整備効果（企業立地、雇用・税収）を見れば、相次ぐ大型物流施設の新設は相模原市内だけでも5カ所、市は雇用の創出や税収確保に期待を膨らませているのです。実際に、加山俊夫市長は「5カ所で5千人の雇用が生まれ、固定資産税など税収増も8億円ぐらいになるのでは」と推計し、大きな期待を寄せています。民間投資を阻害するどころか牽引しているわけです。日本国内で間違った説明が繰り返されることで、公共事業不要論が蔓延していることは、決してわが国のためにならないということを、国民に知らせることが必要だと私は考えております。

### 3. 東京圏の一極集中について ～東京・首都圏を壊滅的大自然災害が近未来に確実に襲う～

さて、話を変えて、東京の一極集中により地方が崩壊しつつあるという現状についてプレゼンを進めていきたいと思い

表4



ます。三大都市圏と地方圏の人口推移を見ると、地方圏から三大都市圏への人口流出には3度の大きな山があり、単調に人口流出してきたわけではないということが分かります。全人口に占める最大都市圏人口の推移を見ても、東京圏だけが肥大化しています（表4）。総人口が減少するなかで、地方は自然減に加え社会減を起こしてしまっているわけです。東京に本社を置く上場企業数を見ても、1992年に1651社（78%）だったのが、2012年は2293社（86%）になっています。首都圏では、面積3.6%に対し、人口27.6%、大学生40%、銀行貸出残高50%と数字が出てきます。こんな「いびつ」なことを放置していくいいわけがありません。もしも、東京・首都圏を壊滅的大自然災害が襲ったら、即座に日本自体が壊滅する危機となるわけです（表5）。これは決して夢物語ではありません。過去の事例を見ても、災害集中期は必ずやってきます。近未来、東京・首都圏を壊滅的大自然災害は確実に襲ってきます。経済評論家は、「効率性の高いところに人・モノ・金が集

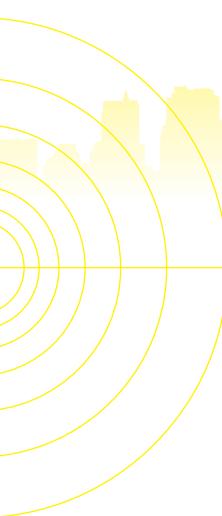
表5

首都直下・南海トラフ等地震の被害想定	
<b>&lt;首都直下地震&gt;</b>	
●死者 2.3万人、建物被害 61万棟、経済被害 95兆円	(H25.12.19 首都直下地震対策WG最終報告 (内閣府))
●東京都の死者 9700人、建物被害 30.4万棟、避難者 339万人	(H24.4.18 関西圏直下地震等による被害想定 (東京都試算))
<b>&lt;南海トラフの巨大地震&gt;</b>	
●死者・行方不明者 32.3万人、経済被害 220兆円	(H24.8.29 H25.3.18 南海トラフ巨大地震の被害想定 (内閣府試算))
●大阪府の死者 13万人	(H25.10.30 大阪府域の被害想定 (大阪府試算))

まっているのは、経済的に合理性がある」と論じていますが、それならば、現在の日本は本当に経済成長しているのでしょうか？答えは、残念ながら「NO」です。世界的に見ても、都市への一極集中が経済成長をもたらした事例などありません。ミュンヘン再保険会社が「Topics 2002」で公表した世界の大都市の自然災害リスク指数を見ても、トップの東京・横浜は710というポイントであるのに対し、2位のサンフランシスコは167、3位のロサンゼルスは100であり、北京やソウルに至っては15しかありません（表6）。このような状況では、海外からの直接投資がくるわけがありません。一時期話題になった

表6





「首都機能移転議論」は、2011年に首都機能移転企画課が廃止となつたことで立ち消えとなつてしまつました。現在、わが国ではこのような危機的状況にもかかわらず、何の用意もされていないわけです。安倍晋三総理の提唱する「地方創生」による分散計画一体の議論を今後期待するしかありません。元岩手県知事の増田寛也氏はこのような現状を、「東京の一極集中と地方の崩壊」「壊死する地方都市」「消滅都市」などという言い方をしていますが、まさしくそういう状況になりつつあります。ここまで私はインフラ整備の重要性を唱えてまいりました。インフラですべてが救えるとは言いませんが、しっかりととしたインフラを戦略的に用意すれば、何らかの解決策が見えてくるのではないかでしょうか。それが今日全体を通して皆様にお伝えしたいメッセージなのです。

では、そもそもインフラはどのようにして始まつたのでしょうか？ J Mロバーツは「世界の歴史①」（創元社）の中で、「都市の出現が文明を生み出す強力な原動力となり、ほかのどんな要因よりも変化や創造を促進する力となつたことはまちがいない」と論じています。都市は、農業生産にかかわらない人々の存在があつて、生産余力ができたことによって出現しました。それに伴い、大勢の人が安全のために寄り集まつて、互いに刺激し合うことで文明ができてきました。そして、安全を守るために「都市城壁」が生まれたわけです。

「C I T Y = シテ（都市）」はラテン語の「キヴィタス（civitas）」から派生したと言われています。「キヴィタス」とは「壁の内側の、人が密集している場所」という意味です。同じように、中国語の「國（国）」は、もともと城壁で囲つた「みやこ」という意味の都市を指します。「城壁の中で、戈（ホコ）を以て守る姿」を表していて、敵が攻めてきても撃退するという意味があり、それが現在でいう「国」となつたわけです。さらに、「邑」はどうでしょう。囲い（城壁や城柵）に象る「口」と、ひざまずいた人に象る「冂」の会意文字から成り立っています。殷代の「邑」は、首長の居住所や宗廟等、中核となる施設を丘陵上に設けて周囲を頑丈な城壁で囲い、さらにその周囲の一般居住区を比較的簡単な土壁で囲うという構造のものでした。戦時には、住民は丘陵上の堅固な城壁で囲まれた区画に立てこもり防戦しました。すなわち、壁の内側に暮らさなければ、命を落とすという意味が込められているわけです。しかし、内側に暮らすことは権利であると同時に義務を伴うことも事実です。狭いエリアで多くの人が暮らすためのルールの制定と遵守があり、これこそが市民の誕生へのルーツとつながつていきました。いつ何時敵に囲まれても対応できる非常時モードの用意と日常化で長期的・網羅的・合理的思考が生まれました。それが「公共」という認識の誕生の瞬間です。壁という「装置インフラ」の重要性を認識したことから「都市」「国」

「邑」が始まったというわけです。

5500年前、建設・都市城壁を発明した人類最初の都市国家「シュメール（西歐文明＝世界文明の発祥）」が誕生しました。この都市国家には、灌漑設備を設け、農業の生産性を飛躍的に伸ばしました。彼らは「装置インフラストラクチャーがなければ命が守れない」ということを5500年前から認識していたわけです。シュメール誕生以降、全世界にはそうした「装置インフラストラクチャー」を備えた都市が数多く出現します。カルカソンヌ、パリ、ティエール（フランス）、ローテンブルグ（ドイツ）、アビラ（スペイン）、西安（中国）、平遥（中国）、韓国などいずれの都市にも「城壁」が数多く遺産として残っています。これらは全て「城壁インフラストラクチャー」という認識の下に作られ、都市が栄えました。一方わが国ではどうでしょう。残念ながら、平城京ですら城壁の存在を示す記述はありません。すなわち、わが国では有史来、インフラストラクチャーの認識が希薄な文化を築いてきたのです。

インフラ観の大きな懸隔（ゆがんだインフラ観）は有史来、わが国に根付いてきたものもあります。ヨーロッパのように、社会には装置しなければならないインフラがあり、それなしには生活できない文化に比べ、日本では、小規模灌漑設備以外のインフラは不要であり、集落による普請のみで成り立ってきました。現在にも通じるわけですが、例えば身近な例を上げると、マンション・家屋のドア

の開き方を見ても分かるように、日本のみが外開きで、セキュリティーの低さを憂慮するよりも、室内を広く使って便利な方を選ぶという文化があります。これは、民族の思考癖を規定するもので、戦争や虐殺を伴う紛争死などにより最愛の仲間の大量死の経験を経た海外では当たり前の文化が、その大半が自然災害死である日本の文化の中では当たり前には捉えられません。この認識の違いが大きな差を生んでしまったということです。

しかし現在、そのようなことを言っている場合ではありません。なぜなら、インフラを享受しているわれわれは、過去のインフラ整備に感謝し、未来に新たなインフラを残さなければならない責務があるからです。実際に、すでに過去の公共事業の恩恵を受容できる差が出始めていることも明らかです。例えば、国内の地下鉄整備網を見ても一目瞭然です（表7）。1927年（昭和2年）に供用開始した東京メトロが総延長195.1kmに対し、1957年（昭和32年）に供用開始した名古屋市営地下鉄の総延長は93.3kmです。この違い

表7

過去の公共事業の恩恵				
	札幌市営地下鉄	東京メトロ	名古屋市営地下鉄	京都市営地下鉄
初乗り料金	200円	170円（きっぷ） 185円（ICカード）	200円	210円
総延長	48.0km	195.1km	93.3km	31.2km
最初の供用	1971年（昭和46年） 地下鉄南北線開業 （筑駒内～北24条駅）	1927年（昭和2年） 初の地下鉄東京開業 （渋谷～上野駅）	1957年（昭和32年） 地下鉄東山線開業 （名古屋～一社駅）	1901年（明治34年） 地下鉄丸ノ内線開業 （北大路～京都駅）

は何かといえば、人口総数の差も然ることながら、着手時期が大きな差となって現れたのです。当時、東京メトロ供用開始時の総事業費は4000万円でした。これが、現在同じ距離の地下鉄を整備しようとするならば、おそらく1キロ200億円はくだらないことでしょう。もしも更なる地下鉄網を整備しようとすると莫大な費用が掛かってしまいますから、容易に地下鉄整備事業を始めるわけにはいきません。その結果、現在に至る大きな差を生んでしまったわけです。東京メトロと名古屋市営地下鉄の200円以内で行ける範囲について、東京駅から200円で行ける範囲は全駅数142駅の内118駅。これは東京メトロ全駅数の83%となります。一方、名古屋駅から200円で行ける範囲は全駅数86駅の内11駅、地下鉄全駅数の13%にしか満たないのでです。繰り返しになりますが、東京は過去からの補助金を受けているというわけです。現代人は、過去の遺産で利便性を得ているのです。過去の人々が投資したおかげで、現在の人々が恩恵を受けているのです。当時の先見の明、天才的な見通しで地下鉄を作ったからこそ、現代人は東京のネットワークが享受できているのです。

こう考えれば、私たちはインフラ整備を通じて、将来世代に貢献する責務があると考えます。河川改修、道路整備など、現代人もメリット、恩恵を受けることができます。しかし、70歳の私であれば、その恩恵を受けることができるるのは、あ

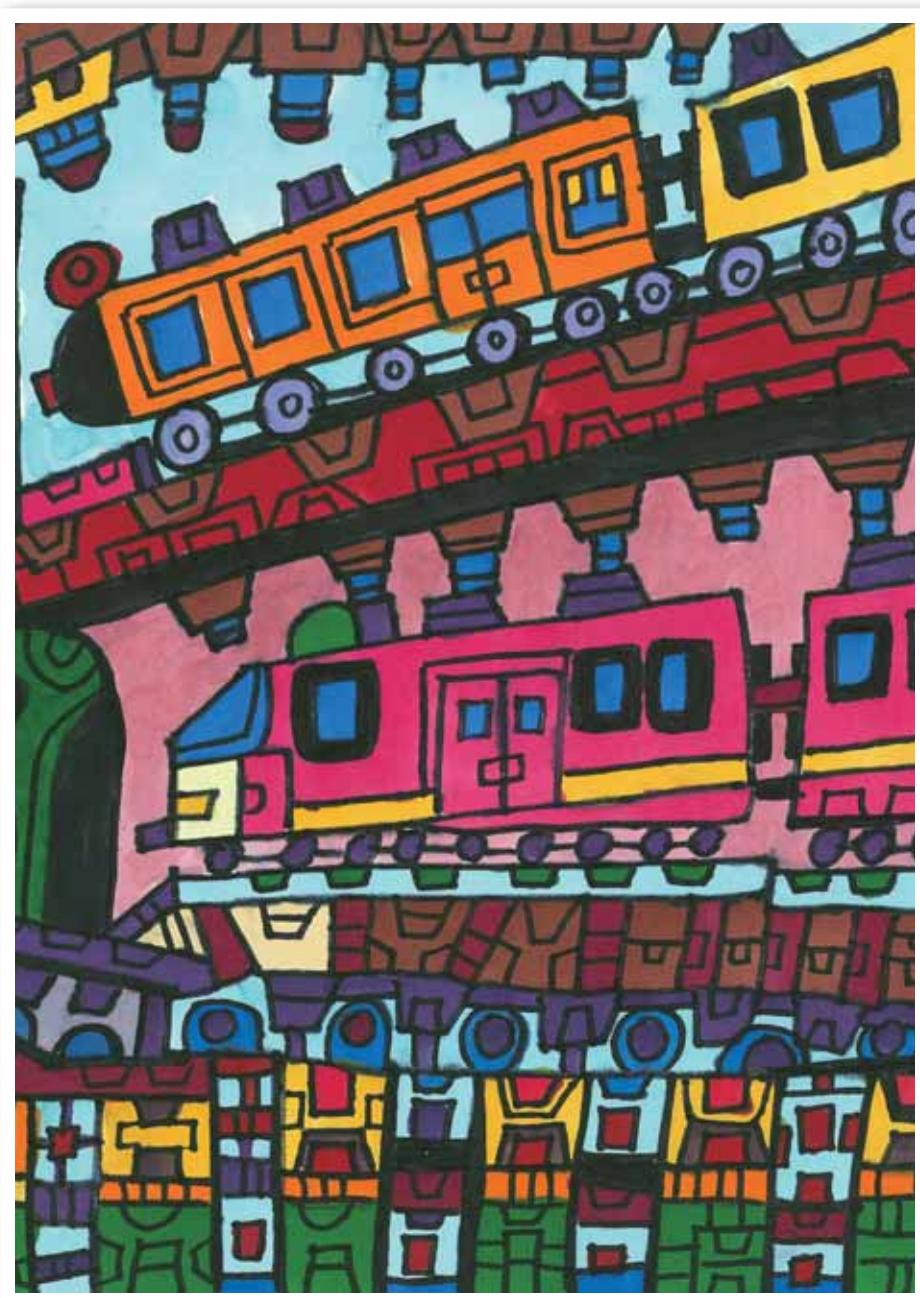
とせいぜい20年ていどでしょう。しかし私は20年しか恩恵を受けられないかもしれません、私の3歳の孫が90歳まで生きるとするならば、あと87年もの間、その恩恵を受けることができます。すなわち、私たちが今、やろうとしているインフラ整備は、将来世代への贈り物でもあるのです。測量、設計産業は将来世代へ贈り物をするという「未来産業」です。その未来産業が元気を出さなくてはどうするのでしょうか。未来産業に従事しているわれわれこそが、将来の人々への環境整備をしているという自負、役割を担っているという自負を持たなくてはなりません。財政の間違った認識で、諸外国から遅れ始めているインフラ整備を大々的にやることが、今こそ必要です。愛知県測量設計業協会が、40周年から50周年、60周年へと未来へ輝くことを祈念いたしました、私のプレゼンテーションを終わらせていただきます。

(表1～7は、大石所長講演会資料)



歩み

～この40年間の建設行政と愛測協～



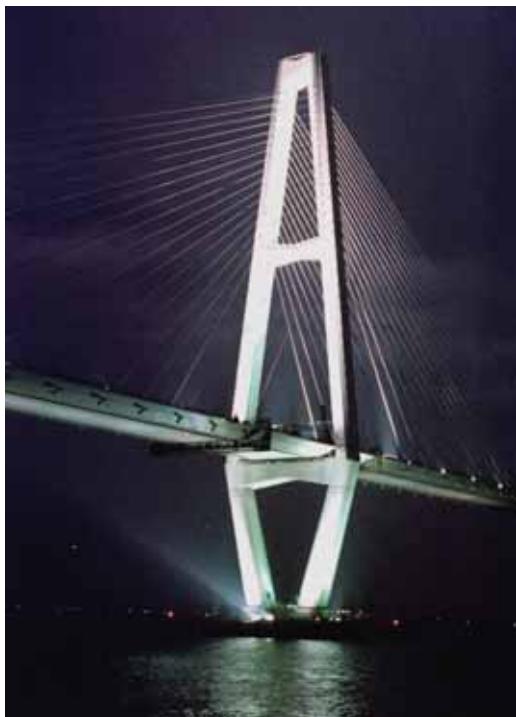
オンリーワン／深津 敦史「立体プラレール」

40th  
Anniversary

# あゆみ

## 主な出来事

1998年 名港トリトン開通



写真提供：共同通信社

2000年 東海豪雨



写真提供：共同通信社

1999年 JR セントラルタワーズ完成



写真提供：共同通信社

2005 年 愛知万博 開催



写真提供：愛知県道路公社（第 27 号 方位）



写真提供：愛知県道路公社（第 27 号 方位）

## 主な出来事

2005年 中部新国際空港（セントレア）開港



写真提供：共同通信社



写真提供：愛知県道路公社（第27号方位）

2011年 東日本大震災



写真提供：共同通信社

2011年 東日本大震災



写真提供：共同通信社



出典：国土交通省 東北地方整備局

「東北地方太平洋沖地震により被災した主な道路関係施設の復旧状況（平成23年4月6日現在）」

## 協会のあゆみ

1974年 協会設立



1984年 創立10周年①



1994年 創立20周年



2004年 創立30周年①



## 協会の活動

現場見学



定例勉強会



災害訓練





1984年 創立10周年②



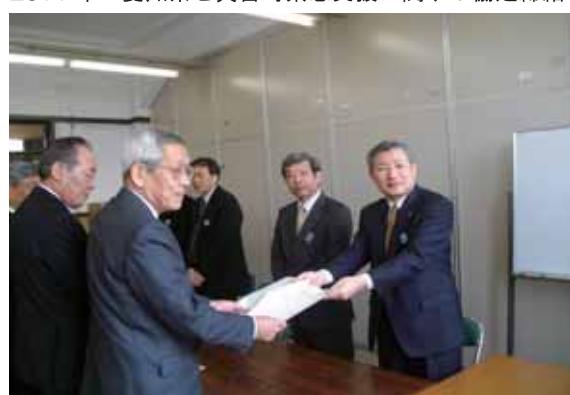
1984年 創立10周年③



2004年 創立30周年②



2011年 愛知県と災害時緊急支援に関する協定締結



地図教室



合同研修



## 40年史年表（1973～2014年）

### 社会の出来事

1973  
(昭和 48)

- 1月 パリでベトナム和平協定調印
- 7月 ドバイ日航機ハイジャック事件（日本赤軍及びパレスチナ解放人民戦線）
- 10月 第4次中東戦争勃発
- 10月 江崎玲於奈 ノーベル物理学賞受賞
- 10月 伊勢神宮第60回式年遷宮
- 12月 第1次オイルショック（～1975年3月）
- 日本シリーズ 川上巨人9連覇（対南海4勝1敗）

### 主な社会資本整備

- 7月 乗鞍スカイライン開通
- 8月 衣浦トンネル開通
- 11月 関門橋開通

1974  
(昭和 49)

- 3月 ルパン島で小野田少尉を救出
- 9月 多摩川の堤防決壊（台風16号）
- 12月 佐藤元首相 ノーベル平和賞受賞
- 日本シリーズ ロッテ金ヤン初優勝（対中日4勝1敗）

- 3月 中央自動車道恵那山トンネル開通

1975  
(昭和 50)

- 7月 沖縄国際海洋博覧会（～'76.1）
- 11月 第1回先進国首脳会議（サミット）
- 日本シリーズ 阪急25年ぶり優勝（対広島4勝2分）

- 3月 山陽新幹線（岡山～博多）開通

1976  
(昭和 51)

- 2月 ロッキード事件（7月田中前首相逮捕）
- 7月 モントリオール五輪
- 9月 ミグ25亡命事件
- 日本シリーズ 阪急連覇（対巨人4勝3敗）

- 8月 首都高速東京港トンネル開通

1977  
(昭和 52)

- 8月 北海道・有珠山爆発（32年ぶり7回目）
- 9月 ダッカ日航機ハイジャック事件（日本赤軍）
- 9月 王貞治ホームラン世界記録（756号）を達成
- 日本シリーズ 上田阪急3連覇（対巨人4勝1敗）

- 3月 八郎潟干拓完了
- 3月 浜岡原子力発電所運転開始
- 7月 リニア走行実験開始

1978  
(昭和 53)

- 6月 宮城県沖地震
- 8月 日中平和友好条約締結
- 日本シリーズ ヤクルト初優勝（対阪急4勝3敗）

- 4月 国道362号本坂トンネル開通
- 5月 新東京（現成田）国際空港開港
- 9月 国道158号平湯トンネル開通

## 建設行政

3月 「第七次道路整備 5ヶ年計画」閣議決定  
3月 「都市緑地保全法」公布  
12月 政府石油危機で緊急事態宣言

## 協会の変遷

6月 「国土庁」設立  
7月 「建設コンサルタント登録規定」の改正(登録 4部門の新設)

10月 社団法人愛知県測量設計業協会の設立総会開催(会員 99社)  
11月 社団法人許可(許可通知 49 指令用第 235 号)  
11月 社団設立祝賀会

8月 「下水道技術センター」を「日本下水道事業団」に改組  
12月 「建設コンサルタント登録規定」第 2 次改正

1月 測量設計無料相談所設置  
1月 技術講習会  
9月 親善野球大会  
9月 全員研修会

8月 「第 2 次都市公園等整備 5ヶ年計画」閣議決定  
8月 「第 4 次下水道整備 5ヶ年計画」閣議決定  
11月 「景気対策第 7 項目」閣議決定

3月 測量設計無料相談所利用者数 年間利用者数は、40 名  
7月 業務監査

2月 「第 2 次海岸事業 5ヶ年計画」閣議決定  
4月 「建設コンサルタント登録規定」第 3 次改正(技術・資本力の強化)  
6月 「第 5 次治水事業 5ヶ年計画」閣議決定

3月 技術講習会  
3月 測量設計無料相談所利用者数 年間利用者数は、18 名  
7月 災害等緊急時協力体制整備  
10月 技術講習会

5月 「第 8 次道路整備 5ヶ年計画」閣議決定  
6月 「大規模地震対策特別措置法」公布

3月 測量設計無料相談所利用者数 年間利用者数は、15 名  
7月 技術講習会  
9月 技術講習会

1979  
(昭和 54)

## 社会の出来事

- 5月 英サッチャー女史 先進国初の女性首相に就任
- 6月 東京サミット
- 7月 東名日本坂トンネル事故  
日本シリーズ 広島初優勝（対 近鉄 4 勝 3 敗）

## 主な社会資本整備

- 3月 愛知県道 389 号稻目トンネル開通
- 7月 豊田新線（豊田市～赤池）開通

1980  
(昭和 55)

- 3月 第2次オイルショック（～1983年2月）
- 6月 大平首相急死 衆参同日選挙で自民党圧勝
- 7月 モスクワ五輪
- 8月 静岡駅前地下街ガス爆発火災  
日本シリーズ 古葉広島連覇（対 近鉄 4 勝 3 敗）

- 4月 北陸自動車道（敦賀～米原）開通

1981  
(昭和 56)

- 1月 米レーガン政権発足
- 3月 神戸ポートアイランド博覧会（～9月）
- 4月 スペースシャトル打ち上げ成功
- 10月 福井謙一ノーベル化学賞受賞  
日本シリーズ 巨人8年ぶりV（対 日本ハム 4 勝 2 敗）

- 2月 神戸市新交通ポートアイランド線開業

1982  
(昭和 57)

- 2月 日航機羽田沖墜落事故
- 6月 スペインサッカーワールドカップ（優勝国イタリア）
- 7月 長崎県集中豪雨災害
- 10月 鈴木首相退陣 中曾根政権発足  
日本シリーズ 西武24年ぶり優勝（対 中日 4 勝 2 敗）

- 3月 名古屋市営基幹バス運行開始
- 11月 中央高速道全線開通

1983  
(昭和 58)

- 4月 東京ディズニーランド開園
- 5月 日本海中部地震（東北で大被害）
- 7月 ロサンゼルス五輪
- 9月 大韓航空機墜事件  
日本シリーズ 広岡西武連覇（対 巨人 4 勝 3 敗）

- 3月 中国自動車道全線開通

1984  
(昭和 59)

- 3月 グリコ・森永事件
- 3月 第1回名古屋国際女子マラソン
- 9月 長野県西部地震  
日本シリーズ 広島復活V（対 阪急 4 勝 3 敗）

- 10月 十勝ダム完成

## 建設行政

8月 「新経済社会 7ヶ年基本構想」閣議了解

## 協会の変遷

1月 県土木部との意見交換会  
7月 技術講習会  
10月 経営講習会  
11月 創立 5周年記念式典

6月 「中小企業投資育成(株)法施行令」改正(建設コン及び地質調査業追加)

7月 技術講習会  
10月 経営講習会  
12月 技術講習会

2月 「第3次海岸事業計画」閣議決定  
11月 「第5次下水道整備計画」閣議決定

3月 測量設計無料相談所利用者数 年間利用者数は、17名  
8月 災害等緊急時連絡模擬訓練  
11月 技術講習会

7月 「第6次治水事業5ヶ年計画」閣議決定

3月 測量設計無料相談所利用者数 年間利用者数は、19名  
8月 経営研修会  
10月 全国会長、事務局長会議

5月 「第9次道路整備5ヶ年計画」閣議決定

3月 測量設計無料相談所利用者数 年間利用者数は、18名  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練  
10月 技術講習会

11月 建設省「建コン問題研究会」設置

3月 測量設計無料相談所利用者数 年間利用者数は、30名  
11月 創立 10周年記念式典(会員 113社)

		社会の出来事	主な社会資本整備
1985 (昭和 60)		3月 科学万博つくば '85 (～9月) 4月 NTT・JT 発足 8月 日航機御巣鷹山（群馬県）墜落事故 9月 バブル経済 (～91年2月) 日本シリーズ 阪神初優勝 (対 西武 4勝2敗)	10月 関越自動車道全線開通
1986 (昭和 61)		4月 ソ連チェルノブイリ原発事故 5月 英チャールズ皇太子・ダイアナ妃来日 6月 メキシコサッカーワールドカップ (優勝国アルゼンチン) 11月 伊豆大島、三原山噴火 (全島民避難) 日本シリーズ 森西武優勝 (対 広島 4勝3敗1分)	3月 東海北陸自動車道 (岐阜各務原～美濃) 開通 7月 東北自動車道全線開通
1987 (昭和 62)		4月 国鉄が分割民営化 (JR 発足) 10月 利根川進 ノーベル医学学生理学賞受賞 日本シリーズ 森西武連覇 (対 巨人 4勝2敗)	3月 神戸市営地下鉄全線開通
1988 (昭和 63)		7月 潜水艦なだしお漁船衝突事故 9月 ソウル五輪 日本シリーズ 森西武3連覇 (対 中日 4勝1敗)	3月 青函トンネル開通 3月 東京ドーム竣工 7月 北陸自動車道全通
1989 (平成元)		1月 昭和天皇崩御 / 新元号「平成」制定 6月 中国第二次天安門事件 7月 名古屋デザイン博開催 (～11月) 11月 ベルリンの壁崩壊 日本シリーズ 巨人8年ぶり優勝 (対 近鉄 4勝3敗)	7月 東山タワー竣工 9月 名古屋市営地下鉄桜通線開通
1990 (平成2)		6月 イタリアサッカーワールドカップ (優勝国西ドイツ) 6月 礼宮さま紀子さま結婚の儀 11月 雲仙普賢岳噴火 日本シリーズ 西武復活V (対 巨人 4勝0敗)	1月 下総利根大橋開通

## 建設行政

11月 日本建設情報総合センター（JACIC）発足

## 協会の変遷

2月 営業研究会  
2月 技術講習会  
6月 技術講習会  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練

11月 「第6次下水道整備5ヶ年計画」閣議決定

2月 県土木部との意見交換会  
6月 技術講習会  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練  
11月 技術講習会

6月 「第4次全国総合開発5ヶ年計画」閣議決定  
6月 「第7次治水事業5ヶ年計画」閣議決定

3月 全員研修会  
6月 技術講習会  
8月 経営研修会  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練

2月 「第10次道路整備5ヶ年計画」閣議決定

2月 県土木部との意見交換会  
6月 技術講習会  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練  
10月 技術講習会

12月 「土地基本法」成立

3月 全員研修会  
6月 89NAGOYA測量設計システム展開催（協会創立15周年記念協賛）  
8月 協会事務所移転  
8月 技術講習会  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練  
11月 技術講習会

6月 「公共投資基本計画」閣議了解

2月 営業研究会  
6月 「測量の日」記念事業  
8月 技術研修会  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練

		社会の出来事	主な社会資本整備
1991 (平成3)		4月 東京都庁新宿へ移転 6月 雲仙普賢岳で大火碎流発生 8月 ソ連崩壊 日本シリーズ 強い西武連覇（対 広島 4勝3敗）	9月 ツインハーブ橋開通
1992 (平成4)		3月 東海道新幹線「のぞみ」運転開始 5月 国家公務員完全週休2日制スタート 7月 バルセロナ五輪 10月 天皇皇后両陛下 初の中国ご訪問 日本シリーズ 森西武 3連覇（対 ヤクルト 4勝3敗）	7月 青森ベイブリッジ開通
1993 (平成5)		5月 Jリーグ発足 6月 皇太子雅子さま結婚の儀 7月 北海道南西沖地震 10月 伊勢神宮第61回式年遷宮 日本シリーズ 野村ヤクルト 15年ぶりV（対 西武 4勝3敗）	3月 伊勢自動車道全線開通 7月 横浜ランドマークタワー開業 8月 首都高レインボーブリッジ開通
1994 (平成6)		4月 中華航空機名古屋空港で着陸に失敗炎上 6月 北朝鮮金日成首席死去 6月 アメリカサッカーワールドカップ（優勝国ブラジル） 6月 松本サリン事件 10月 大江健三郎 ノーベル文学賞受賞 日本シリーズ 長嶋巨人初優勝（対 西武 4勝2敗）	9月 関西国際空港開港
1995 (平成7)		1月 阪神淡路大震災 3月 地下鉄サリン事件 7月 アトランタ五輪 日本シリーズ 野村ヤクルト強いV（対 オリックス 4勝1敗）	3月 長良川河口堰竣工 3月 ツインアーチ138竣工 7月 九州自動車道全通により青森～鹿児島間が連結 9月 名古屋高速道路都心環状線全通
1996 (平成8)		1月 Yahoo!JAPAN サービス開始 2月 北海道豊浜トンネルで岩盤崩落 7月 O-157による食中毒流行 日本シリーズ オリックス仰木マジックV（対 巨人 4勝1敗）	11月 大分自動車道全線開通

## 建設行政

- 12月 「第5次海岸事業5力年計画」閣議決定  
12月 「第7次下水道整備5力年計画」閣議決定  
12月 「第5次都市公園等整備5力年計画」閣議決定

## 協会の変遷

- 6月 「測量の日」記念事業  
9月 雲仙普賢岳噴火災害へ義捐金拠出  
10月 経営研修会・第1回全員研修会  
11月 機関紙「方位」創刊

- 8月 「景気テコ入れ10兆7,000億円規模の経済対策」閣議決定

- 6月 「測量の日」記念事業  
9月 工業高校測量競技会を後援  
10月 技術講習会

- 5月 「第11次道路整備5力年計画」閣議決定

- 6月 「測量の日」記念事業  
6月 農業高校測量競技大会を後援  
7月 愛知県工業教育研究会との懇談会  
9月 北海道南西沖地震災害へ義捐金拠出

- 4月 「公共事業の入札・契約制度の改善に関する行動計画」の実施

- 6月 愛知県学校農業クラブ測量競技会県大会を後援  
6月 「測量の日」記念事業  
7月 愛知県工業教育研究会土木部会との懇談会  
9月 営業研修会  
11月 創立20周年記念式典（会員135社）

- 5月 「公共土木設計業務等標準契約約款」の制定

- 6月 「測量の日」記念講演会等開催  
6月 農業高校測量競技大会を後援

- 7月 「川の日」制定

- 6月 経営者研修会  
6月 農業高校測量競技大会を後援  
7月 工業高校土木科との懇談会

		社会の出来事	主な社会資本整備
1997 (平成 9)		<p>4月 消費税 5%に引き上げ</p> <p>7月 香港が英統治から中国へ返還</p> <p>8月 英ダイアナ元皇太子妃がパリで交通事故死</p> <p>12月 京都議定書採択</p> <p>日本シリーズ ヤクルト隔年 V (対 西武 4勝 1敗)</p>	<p>3月 ナゴヤドーム開業</p> <p>12月 東京湾アクアライン開通</p>
1998 (平成 10)		<p>1月 角界史上初の若・貴兄弟横綱誕生</p> <p>2月 長野冬季五輪</p> <p>6月 フランスサッカーワールドカップ (優勝国フランス)</p> <p>7月 和歌山毒物カレー事件</p> <p>日本シリーズ 横浜 38年ぶり V (対 西武 4勝 2敗)</p>	<p>3月 名港トリトン開通</p> <p>4月 明石海峡大橋開通</p>
1999 (平成 11)		<p>1月 EU で単一通貨ユーロ導入</p> <p>8月 国歌国旗法成立</p> <p>9月 茨城県東海村で日本初の臨界事故発生</p> <p>日本シリーズ 王ダイエー 35年ぶり V (対 中日 4勝 1敗)</p>	<p>12月 JR セントラルタワーズ竣工</p>
2000 (平成 12)		<p>3月 北海道有珠山噴火</p> <p>7月 沖縄サミット</p> <p>9月 東海豪雨</p> <p>9月 シドニー五輪</p> <p>10月 白川英樹 ノーベル化学賞受賞</p> <p>11月 イチロー野手として日本人初のメジャーリーガー</p> <p>日本シリーズ 長嶋 x 王対決 巨人 V (対 ダイエー 4勝 2敗)</p>	<p>7月 四国縦貫自動車道全線開通</p>
2001 (平成 13)		<p>2月 ハワイ沖原子力潜水艦事故 (水産高生死亡)</p> <p>9月 9・11 同時多発テロ</p> <p>9月 高橋尚子ベルリン女子マラソンで世界記録</p> <p>10月 野依良治 ノーベル化学賞受賞</p> <p>日本シリーズ ヤクルト優勝 (対 近鉄 4勝 1敗)</p>	<p>3月 名古屋ガイドウェイバス志段味線「ゆとりーとライン」開業</p> <p>3月 ETC 運用開始</p> <p>7月 豊田スタジアム開業</p> <p>11月 国道 420 号新段戸トンネル開通</p>
2002 (平成 14)		<p>5月 日韓共催サッカーワールドカップ (優勝国ブラジル)</p> <p>9月 初の日朝首脳会談</p> <p>10月 田中耕一 ノーベル化学賞受賞</p> <p>10月 小柴正俊 ノーベル物理学賞受賞</p> <p>日本シリーズ 原辰巨人初 V (対 西武 4勝 0敗)</p>	<p>10月 オアシス 21 開業</p> <p>12月 東北新幹線開業</p>

## 建設行政

4月 「公共工事コスト縮減対策に対する行動指針」関係閣僚会議で決定

5月 「新道路整備 5 力年計画」閣議決定

6月 建設省、ISO9000 シリーズを 2000 年 4 月から導入すると発表

11月 「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」公布

1月 中央省庁再編により国土交通省が誕生  
10月 「電子入札」等開始

5月 「建設リサイクル法」施行

## 協会の変遷

3月 第2回全員研修会、経営研修会 受講者 96 社 105 名  
4月 測量士受験模擬試験  
6月 農業高校測量競技大会を後援  
6月 「測量の日」記念講演会  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練  
10月 工業高校測量競技会に後援

6月 「測量の日」記念行事 参加者 約 3000 人  
6月 農業高校測量競技大会を後援  
7月 工業高校土木科との懇談会  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練  
10月 全員研修会、経営研修会  
10月 技術講習会 (GIS 報告会)

2月 測地成果 2000 説明会 (国土地理院中部地方測量部と共に)  
6月 「測量の日」記念愛知県行事 (GIS 普及セミナー)  
6月 農業高校測量競技大会を後援  
10月 全員研修会

2月 測地成果 2000 説明会 (国土地理院中部地方測量部と共に)  
6月 「測量の日」記念行事 GIS セミナー  
6月 農業高校測量競技大会を後援  
10月 東海集中豪雨災害へ義捐金拠出

2月 愛知県建設部との定例勉強会  
6月 農業高校測量競技大会  
6月 「測量の日」愛知県記念行事  
7月 第9回工業高校土木科との懇談会  
9月 災害復旧講習会  
10月 独禁法遵守研究会、経営研修会、全員研修会

6月 農業高校測量競技大会  
6月 「測量の日」中部地区記念行事  
8月 ISO9001、14001 並行取得説明会  
8月 災害復旧講習会  
10月 全員研修会、独禁法遵守研修会、経営研修会、臨時総会

		社会の出来事	主な社会資本整備
2003 (平成 15)		3月 宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」アカデミー賞受賞 7月 九州地方豪雨 12月 自衛隊イラク派遣 日本シリーズ 王ダイエー強いV（対 阪神 4勝3敗）	3月 高松自動車道全線開通 3月 名古屋高速東山トンネル竣工 11月瀬戸デジタルタワー竣工
2004 (平成 16)		5月 北朝鮮拉致被害者家族帰国（～7月） 8月 アテネ五輪 10月 新潟県中越地震（新幹線初の脱線事故） 11月 東北楽天イーグルス誕生 日本シリーズ 西武復活V（対 中日 4勝3敗）	10月 名城線全線開通
2005 (平成 17)		3月 愛知万博開催（～9月） 4月 JR福知山線脱線事故 日本シリーズ ロッテ 30年ぶりV（対 阪神 4勝0敗）	2月 中部新国際空港（セントレア）開港 3月 磁気浮上式高速交通東部丘陵線リニモ開業
2006 (平成 18)		1月 三菱東京 UFJ銀行発足 6月 ドイツサッカーワールドカップ（優勝国イタリア） 7月 日銀ゼロ金利解除 9月 第一次安倍内閣発足 11月 景気拡大局面がいざなぎ景気を超え戦後最長を記録 日本シリーズ 日本ハム 東映から44年ぶりV（対 中日 4勝1敗）	2月 神戸空港開港 9月 ミッドランドスクエア竣工
2007 (平成 19)		3月 能登半島地震 7月 新潟県中越沖地震 10月 郵政民営化により日本郵政グループ発足 日本シリーズ 中日ドラゴンズ 53年ぶりV（対 日本ハム 4勝1敗）	1月 東海北陸自動車道飛騨トンネル貫通 1月 名古屋ルーセントタワー竣工
2008 (平成 20)		1月 中国製冷凍ギョーザ農薬中毒事件 8月 北京五輪 9月 リーマンショック 9月 麻生内閣発足 10月 下村脩 ノーベル化学賞受賞 10月 小林誠 益川敏英 ノーベル物理学賞受賞 11月 洞爺湖サミット 日本シリーズ 西武勝つ（対 巨人 4勝3敗）	2月 第二名神（亀山JCT～草津田上IC）開通 7月 東海北陸自動車道全線開通 10月 徳山ダム完成

## 建設行政

- 1月 「官製談合防止法」施行  
4月 国土交通省電子入札制度開始  
10月 「第1次社会資本整備重点計画」閣議決定

## 協会の変遷

- 5月 工業高校測量競技会  
6月 農業高校測量競技大会  
8月 災害復旧講習会  
11月 100周年を迎えた小学校へ記念品贈呈

- 7月 独立行政法人都市再生機構設立

- 1月 100周年を迎えた小学校へ記念品贈呈  
7月 工業高校土木科との懇談会  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練  
9月 現場見学会  
10月 アメリカ伊能大図里帰りフロア展 in ナゴヤドーム  
11月 創立30周年記念式典（会員117社）

- 4月 「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の施行  
10月 日本道路、本州四国連絡橋、首都高速道路、阪神高速道路の各公団民営化

- 10月 現場見学会  
12月 県建設部との合同研修会

- 10月 土地交通省入札ボンド導入

- 3月 営業研修会  
6月 協会事務所移転  
6月 「測量の日」記念行事  
9月 災害等緊急時連絡模擬訓練  
10月 コンプライアンス講習  
12月 定例勉強会

- 7月 全国の直轄ダム・水資源機構管理ダムでダムカード頒布開始

- 4月 測量設計無料相談所（平成19年度偶数月設置）  
10月 コンプライアンスセミナー（中小企業人材確保推進事業協賛）  
12月 定例勉強会

- 7月 「国土形成計画（全国計画）閣議決定

- 6月 100周年を迎えた小学校へ記念品贈呈  
10月 工業高校、工業専門学校との意見交換会  
10月 名城大学との意見交換会  
12月 県建設部との定例勉強会

2009  
(平成 21)

## 社会の出来事

- 3月 高速道路が土日祝、千円乗り放題の割引制度開始
- 5月 裁判員制度施行
- 5月 新型インフルエンザ大流行
- 8月 衆院選民主党勝利で政権交代
- 日本シリーズ 原辰巨人 7年ぶり V(対 日本ハム 4勝2敗)

## 主な社会資本整備

- 6月 静岡空港開港

2010  
(平成 22)

- 6月 南アフリカサッカーワールドカップ (優勝国スペイン)
- 7月 観測史上最高の記録的な猛暑
- 7月 参院選民主党大敗でねじれ国会
- 9月 尖閣諸島で中国漁船が巡視船に衝突
- 10月 鈴木章 根岸英一 ノーベル化学賞受賞
- 日本シリーズ ロッテ 5年ぶり V(対 中日 4勝2敗1分)

- 3月 第二京阪道路全線開通
- 12月 東北新幹線全線開通

2011  
(平成 23)

- 3月 東日本大震災、福島原発事故
- 6月 高速道路が土日祝、千円で乗り放題の割引制度終了
- 7月 テレビ放送が地デジに移行
- 12月 北朝鮮金正日総書記急死
- 日本シリーズ 秋山ソフトバンク初 V (対 中日 4勝3敗)

- 3月 九州新幹線（鹿児島ルート）開通
- 3月 名古屋第二環状線（名二環）開通
- 3月 北関東自動車道全線開通

2012  
(平成 24)

- 7月 ロンドン五輪
- 10月 山中伸弥 ノーベル医学生理学賞受賞
- 12月 中央自動車道上り線笹子トンネルで天井板が崩落
- 12月 衆院選自民党勝利で政権交代
- 日本シリーズ 原辰巨人 3度目の優勝(対 日本ハム 4勝2敗)

- 4月 新東名高速道路（御殿場～三ヶ日）開通
- 2月 東京スカイツリー竣工

2013  
(平成 25)

- 6月 富士山が世界文化遺産に登録
- 9月 2020年夏季東京オリンピック開催決定
- 10月 伊豆大島で土石流災害
- 10月 伊勢神宮第62回式年遷宮
- 日本シリーズ 東北楽天 仙一で V (対 巨人 4勝3敗)

- 3月 鳥取自動車道開通
- 11月 名古屋高速全線開通

2014  
(平成 26)

- 2月 千葉市で観測史上最高の積雪 33cm を記録
- 4月 消費税8%に引き上げ
- 6月 ブラジルサッカーワールドカップ (優勝国ドイツ)
- 9月 御嶽山噴火
- 10月 中村修二 赤崎勇 天野浩 ノーベル物理学賞受賞
- 日本シリーズ さらば秋山ソフトバンク V (対 阪神 4勝1敗)

- 3月 あべのハルカス竣工
- 3月 紀勢自動車道全線開通
- 7月 舞鶴若狭自動車道全線開通

## 建設行政

- 3月 「第2次社会資本整備重点計画」閣議決定  
4月 道路特定財源廃止

- 6月 高速道路無料化社会実験を開始

- 11月 復興道路・復興支援道路として新たに224kmを事業化

- 8月 「第3次社会資本整備重点計画」閣議決定

- 11月 改正耐震改修促進法施行

- 9月 道路交通法改正により環状交差点（ラウンドアバウト）に関する通行方法施行

## 協会の変遷

- 5月 創立35周年記念式典  
6月 100周年を迎えた小学校へ記念品贈呈  
6月 農業高校測量競技大会  
10月 現場見学会  
10月 愛知工業大学との意見交換会  
10月 全国会長会議及び中部協・経営者研修会への参加  
11月 県建設部との合同研修会  
12月 県建設部との定例勉強会

- 9月 大同大学との意見交換会  
11月 工業高校等との意見交換会  
12月 測量講習会

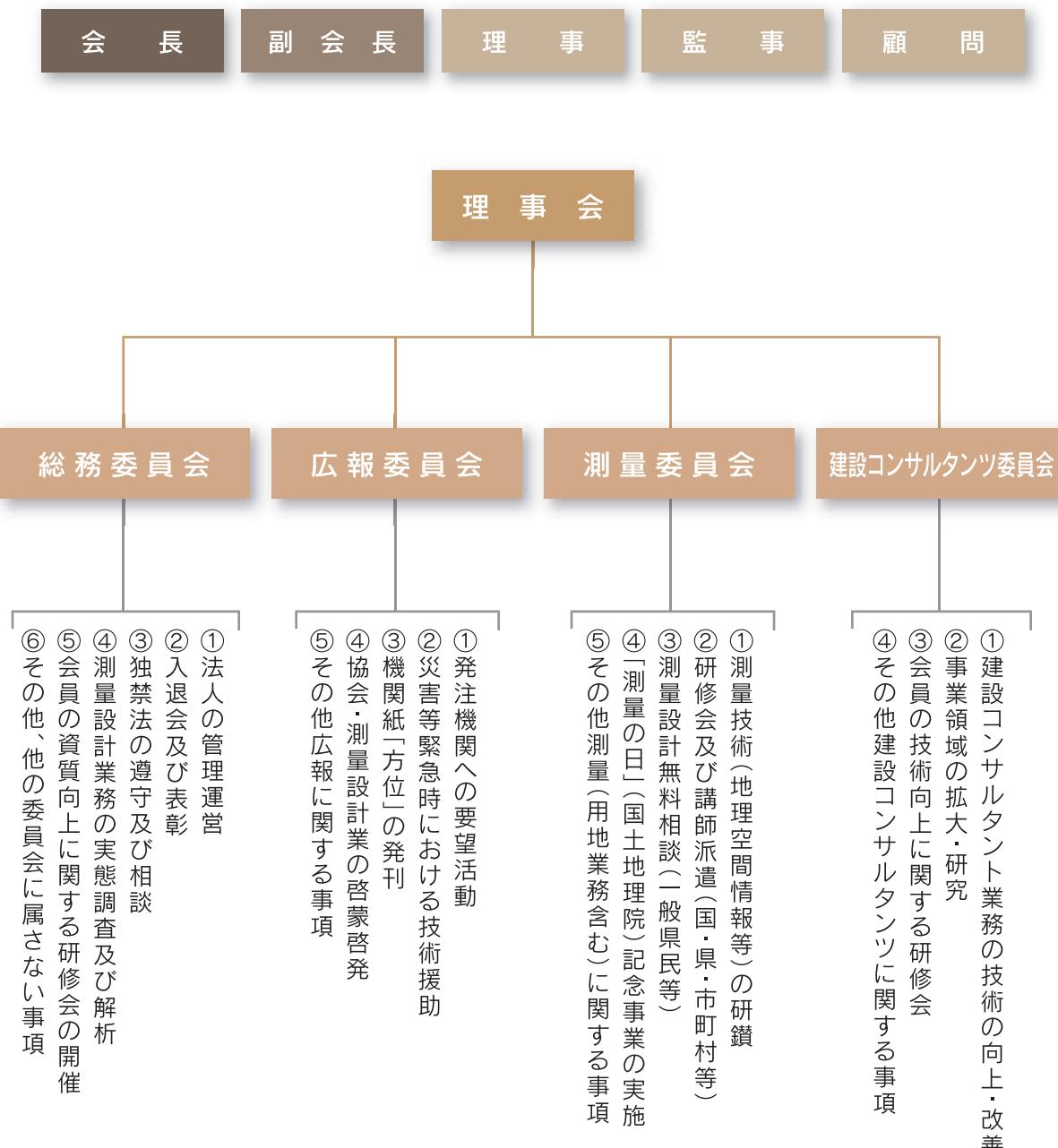
- 3月 大災害時における三県測協間の応援に関する協定の締結  
3月 県との災害時緊急支援に関する協定の締結  
3月 東日本大震災への義捐金拠出  
9月 定例勉強会  
11月 独禁法遵守講習会  
11月 測量研修会等に講師を派遣（～12月）

- 3月 測量研修会等に講師を派遣  
8月 県建設部との定例勉強会  
9月 地図教室の実施  
11月 独禁法遵守講習会

- 2月 大災害時における業界の対応についての勉強会  
7月 災害発生時における対応についての勉強会  
7月 地図教室の実施（～9月）  
9月 県建設部との定例勉強会

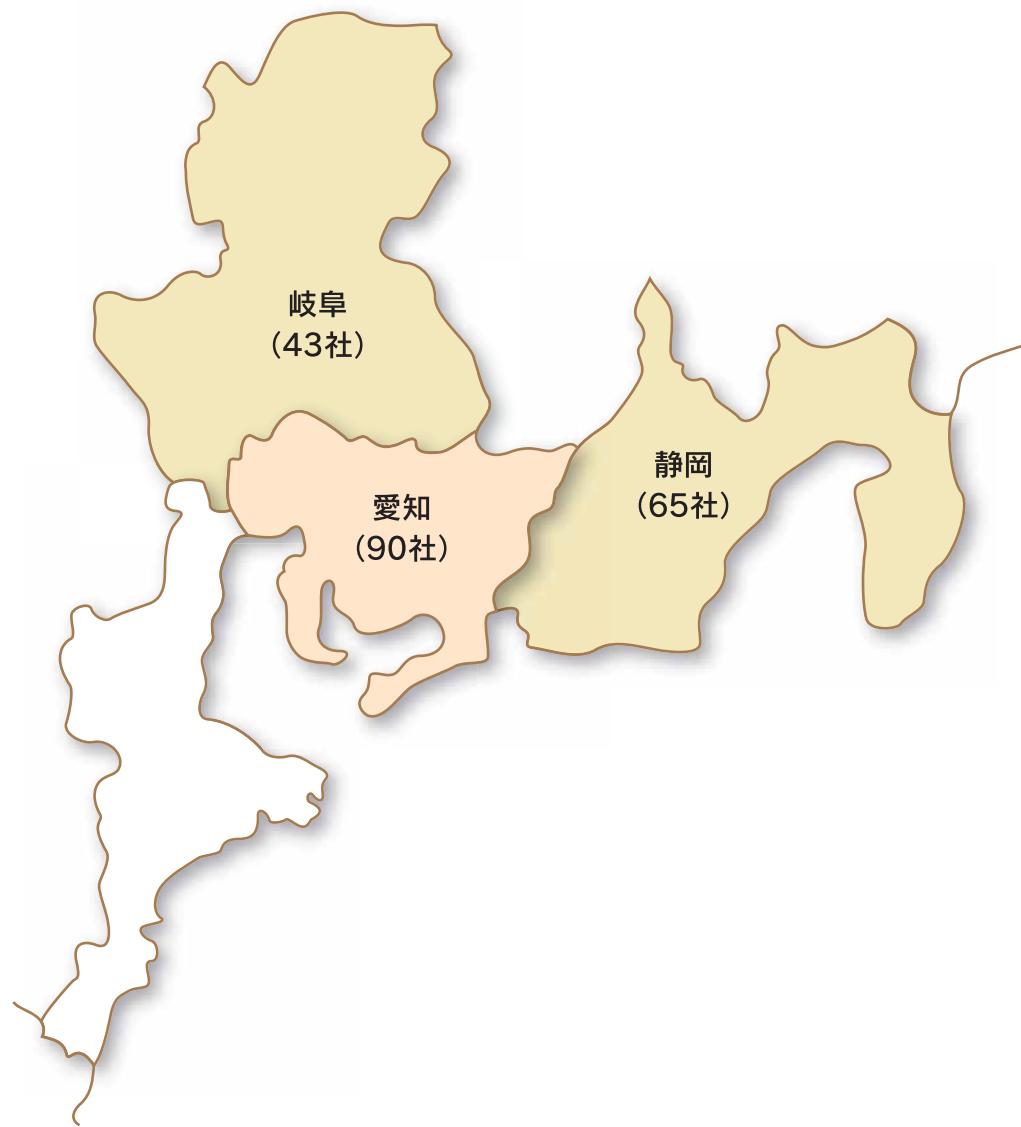
- 6月 農業高校測量競技大会  
6月 「測量の日」記念講演会  
11月 創立40周年記念式典・記念講演会（会員90社）

## 組織図

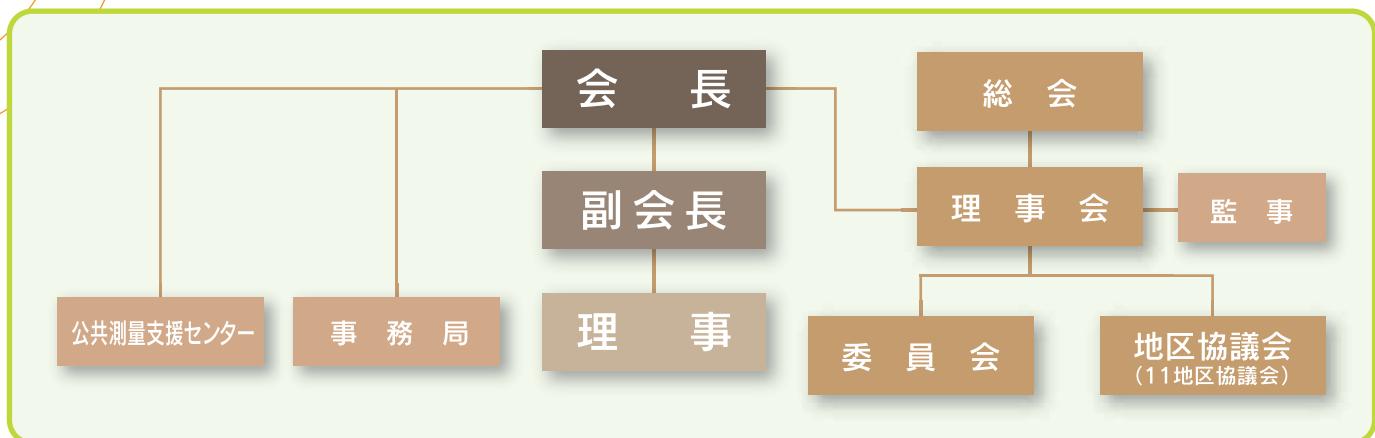


# 全測連中部地区協議会

## 組織図

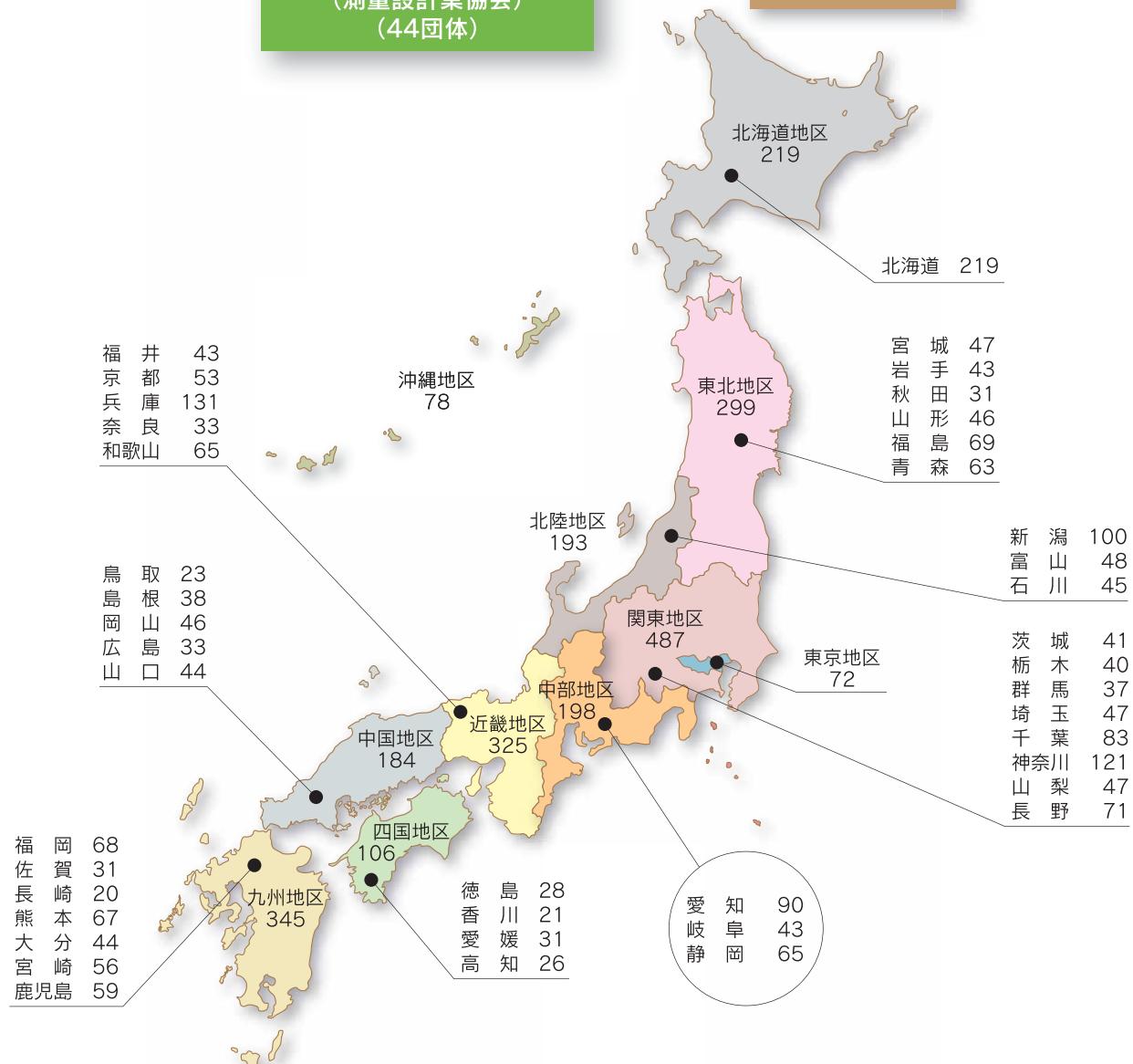


## 組織図



**都道府県会員  
(測量設計業協会)  
(44団体)**

**賛助会員**



# あゆみ

## 歴代役員

役職名	49年10月～50年3月	50年4月～52年3月	52年4月～53年4月	53年5月～55年3月	55年4月～57年3月	57年4月～59年4月
顧問	高橋則行 伊神弘	高橋則行 伊神弘 長江幸彦	高橋則行 伊神弘 長江幸彦	高橋則行 伊神弘	高橋則行 伊神弘	高橋則行 伊神弘
名誉会長						
相談役	飯沼忠					
会長	小川義夫	小川義夫	関谷末藏	関谷末藏	高見敬一	高見敬一
副会長	関谷末藏 永草信	岩木治麒 神田敏彦	岩木治麒 永草信	岩木治麒 永草信	加藤貞男 永草信	神田敏彦 永草信
理事	朝日功 岩木治麒 梅田洋々 大橋隆一 加藤貞男 神田敏彦 神戸良太郎 高見敬一 寺島義一 橋本昭二	朝日功 浅田喬馨 天野馨 石田弘幸 伊藤文雄 加藤貞男 今泉嘉郎 神戸良太郎 関谷未藏 永草信	朝日功 天野馨 石田弘幸 伊藤文雄 加藤貞男 高見敬一 寺島義一 内藤孜 橋本昭二	飯沼忠道 石田弘幸 遠藤正昭 小川義夫 大橋隆一 近藤高 高見敬一 橋本昭二	朝日功 石田弘幸 小川義夫 神田敏彦 関谷末藏 中谷富美男 橋本昭二 甫喜山剛 山耕造	朝日功 石田弘幸 今泉敬嗣 岩木治麒 磯貝久弥 小川順一 小嶋順一 平野保 平野保
監事	石田弘幸 和田優	西出善助 山田耕造	神戸良太郎 平野保	加藤貞男 今泉嘉郎	岩木治麒 大橋隆一	関谷末藏 中谷富美男
専務理事 (事務局長)	山口保	山口保	山口保	山口保	山口保	山口保

役職名	59年5月～61年4月	61年5月～63年4月	63年5月～2年4月	2年5月～4年4月	4年5月～6年4月	6年5月～10年4月
顧問	高橋則行 伊神弘	高橋則行 伊神弘	高橋則行 伊神弘	高橋則行	高橋則行 今枝敬雄	高橋則行 今枝敬雄
名誉会長						
相談役			小川義夫	高見敬一	高見敬一	高見敬一
会長	高見敬一	高見敬一	神田敏彦	神田敏彦	神田敏彦	神田敏彦
副会長	神田敏彦 永草信	神田敏彦 永草信	岩木治麒 橋本昭二	岩木治麒 橋本昭二	岩木治麒 石田弘幸	岩木治麒 石田弘幸
理事	朝日功 石田弘幸 岩木治麒 小川義夫 小栗金夫 金子昭義 中谷富美男 中谷富美男 原誠治 藤井正春 藤本博之	青木和芳 朝日功 石田弘幸 岩木治麒 小川義夫 住吉紀宥 中谷富美男 金子昭義 中西喜久雄 中谷富美男 原誠治 藤井正春 藤本博之	朝日功 石田弘幸 石田弘幸 小栗金夫 住吉紀宥 中谷富美男 中西喜久雄 中西喜久雄 原誠治 藤井正春 藤本博之	青木和芳 朝日功 石田弘幸 小栗金夫 住吉紀宥 中谷富美男 中西喜久雄 中西喜久雄 原誠治 藤井正春 藤本博之	神田敏彦 飯沼忠道 小栗金夫 永草信 中西喜久雄 西出善助 藤井正春 柳田博之 牧野健	神田敏彦 飯沼忠道 小栗金夫 永草信 中西喜久雄 西出善助 藤井正春 柳田博之 牧野健
監事	関谷末藏 橋本昭二	橋本昭二 藤本博之	横地寶 能勢甲子郎	原誠治 原口雄一郎	橋本昭二 羽島重夫	橋本昭二 羽島重夫
専務理事 (事務局長)	山口保	山口保	宮田享	宮田享	宮田享	宮田享

役職名	8年5月～10年4月	10年5月～12年4月	12年5月～14年4月	14年5月～16年4月	16年5月～17年4月	17年5月～18年4月
顧問	高橋 則行	高橋 則行	高橋 則行	高橋 則行	高橋 則行	高橋 則行
	今枝 敬雄	倉知 俊彦				
	日高 昇	日高 昇	日高 昇	日高 昇	日高 昇	日高 昇
	山本 明彦	山本 明彦	山本 明彦	山本 明彦	山本 明彦	山本 明彦
名誉会長	神田 敏彦	神田 敏彦	神田 敏彦	神田 敏彦	神田 敏彦	神田 敏彦
相談役	小川 義夫	小川 義夫	岩木 治麒	橋本 昭二	青木 和芳	青木 和芳
	岩木 治麒	岩木 治麒	青木 和芳	朝日 功	朝日 功	朝日 功
会長	石田 弘幸	石田 弘幸	石田 弘幸	石田 弘幸	石田 弘幸	西出 善助
副会長	青木 和芳	青木 和芳	朝日 功	西出 善助	西出 善助	二村 貴和
	牧野 健	朝日 功	西出 善助	二村 貴和	中西 喜久雄	中西 喜久雄
理事	中西 喜久雄	中西 喜久雄	中西 喜久雄	中西 喜久雄	中西 喜久雄	中西 喜久雄
	朝日 功	羽島 重夫	西出 善助	磯部 文夫	梶川 徹	梶川 徹
	羽島 重夫	西出 善助	梶川 徹	梶川 正城	岩波 正城	岩波 正城
	西出 善助	梶川 徹	渡辺 武雄	岩波 正城	渡辺 武雄	渡辺 武雄
	梶川 徹	渡辺 武雄	原口 雄一郎	渡辺 武雄	齊藤 健	渡辺 武雄
	渡辺 武雄	原口 雄一郎	白村 晋	白柳 田	田中 康則	田中 康則
	閔谷 満紀	川口 隆生	柳田 博	白柳 田	藤田 隆	藤田 隆
	原口 雄一郎	白村 晋	磯部 文夫	白柳 田	廣瀬 博	廣瀬 博
	川口 隆生	柳田 博	岩波 正城	二村 貴和	香村 信男	香村 信男
	白村 晋	田中 康則	高木 喜一	田中 康則	馬場 一保	馬場 一保
	柳田 博	青山 紘一	筒井 信之	藤田 隆	秋山 保正	秋山 保正
	加納 栄男	水野 知彦	齋藤 健雄	後藤 重行	関谷 売正	関谷 売正
	住吉 紀宥	永草 信彦	二村 貴和	廣瀬 博	後藤 重行	後藤 重行
	橋本 昭二	牧野 健	永草 信彦	永草 信彦	小林 雅正	小林 雅正
監事	原誠治	小林 雅正	小林 雅正	小林 雅正	宮田 享	宮田 享
	宮田 享	宮田 享	宮田 享	宮田 享	宮田 享	宮田 享
専務理事 (事務局長)						

役職名	18年5月～20年4月	20年5月～22年4月	22年5月～23年4月	23年5月～24年4月	24年5月～25年4月	25年5月～26年4月
顧問	高橋 則行	倉知 俊彦				
	倉知 俊彦	山本 明彦	山本 和明	青山 秋男	青山 秋男	青山 秋男
	日高 昇	日高 昇	日高 昇	久保田 浩文	久保田 浩文	久保田 浩文
	山本 明彦	山本 和明	浜田 一徳	鈴木 孝昌	鈴木 孝昌	鈴木 孝昌
	浜田 一徳			澤田 丸四郎	澤田 丸四郎	澤田 丸四郎
名誉会長	神田 敏彦					
相談役	青木 和芳	朝日 功	西出 善助	古橋 春二	古橋 春二	
	朝日 功		古橋 春二			
会長	西出 善助	西出 善助	二村 貴和	二村 貴和	二村 貴和	二村 貴和
副会長	二村 貴和	二村 貴和	今村 鐘年	今村 鐘年	今村 鐘年	今村 鐘年
	齋藤 健雄	古橋 春二	青木 拓生	青木 拓生	青木 拓生	青木 拓生
理事	中西 喜久雄	中西 喜久雄	廣瀬 博	廣瀬 博	久松 顯	久松 顯
	藤田 隆矢	廣瀬 博	久松 顯	久松 顯	川島 洋吾	川島 洋吾
	廣瀬 博	馬場 慎一	石田 徹	石田 徹	新井 德治	新井 德治
	香村 信男	石田 澄一	溝口 孝	溝口 孝	浅井 俊彦	浅井 俊彦
	馬場 慎一	寺島 新吾	寺島 新吾	寺島 新吾	藤井 一彦	藤井 一彦
	関谷 憲正	馬場 保明	古澤 邦彦	古澤 邦彦	須藤 正彦	須藤 正彦
	石田 徹	梶川 洋	中西 喜久雄	中西 喜久雄	早川 喜雄	早川 喜雄
	高木 喜一	森 正樹	馬場 慎一	馬場 慎一	中西 喜久雄	中西 喜久雄
	古橋 春二	鈴木 一平	浅井 俊治	浅井 俊治	森 正樹	森 正樹
	小島 裕二	青木 拓生	須藤 一彦	須藤 一彦	原雅彦	原雅彦
	寺島 新吾	今村 鐘年	白木 敏和	白木 敏和	廣瀬 博	廣瀬 博
	杉谷 芳征	白木 敏和	梶川 洋烈	梶川 洋烈	溝口 孝彦	溝口 孝彦
	山田 雅登	山田 雅登	朝日 烈	朝日 烈	岩田 敏彦	岩田 敏彦
監事	寺本 博亘	藤本 博史				
	小林 雅正	小林 雅正	長谷川 英輝	長谷川 英輝	長谷川 英輝	長谷川 英輝
専務理事 (事務局長)	宮田 享	宮田 享	森 伸行	森 伸行	森 伸行	森 伸行

未来



オンリーワン／深津 敦史「バスで街へ」

40th  
Anniversary



愛測協は障がいが有りながらも自立を目指す  
才能あるアーティストを応援します。

# 未 来



## 日本の成長をリードする強靭な県土づくりの推進

愛知県建設部長 市川 育夫

### はじめに

愛知県は、国土の中心に位置する恵まれた地理的条件に加え、首都圏と関西圏を結ぶ形で進められてきた高速道路等の広域交通ネットワークの整備を背景に、三大都市圏の一角として、また、モノづくりを中心としたわが国随一の産業拠点として発展してきました。

こうした中、2027年度に開業が予定されているリニア中央新幹線は国土構造を大きく変える事業であり、それを見据えた国際競争力の強化に資するリニア時代の交通基盤づくりを進めるとともに、南海トラフ巨大地震等への備えや今後急速に進展する社会インフラの老朽化への対応など、県民の安全・安心を確保する取組や、経済の健全な発展に資する取組も含めたあらゆる面での強靭な県土づくりをしっかりと進める必要があります。

### 国際競争力の強化に資する交通基盤づくり

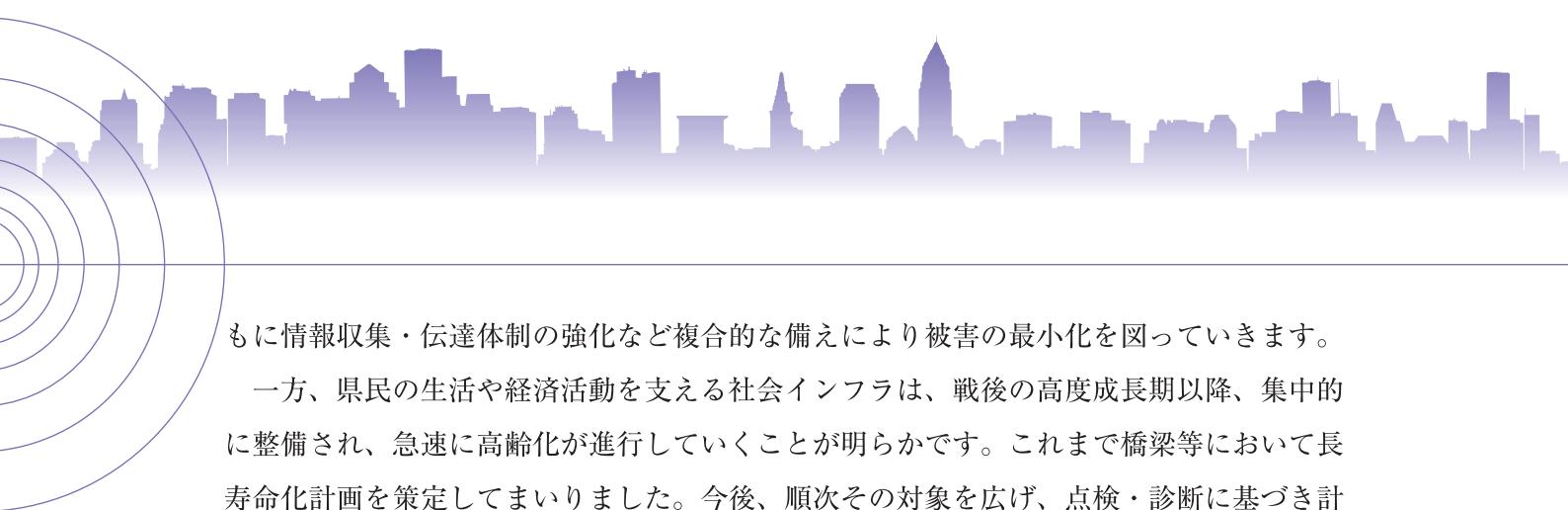
リニア開業によるインパクトを広域に波及させていくため、新東名高速道路、名古屋環状2号線、三遠南信自動車道等の広域幹線道路ネットワークの整備促進や主要渋滞箇所の緩和など、モノづくり拠点や物流拠点等への速達性を高める取組を進めてまいります。とりわけ、中部国際空港と新東名高速道路を直結する西知多道路は、名古屋高速道路を経由してリニア中央新幹線（名古屋駅）を結ぶもので、高速交通体系を完結させる重要な路線であるため、直轄国道に編入し、国による早期事業化を求めているところです。

また、日本一の貿易黒字額を誇る名古屋港を始め、重要港湾である三河港と衣浦港は、モノづくり中部と世界を結ぶ海のゲートウェイであり、今後も当地域がアジアの成長を取り込み、強い産業競争力で引き続き日本の経済と産業の成長をリードする基盤として、コンテナ等の貨物を円滑に取り扱えるよう港湾機能の強化を図っていきます。

### 地震等への防災・減災対策、社会インフラの老朽化対策

発生が懸念されている南海トラフ巨大地震等に対して、本年5月に公表した「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」の結果を踏まえ、ハード、ソフト両面から、総合的な対策に取り組んでまいります。

また、大型台風や局地的な大雨に伴う洪水、高潮、土砂災害など近年高まる災害リスクに対応するため、河川改修や海岸保全施設、土砂災害防止施設等の整備を進めていくこと



もに情報収集・伝達体制の強化など複合的な備えにより被害の最小化を図っていきます。

一方、県民の生活や経済活動を支える社会インフラは、戦後の高度成長期以降、集中的に整備され、急速に高齢化が進行していくことが明らかです。これまで橋梁等において長寿命化計画を策定してまいりました。今後、順次その対象を広げ、点検・診断に基づき計画を策定し、ライフサイクルコストを抑え、計画的に維持管理・修繕を行う取組を着実に進めてまいります。

### おわりに

当地域が、引き続き日本の成長をリードする為の国際競争力の強化や防災・老朽化対策等の安全・安心を確保する事業を厳選し、モノづくり愛知を支える強靭な社会資本整備を着実に進めてまいりますので、今後とも社会資本整備の基礎となる測量設計・調査を担う皆様方の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

おもう



安城特別支援学校／西澤 俊慶「大好きな食べ物」

40th  
Anniversary

## おもう

尾張地域における今後の社会資本整備について・・・・・・ 中部復建(株) 今村 鐘年

「改正品確法」に期待します・・・・・・・・・・・・・・・・ (株)葵設計事務所 中西喜久雄  
(公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律)

～これから社会資本整備～・・・・・・・・・・・・・・・・ 司開発(株) 川澄 功  
西三河地域会員を代表して

私の思うこれからの社会資本整備・・・・・・・・ 信栄測量設計(株) 高木 喜一



愛測協は障がいが有りながらも自立を目指す  
才能あるアーティストを応援します。

# おもう



## 尾張地域における今後の社会資本整備について

中部復建(株) 今村 鐘年

### これからの社会資本整備

今後の社会資本整備、増え続ける国家財政の赤字も影響し、今後は予算の抑制などにより、公共投資が長期にわたり減少方向に推移する事も避けられない。限られた公共投資で、いかに効率よく社会資本を整備していくかが、喫緊の課題である。

高度経済成長の初期に整備された橋やダム等の土木構造物は、リニューアルや更新の時期を迎えている。その機能を維持しながら、造りかえるには、新設に比べ3倍以上のコストが掛かる。耐用年数が経過したからと言って全ての構造物を造りかえる訳にはいかない。今ある、社会資本ストックを如何に長期的且つ計画的に維持・管理・補修しながら、使い続ける難しさはあるが、これからの社会資本はスクラップ・アンド・ビルトから、これを“使い継ぐ”時代へと着実に変わり始めた。

### 社会資本を取巻く情勢と課題

県は、厳しい財政状況、ものづくりを中心とした産業の集積、交通渋滞の激化、社会資本の老朽化への対応を含め、

#### i ) 人口減少と少子高齢化の進展

今後、生産年齢人口（15～64歳）は減少し、2040年には愛知県の人口は700万人を割り込み、老人人口（65歳以上）の割合は30%を超えると推計。

#### ii ) 日本最大の海拔ゼロメートル地帯

昭和40年代からの高度成長に伴う地下水揚水、地球温暖化による海面上昇により更に地盤沈下が拡大。

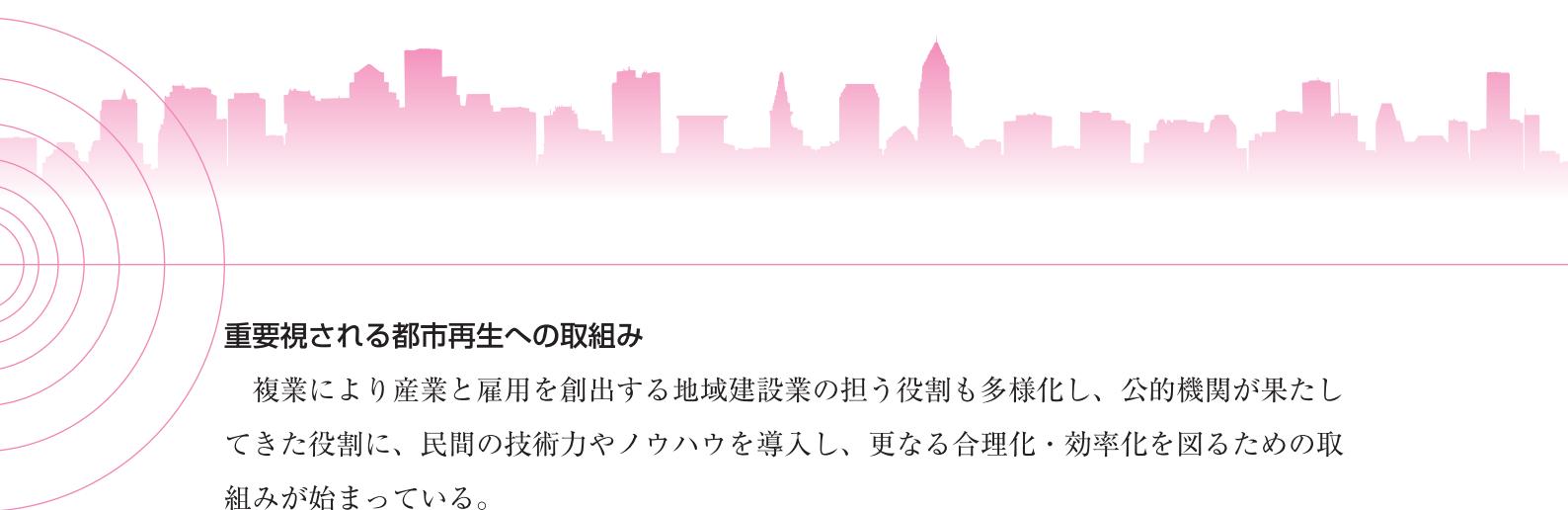
#### iii ) 自然災害のリスク（大規模地震・地震による津波）

今後30年以内に発生する確率が70%程と予測される南海トラフ巨大地震。

#### iv) 自然災害のリスク（局地的な集中豪雨）

平成20年8月末豪雨や平成23年8月の集中豪雨のように、県内で時間雨量100mmを超える局地的な集中豪雨が発生し、浸水被害が発生。

と言ったように、地域防災を絡めた老朽化する社会インフラを守る取組みをしながら、“安心・安全” “連携力・地域力・魅力” “環境”に対応する社会資本整備の取組み、且つ、如何に公共施設総合管理計画を充実させるかが重要視されている。



## 重要視される都市再生への取組み

複業により産業と雇用を創出する地域建設業の担う役割も多様化し、公的機関が果たしてきた役割に、民間の技術力やノウハウを導入し、更なる合理化・効率化を図るための取組みが始まっている。

効率的な社会資本の整備という観点から、経済を牽引する役割を担う都市部への集中的な整備を図る「都市再生」が重要視されつつある。

県では、都市計画法の規定による尾張広域都市計画圏として、

- ・**名古屋都市計画区域**（名古屋市他 16 市町村）は、高次都市機能と学術・文化・研究開発機能を擁した、世界と交流する環伊勢湾地域の中核都市づくり

- ・**尾張都市計画区域**（一宮市他 8 市町）は、豊かな水と緑の中で広域交通体系をいかして産業が力強く発展する都市づくり

- ・**知多都市計画区域**（半田市他 9 市町・南知多町の一部）は、半島の自然環境、歴史ある産業文化、広域交流拠点をいかした活力ある都市づくり

に区域区分（市街化区域と市街化調整区域との区分）とし、平成 22 年を基準年次に概ね 20 年後の姿が展望されている。

しかし、日本列島が地震の活動期に入り、地球の気候が変動し、高齢化が進み人口が減少する中で、発生が懸念される南海トラフ巨大地震への対応、リニア中央新幹線の開業など、時代の大きな転換期を迎える大きな課題に直面している。

リニア中央新幹線の開業により、首都圏の約 3,500 万人と合わせて、大きな新しい交流圏が形成される中で、人口や経済活動が吸い取られるストロー現象が懸念されるが、名古屋駅前から栄周辺の再開発を含め名古屋市を中心に魅力あるまちづくりを目指し、①人口動向等を踏まえた住居系市街地の形成、②都市機能の立地、誘導、③広域交通体系及び公共交通網の構築、④産業動向等を踏まえた工業系市街地の形成、⑤環境負荷が小さく、防災性が高い都市の構築など、産官学の連携力或いは一体化の地域力を伴う安全で快適な暮らしを求める地域住民の多様なニーズに応えなければならない。

## 防災・減災、安心・安全なまちづくり

今年で 55 年経過した 1959 年（昭和 34 年）9 月 26 日に潮岬に上陸し、紀伊半島から東海地方を中心に、ほぼ全国に亘り人的・経済的に甚大な被害を及ぼした伊勢湾台風（台風 15 号）は、室戸台風、枕崎台風とあわせて昭和の三大台風に挙げられている。

又、今年で 14 年経過した 2000 年（平成 12 年）9 月 11 日～12 日にかけて、秋雨前線と台風 14 号による大雨（東海豪雨）では、愛知県西部から三重県北中部にかけて局地的な豪雨となり、名古屋市や東海市では、日降水量と最大 24 時間降水量 534.5mm が従来記

録の約2倍の雨量を記録している。

甚大な被害を受けた尾張地域は、名古屋市を中心に、伊勢湾の湾奥部に面し、木曽三川を流域に庄内川、五条川、内津川、日光川など広大な濃尾平野の河口に位置している。名古屋市の北・西・南部の沖積平野は、庄内川を軸に平坦な低地（海部・津島地域を含めた海拔ゼロメートル地帯）が広がり、干拓当初の農地から人口の増加に伴い市街化が進み、発生が懸念される南海トラフ巨大地震やゲリラ豪雨等の自然災害に備えた海岸や河川の堤防強化など防災・減災対策が急がれる地域である。

### 最後に

最近、いつ・どこで・何が起きるか解らない“自然災害（ゲリラ豪雨や台風など）”への対応を含め、防災・減災、安全・安心への関心度は高く、住民の誰もが、安全で安心して暮らせるまちづくりを望んでいる。インフラとは、人間が人間らしい生活を行うために必要な文明の装置であり、自然災害と隣り合わせという宿命を持っている。

建設投資の急激な減少や受注競争の激化、担い手の確保と言う課題も多々あるが、地元に精通した地域の業者、インフラの維持管理・修繕などを担う「地域の守り手」「町医者」としての使命感や誇りを持ち、一生の仕事として技術研鑽に努めていきたい。

# おもう



## 「改正品確法」に期待します

(公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律)

(株)葵設計事務所 中西 喜久雄

上記の法律が平成 26 年 6 月 4 日公布・施行されました。

条文の一つ一つを読み解くにつれて、時代が大きく変化している感じがしました。

かつて、公共事業の入札・契約については「会計法」が「憲法」のごとく存在し、「第二十九条の六」において、「最低の価格をもって申込みをした者を契約の相手方とするものとする」に従って昭和 22 年以来進めて来ました。

右肩上がりの事業量に心奪われ、真に公共事業を進める者の「正論」とは何かの議論は棚に上げられて来ました。特に、入札制度においては、「談合・ダンピング」等公共事業に直接携わってきた社会の外（そと）からの批判に、頭（こうべ）を垂れる時期を迎えると共に、公共事業費の激減（H 26 / H 9 ≈ 50%）の荒波を被りました。日々、黙々と残業に耐えつつも業務に励んできた「技術集団」が、より魅力的な他産業への流出の結果、「土木技術産業」の空洞化が見え隠れする様子を、平成 20 年頃より感じていました。

しかし、大石久和著「国土と日本人」に記された、「わが国土は緑豊かで自然に満ちているようだが、そのほとんどは日本人が長い年月をかけて築きあげてきたものである。」「国土に働きかける努力を先人たちが行ってきたおかげで、われわれは国土から生活の安全性や利便性を得ることができている。」は、社会资本整備に賭けている集団のみならず、国民共有の理念であると思い続けて来ました。

その状況下、平成 17 年 3 月 31 日「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が、公布されました。

「公共工事の品質確保が、現在及び将来の世代にわたる国民の利益である」と定義し、「公共工事の品質は、価格以外の多様な要素をも考慮し、価格及び品質が総合的に優れた内容の契約がなされることにより、確保されなければならない」と基本理念に詠いました。

会計法に少し遠慮しつつも、はっきりと「価格」と「品質」が採用の条件として、肩を並べたと感じました。

それから 6 年後、全ての日本人にとって、非常に悲しい惨事が起きました。「東日本大震災—2011 年 3 月 11 日」、死者・行方不明者（18,490 人：H 26.9.10 現在）。東日本大震災の解析の中で、「公共事業の品質」は国民の命に直結する問題を指摘されました。折しも、事業費の落ち込みを受け、全国の業者は生き残りを賭けた「ダンピング競争」の真最中でした。「公共事業の品質」に対して最も弊害であるダンピングが発生し、社会资本

整備に危機感が訪れました。その中で、東北の復興に対して予算は計上されましたが、業務を行うべく「人材の不足」が深刻な状況を呈しました。

国の執行官の講演では、度々「反省」の言葉が発せられ、私どもを驚かせました。「受注者」の目前で発せられる「発注者」の反省の弁。これは発注者・受注者だけの問題でなく「国民的課題」であることを示唆していました。

民間業者の本質である「利益の追求」により、バブル以前は、必ずしも技術力と一体化でない利益の享受。また、バブル以後は技術力を無視したダンピング競争。その中で忘れ去られ、置き去りにされがちな「品質を確保するための技術力」。

今、国民の命を守るための社会資本整備にあり、最も重要な「正しい技術力」とは何か、受注、契約等を含めた「正論」とは何かを問われています。

その中、表題の「改正品確法」が、公布・施行されました。

要項第一の「目的の改正」に、「公共工事の品質確保の担い手の中長期的な育成及び確保の促進を明記するとともに、現在及び将来の公共工事の品質確保の促進を図るものとする。」と示されました。即ち、国民の命を守るために絶対的に必要な「公共工事の品質確保」には、担い手の中長期的な育成及び確保の促進が必要である。と初めて「担い手（人）」が最も重要であると、詠われました。

また、要項第二の「基本理念の改正」の四に、「公共工事の品質は、地域において災害時における対応を含む社会資本の維持管理が適切に行われるよう、地域の実情を踏まえ地域における公共工事の品質確保の担い手の育成及び確保について配慮がなされることにより、将来にわたり確保されなければならないものとすること。」と記されました。

「(人) の命を守るための社会資本整備のためには、担い手（人）が最も重要である」と定義された感がします。

私達、(一社) 愛知県測量設計業協会は、まさに、「担い手（人）」の集団であるとともに、地域に精通し、地域に貢献する意欲に満ちたメンバーにより構成されています。

「(人) の命のために、担い手（人）」に光が当てられた感じがします。

「改正品確法」を充分吟味し、学び、発注者と積極的なコミュニケーションを図り、公共事業の「担い手（人）」としての「自覚」と「誇り」を抱いて、新しい時代を切り拓いてゆくことを「若い世代」に期待します。

# おもう



## ～これからの社会資本整備～ 西三河地域会員を代表して

司開発(株) 川澄 功

(一社) 愛知県測量設計業協会創立 40 周年誠におめでとうございます。まずは、機関紙「方位」記念号の発刊にあたり私の思うところを書かせていただけることを感謝したい。

### 1. 我が社の経緯からおもう

我が社は、昭和 47 年に関興業(株)の測量部門を基に測量会社として創業し、昭和 53 年からは設計部門も業務を始めている。設計部門の業務として、当初は愛知県の各地土木事務所の道路関係を中心に、設計技術者 10 名程度で業務を展開してきた。その後業務が拡大したのは昭和 49 年に始まった刈谷市等の区画整理事業で、最盛期の平成 5 年には設計技術者約 30 名、測量技術者約 20 名、補償技術者約 10 名等、全体で約 80 名の大所帯となっていた。その後は区画整理事業の減少を機に、高齢技術者の定年退職等により人員縮小が進み、平成 10 年代半ばには全体で約 30 名体制となった。

平成に入ってからは、愛知県下で 2 番目平成元年 4 月に供用開始した境川流域下水道閲連で、刈谷市等の公共下水道事業を区画整理事業後の主要業務としてきたが、最近ではその終焉を迎えようとしているのが現状である。この間、区画整理事業の減少を機に人員削減は進み、現在の約 20 名体制となった。

このように、我が社の業務の推移、盛衰と今後の公共事業予算の減少を考えると、当面は現状を維持することが重要と思われるが、営業一筋の私の目から見た今後について考えてみたい。

### 2. 我が社の今後をおもう

我が社が所在している刈谷市の社会資本の整備状況として、区画整理事業は平成 20 年代初めには概ね完了し、下水道事業についても近年完了に近づいている。また道路事業では交差点改良等小規模事業が主流となっており、新規道路建設の動きは見られない状況にある。

国の財政状況が逼迫していることから、国債依存体質からの脱却を目指す財政再建は、今後更に強化されることが予想され、公共事業予算が今後飛躍的に増加することは困難と思われる。また、人口減少により新規事業が抑制されることは想定されるが、既存施設の老朽化の進行により、今後は施設の補修、長寿命化等保全的な技術が求められる状況にあ

ると考えている。

このため、公共事業の動向に対応した技術力の修得と資格取得が求められている。建設コンサルタント会社の資源であり財産でもある社員の奮起が必要であるとともに、我が社としても各種研修会等への参加を積極的に推進していきたい。

### 3. 今後の社会資本整備をおもう

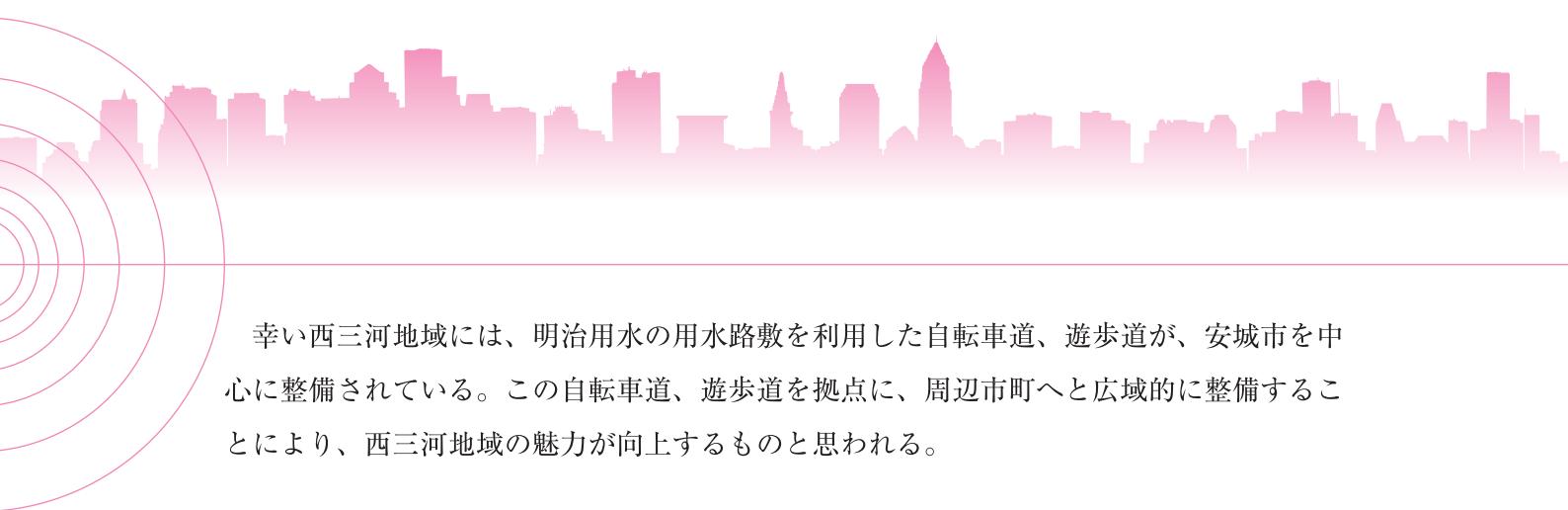
近年各地で発生しているゲリラ豪雨、台風や前線による集中豪雨による災害が多発しており、平成20年8月末には額田郡幸田町で広田川が約40mにわたり決壊している。私の記憶では、昭和の年代には時間雨量換算で50mm超えの短時間豪雨はあるものの、時間雨量50mmを超えることは稀であったと思う。今後も地球温暖化が進むことを考慮すると、基準雨量の見直しと河川の再改修が必要ではないかと思われる。全国一律に再改修を進めることは天文学的な事業費が必要となり、財政的には不可能と考えているが、未改修地域では積極的に基準雨量を見直して、事業化を進める柔軟な発想も必要と考えている。

東海地方には木曽三川、矢作川、豊川の大河川がある。その河川堤防が大規模に利用されている例として、揖斐川の「水郷ハナミズキ街道」、長良川の「清流サルスベリ街道」があり、名古屋市内の新川、庄内川の堤防道路は、市街地を避けるバイパスとして利用されている。一方、西三河地域では、一級河川矢作川が豊田市山間部から三河湾に流入しているが、その堤防が道路として利用されているのは、私の知る限り豊田市、岡崎市と西尾市の一部区間のみである。災害時の支援道路としての役割を兼ねることからも、河口から豊田市中心部までの整備を夢見ているところである。



昭和41年12月15日に西加茂郡猿投町（現豊田市）で猿投ダンプ事故（11名死亡、22名重軽傷）が起き、その後事故現場の通学路には歩道や歩道橋も設置された。しかし、近年各地の通学路での痛ましい交通事故を聞くにつけて、通学路や生活道路では車優先から人優先への変換を推進するため、車線数や車線幅の減少による遊歩道や自転車道を整備する等、地域の安全性を確保することが最優先課題ではないかと考えている。





幸い西三河地域には、明治用水の用水路敷を利用した自転車道、遊歩道が、安城市を中心とし整備されている。この自転車道、遊歩道を拠点に、周辺市町へと広域的に整備することにより、西三河地域の魅力が向上するものと思われる。

#### 4. ゴルフにおもう

「川澄」と言えば「ゴルフでしょ」と時には言われるが、ゴルフを始めたのは昭和55年で、いわゆる接待ゴルフだった。バブル期までは、営業活動の一環として同業各社との懇親を目的としていたが、平成10年代の税制の変更による接待費の減少により、接待ゴルフは減少し、最近では皆無となっている。現在は、土・日曜日を中心に友人とのプレーを楽しんでおり、健康の維持のためにも生涯スポーツとして続けていきたいと考えている。

近年、ゴルフ場や練習所で感じることは、若い人が少ないことである。ITの発達によるスマートホン等によるゲーム、趣味の多様化も原因と思われる。確かにゴルフをするためには、道具の購入、練習時間の確保と、経済的負担を伴い、また、時間の余裕も必要である。

今後、ゴルフ人口を拡大するためには、経済的なゆとりをはじめとする労働条件の改善が不可避である。ゴルフに限らず、社員が個人の生活を楽しめる環境を作ることが、先に述べた社員の奮起につながるものと信じたい。

このため、魅力ある建設コンサルタントを目指して、企業体质の改善が急務と思われるが、如何だろうか？

# おもう



## 私の思うこれからの社会資本整備

信栄測量設計(株) 高木 喜一

### はじめに

機関誌「方位」創立40周年記念号へ、豊田地域会員を代表して寄稿を頼まれ、テーマはこれからの社会資本整備について書けとのことで浅学非才な小生にとって漠然とし思うようにイメージがわからないが、私なりにまとめてみました。

### 1. 社会資本を取り巻く環境の変化

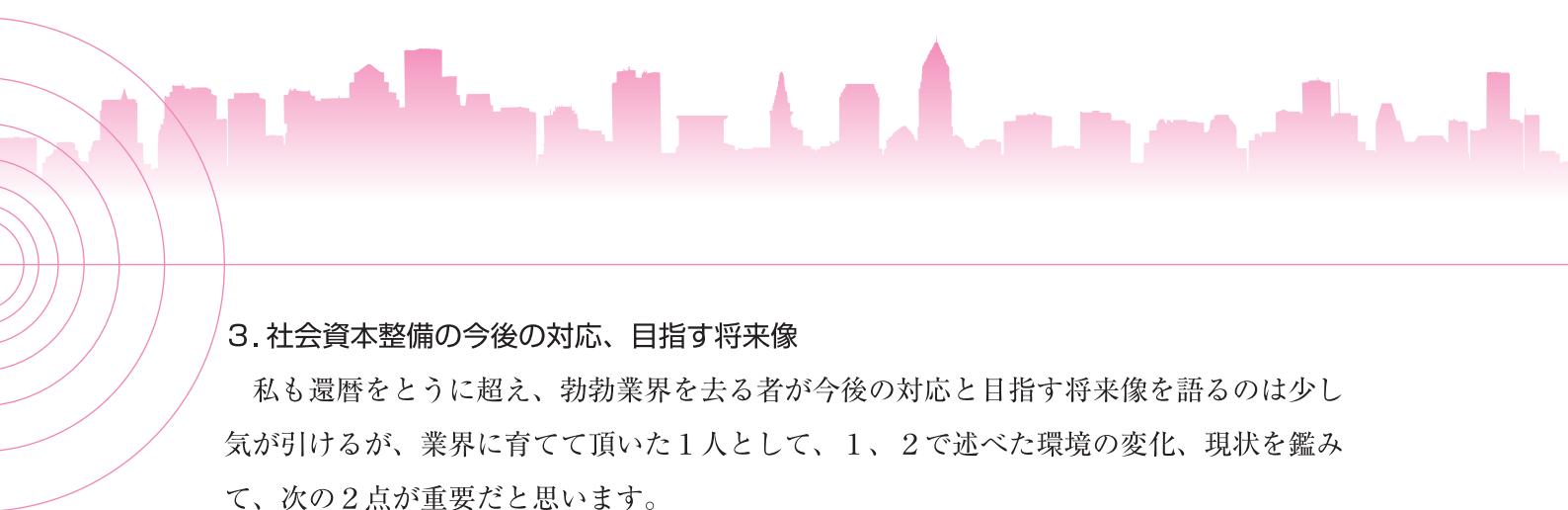
戦後、高度経済成長の時代を経て今日までに整備、蓄積された道路、橋、ダムなどの社会資本、英語ではインフラストラクチャー (infrastructure) である。その基本的な役割は、安全で快適な社会基盤を築くとともに、公共投資は公共建設事業となり、新幹線、高速道路に代表されるように「人」や「もの」を移動させ、消費を拡大し、その効果は経済成長の原動力にもなった。

今日の日本は、先進国として世界に代表される経済大国にもなった。しかし2010年ごろから金融・経済危機により厳しい財政状況の中、今後は予算抑制などにより公共事業が長期にわたり減少方向に推移すると思われる。

### 2. 社会資本整備の現状

高度成長期に整備された社会資本は、特に愛知県は道路網の整備により自動車産業の物流システムは飛躍的に拡大し、リニモ等公共交通も整備され、その一方で交通量の増大は交通事故件数、交通事故死者数が全国ワーストワンという、負の側面も顕在化した。

又、同時期に整備された道路・河川構造物も貴重な「資産」であるが、社会資本の高齢化が今後急速に進む。一般にコンクリート構造物の耐用年数は50年と言われ、現在約3割であるが、20年後には7割を超え、急速に高齢化する。最近の急激な自然環境の変化、気象変動による広島県で起きた局地的大雨や、集中豪雨による洪水被害が発生している。確実におきると言われる、東海・東南海地震への不安は日増しに高まっているが、橋や排水機場、水門、堤防などの対策はまだまだ途上であると思われる。



### 3. 社会資本整備の今後の対応、目指す将来像

私も還暦をとうに超え、勃勃業界を去る者が今後の対応と目指す将来像を語るのは少し気が引けるが、業界に育てて頂いた1人として、1、2で述べた環境の変化、現状を鑑みて、次の2点が重要だと思います。

#### ①技術的信用による健全な企業経営

企業は、営業活動を通じ、発注者のニーズに応えその発展に寄与することにより報酬を得て存続発展するものである。業務の特性から、良質な成果を提供することにより技術的パートナーを確立させ技術的信用を安定させる。

すなわち「魅力ある職場—技術力の確保—良質な成果の提供—信用の獲得—ふさわしい対価の要求—技術開発、人材への再投資」の好循環が健全に、着実に発展する将来像ではないかと思います。

#### ②技術を競い知的産業としての測量設計業の発展

測量設計業はいわゆる受注産業であるため、一定の要件で比較的容易に参入できる業種であるが、業務が公共の安全と福祉に深く係わっているところから、社会資本整備に携わる自からの役割に対し、誇りと技術的満足感を持ちつつ成果に見合う社会的評価と処遇を求め、業務の執行にあたっては、責任感を強く持ち、自己の技術能力を高め、発注者の技術的パートナーの役割を果たすことができ、適正な技術競争市場を確保し安易な参入を排除し、真に技術力の向上を目指す知的産業として発展する。

### おわりに

「愛測協」が創立40年を迎え、社会環境が激変の中にあって歴代の役員の献身的な協会運営のおかげで確実に定着しつつあります。業界の健全な発展が若者に夢を与え測量設計業が社会資本整備の推進につながり、知的産業として発展することを期待します。

## 公益事業の紹介



豊田高等特別支援学校／服部 圭佑「ドリーム・リフター」

40th  
Anniversary

## 公益事業の紹介

平成 26 年度 愛知県学校農業クラブ連盟 測量競技会県大会の報告

### 地図教室開催支援事業

～小学生達に「君の 10 歩は何メートル？」で測量体験～

### だんだんボックス活動支援事業

～障がい がありながらも自立を目指す才能あるアーティストを応援します～



愛測協は障がいが有りながらも自立を目指す  
才能あるアーティストを応援します。

# 公益事業の紹介

## 平成 26 年度 愛知県学校農業クラブ連盟 測量競技会県大会の報告

測量委員会 早川 友幸

本年も 6 月 11 日、平成 26 年度愛知県学校農業クラブ連盟 測量競技会が実施されました。

当日は、曇天でしたが滞りなく競技を終えることができました。みんなの日頃の心がけがよかったです。

協会の測量委員会を中心として、地域の会員会社の方々にも協力をしていただき、審査員、測量機器説明及び講演をやりました。総勢 12 名が分担して対応しました。

協会では、派遣技術者講師による現場でのトータルステーションによる点間距離及び比高を求める作業の説明と、生徒さんによる実体験を行いました。また事前に、「T Sについて」に加え、最新機器として、三次元測量の説明及び機器の紹介をいたしました。

### 【競技会概要】

#### 1) 開催場所・日時

愛知県立猿投農林高校 グランド及び施工実習室、設計実習室にて

平成 26 年 6 月 11 日 水曜日 (曇天) 9:20 ~ 15:30

#### 2) 競技内容

平板測量による三斜法、三辺法による面積計算

- ①第一次作業…平板測器による境界線測量
- ②第二次作業…面積測定のための距離測定作業
- ③第三次作業…図面補正、図面仕上げならびに三斜法、三辺法による面積計算

#### 3) 審査内容 (愛測協審査員の審査内容)

一次作業、二次作業の現地作業状況について、作業動作・作業態度を審査チェックシートにより評価を実施。

#### 4) 出場高校…7 校

鶴城丘高校、田口高校、渥美農業高校、安城農林高校

猿投農林高校、新城高校、稻沢高校



### 【競技模様】

第1回次の4校（鶴城丘、田口、渥美農業、安城農林）と第2回次の3校（猿投農林、新城、稻沢）に分かれて行われました。

現地踏査は、補助員の案内のもと、生徒さんが後ろから付いて競技する五角形の測点を廻り、歩測にて距離を測りました。



第一次作業は、各チームがスタートの合図とともに競技を開始し、平板測量を実施しました。先棒が走って測点に行ってポールをたて、器械マンがアリダードで方向を覗き、巻尺にて距離を測り平板上に記す。終わったら次の測点に移動して、同じ作業を繰り返す。すばやく五角形を完成させ、最初の測点にどれだけ正確に戻ってくるかを競いました。



第二次作業は、一次作業で行った平板測量にて作図した五角形の各測点間の距離及び対測の距離を測定しました。

第三次作業は、実習室にて現地作業の結果を使用し、図面仕上げや三辺法による面積計算を行いました。

審査員は、作業動作、作業態度を審査チェックシートにより評価しました。

### 【地図と測量に関する講和】

審査結果が出るまでの時間を利用して、国土地理院中部地方測量部の山口次長様より、地図と測量に関する講和をして頂きました。



### 【測量実習】

協会員の技術者より、トータルステーションにて測量機器の説明を行い、生徒さんたちにも測量機器に触れてもらいました。競技会で使用した各測点間の距離を測定したり、G P S – R T Kにて各測点に座標値を設けたりして、生徒さんたちに実際に測量機器の体験をしてもらいました。初めてトータルステーションやG P Sに触れる生徒さんもいて、興味深く体験していました。



また、事前に会場の猿投高校を3Dスキャナーにて観測を行い、三次元測量についての新技術の紹介を行いました。三次元にて、表示される画像を見て生徒さんたちは驚いていました。



#### 【結果発表】

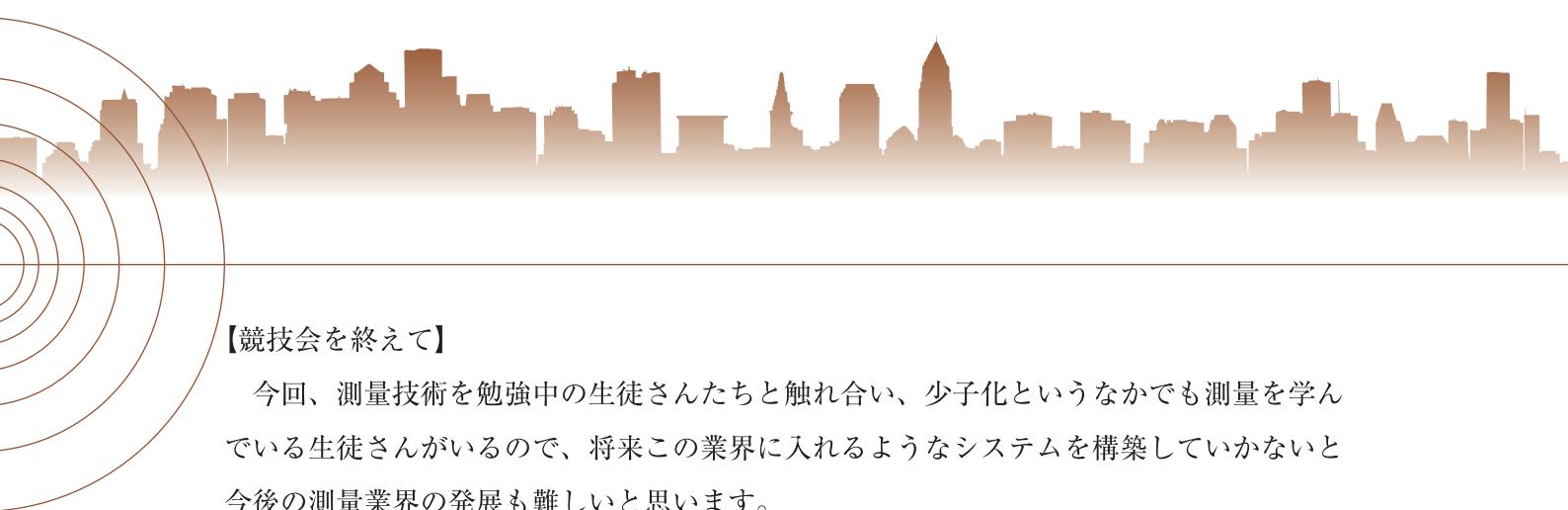
最優秀校・・・鶴城丘高校

優秀校・・・稲沢高校、新城高校の2校

最優秀校の鶴城丘高校おめでとうございます。参加高校の生徒さんたちもお疲れ様でした。男子生徒が多い中、鶴城丘高校は、女子3名、男子1名が競技しました。今年の参加校には、女子生徒が数名加わっていて、今後の測量業界も明るいと思いました。

また来年に向けて頑張ってください。





### 【競技会を終えて】

今回、測量技術を勉強中の生徒さんたちと触れ合い、少子化というなかでも測量を学んでいる生徒さんがいるので、将来この業界に入れるようなシステムを構築していくかないと今後の測量業界の発展も難しいと思います。

今後この業界も高齢化していき弱体する可能性もあるので、早い段階で将来の技術者を育成した方がいいと思います。

最後になりましたが、審査員としてご協力して頂いた地域の会員会社方々、ありがとうございました。

# 公益事業の紹介

## 地図教室開催支援事業 ～小学生達に「君の10歩は何メートル？」で測量体験～

測量委員会 榊原 雅彦

「測量の日」関連事業として、測量の意義及び重要性に対する国民の理解と関心を一層高めること、並びに地理空間情報のさらなる利活用の推進を目的として、測量と地図に関する情報と知識を国民に普及、啓発する広範な運動を展開することとして小学校を対象に毎年実施をしています。

今年度も「地図教室と測量体験」として、中部地区連絡協議会と国土地理院より、愛知県教育委員会を通して「地図教室」開催の案内を県下小学校へ募集し、愛西市八輪小、豊田市石畠小、豊川市天王小の3校にて実施しました。

その中から、愛西市八輪小学校での実施風景を紹介致します。

「八輪小学校」は、旧八開村であった愛西市立石町の田園地帯の小学校です。

「子供たちとのふれあい」を大切に、我々の測量について少しでも理解をいただきたく活動をいたしました。

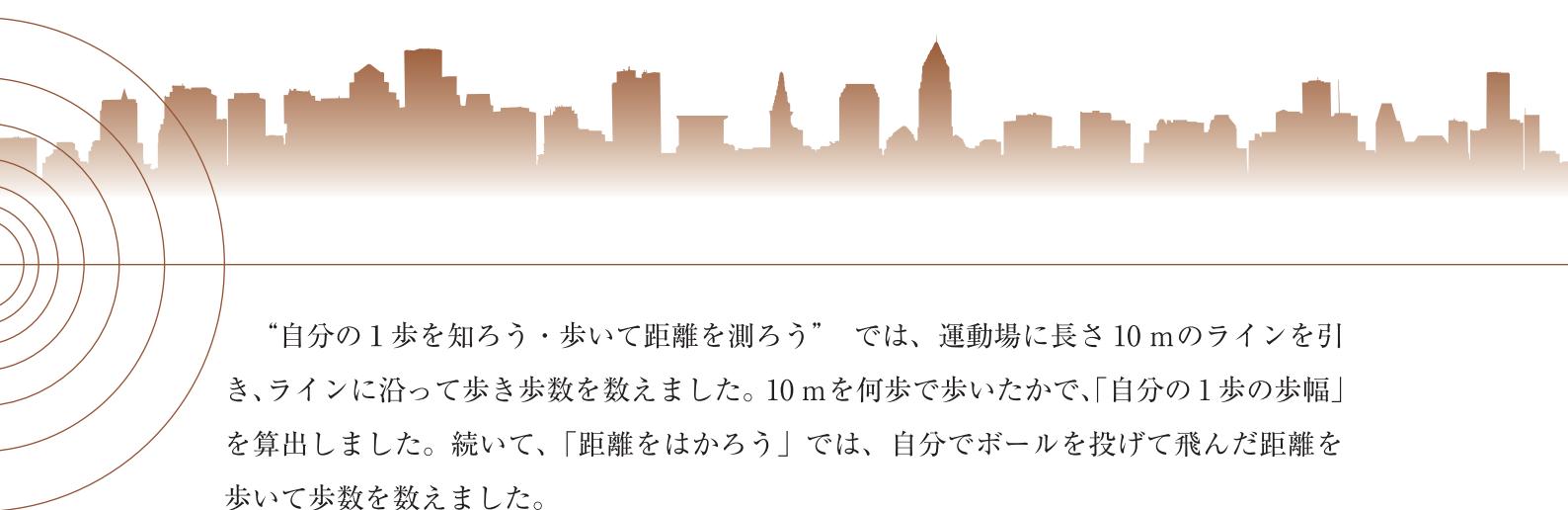
生徒さんは、4年生、16名の参加をいただきました。みなさんとても元気で、明るく、ほのぼのとし、とてもすばらしいものでした。協会の担当者も明るく楽しく「ふれあい」をテーマに、今年度は新たな取り組みも組み込みながら体験学習が執り行われました。

当日は、天候にも恵まれ、晴天の中での開催でした。4年生の子供もわれわれ大人も良い1日を送ることができました。

体験学習は、当協会より学校周辺の航空写真（昭和の時代と現在を比べられるもの）をパネルにした記念品の贈呈をし、スタートしました。地図教室は、国土地理院中部地方測量部が講師を務められ、地図について講演を行いました。「地図ができるまで・地図記号のお話」等、基準点や地図の作成をわかりやすく、また地図記号がなぜ必要になったか等を説明されました。特に地図記号クイズには、4年生で学んでいる事から元気にしっかりと手を上げて答える場面もあり、どの子供たちも熱心に耳を傾け、地図について勉強しました。

愛測協が主体となって担当した「測量体験」は、協会会社の技術者に講師として担当していただき、[①自分の1歩を知ろう・歩いて距離を測ろう②測量機器を使って正確な距離を測ろう]をこどもたちに体験してもらいました。

新たな取り組みとして、生徒たちが自らボールを投げて、自分のボールの飛距離を歩測で測定したものと測量機器での測定を比べてもらい、自分の体に持っている「足という“ものさし”」を実感しました。



“自分の1歩を知ろう・歩いて距離を測ろう”では、運動場に長さ10mのラインを引き、ラインに沿って歩き歩数を数えました。10mを何歩で歩いたかで、「自分の1歩の歩幅」を算出しました。続いて、「距離をはかる」では、自分でボールを投げて飛んだ距離を歩いて歩数を数えました。

今度はそれぞれの距離を手馴れた講師の測量技師のみなさんが光波測距儀で正確な距離を測定しました。とっても優秀な生徒さんが現れました。



「エイ」とボールを投げていまーす。



自分の投げた距離を自らの「足」で。何歩で歩けたかな。

つづいて、「測量機器を使って正確な距離を測ろう」では、最新の測量機器（トータルステーション）を使い、投げたボールの位置を正確に測ったんだ。



距離の測定として子供たちの体験として、はじめて触れるトータルステーションを覗いたり、機器のボタンを押してもらい自動で距離を測ったりしました。中には、「見えたー」と声を上げる子もいました。先生方も楽しく体験してましたよ。



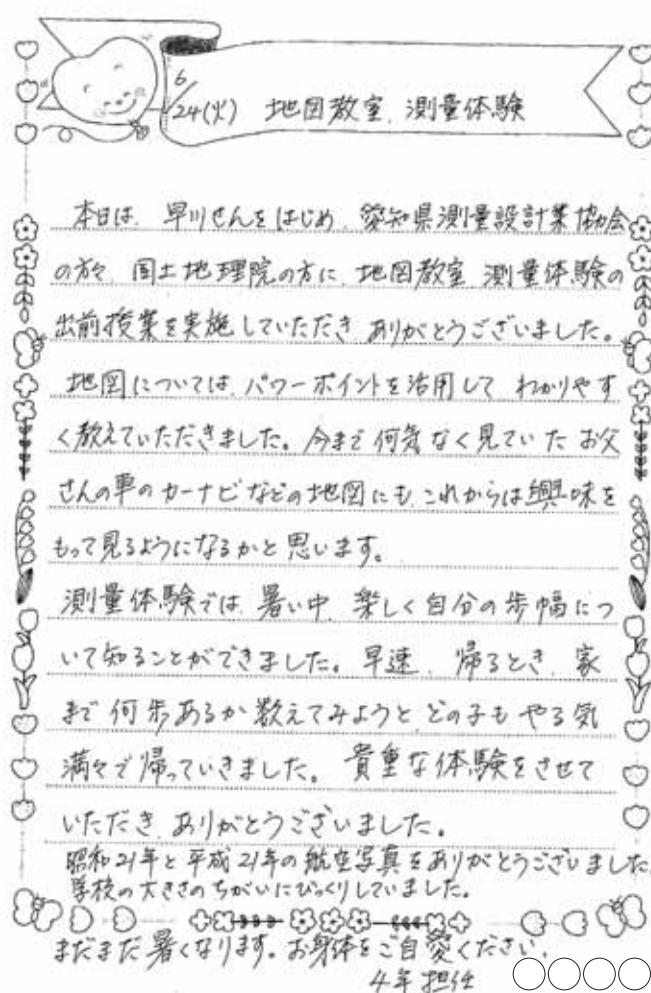
最後に、こどもたちがとても明るく、元気で、仲よく体験していただけたことは、地域コミュニティの賜物と感じました。今回ご協力をいただいた小学生の先生をはじめとしたみなさん、丁寧な講師で熱弁をふるっていただいた国土地理院の講師はじめ協会各社の支援技術者のみなさんにこの場をお借りして御礼申し上げます。

こどもたちとのふれあいは、とっても楽しく、うれしい一日となります。今後も公益事業を通して地域への貢献も含めた活動に携われるよう頑張ります。

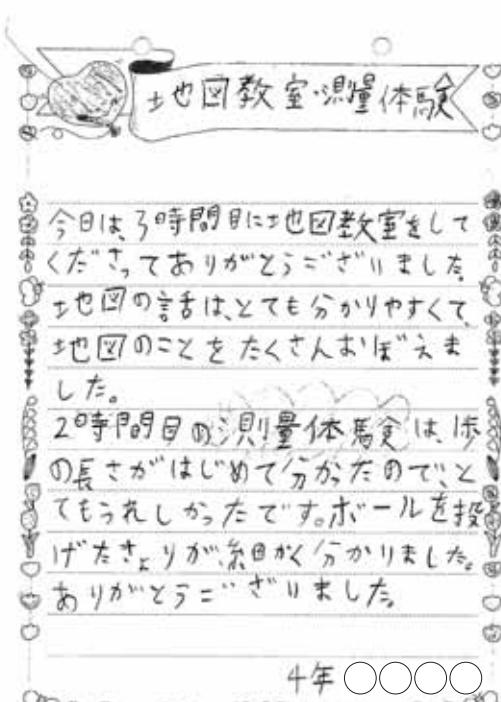
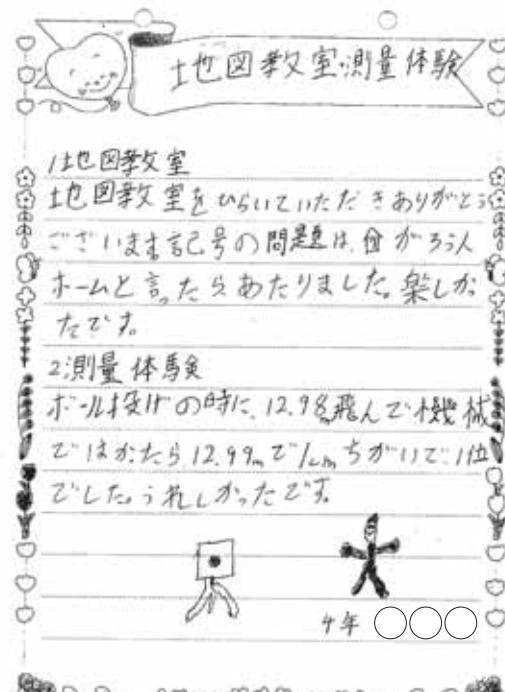
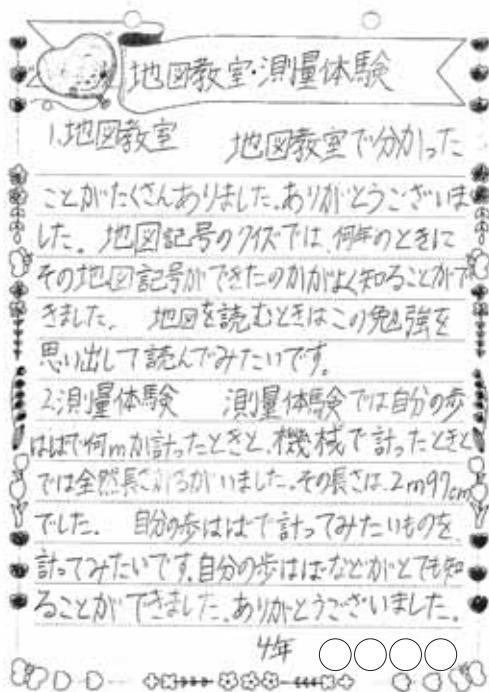
最後に、ご参加をいただいた各小学校の生徒さんありがとうございます。担当の先生方や協力いただいた協会各社のみなさんに感謝いたします。

頂いた「お礼」の手紙を少し紹介いたします。

#### 【担任の先生からのお礼のお手紙】



【生徒たちから元気をもらったお手紙紹介】



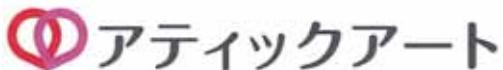
# 公益事業の紹介

## だんだんボックス活動支援事業

～障がい がありながらも自立を目指す才能あるアーティストを応援します～

広報委員会 須藤 一彦

「だんだんボックス」は、2010年8月刈谷市出身で刈谷ハイウェイオアシス等を設計した建築家で九州大学准教授 鵜飼哲矢氏の発案で始まりました。この活動は、障がいがありながらも素晴らしい絵の才能を持つアーティストたちの作品を段ボールの箱に描き、人から人へと贈る箱になって、地域の名産、プレゼント、企業の商品など、人の思いを「ありがとう」の気持ちで包みながら、全国へ移動する段ボールに「だんだんボックス」と名付け販売する試みから始まりました。



### ●マークの意味

アティックアートの目的は、「作者と作品」、「作品と人」、「人と作者」それぞれを“繋ぐ”ことで温かい愛情の輪が社会広がることです。  
マークは「アティックアート」の頭文字「a」2つを繋ぐ様に並べ  
「ハート」を表しました。

※「だんだん」とは、江戸時代に京都で生まれ、西日本のお部に残る方言で「ありがとう」の意味です。

これは福祉の新しい活動で、今まで福祉は基本的に行政が行い、企業としては寄付が主であり、企業の経済活動とはあまり関わらないものと捉えがちでした。そのために障害のある人は「保護を受ける弱い人」の立場のままで、それが、偏見や差別を助長しているのではないしょうか。「だんだんボックス」の活動は、その発想を変え、彼らの中にある素晴らしい技術的才能自体に敬意と光を当てたのです。その人の「欠けているモノ」を助けるのではなく、その人の「素晴らしいモノ」を発見し活かす活動です。これは「彼らが参加できる場所を持つ社会」の実現のための第一歩です。

九州で段ボールを販売することから始まった試みは、発案者の鵜飼哲矢氏が自身の故郷、愛知県にも紹介しようと、協力を求めたのが、アートに素養のある愛知県豊田市在住の須藤伸枝（春陽会審査員 田中英明画伯次女・株須藤事務所 専務取締役）でした。須藤伸枝は、後に一般社団法人だんだんアティックアート 代表理事になっています。

当初、愛知県では須藤伸枝が知人に絵の素晴らしさを説明し段ボールを販売することで協力しようと、身近な知人に購入していただいたり、広く知つてもらおうと豊田市で行われた豊田商工会議所主催の「第2回ビジネスフェア」に参加して呼びかけたりしました。

それがひとつの契機をもたらしました。ビジネスフェアに来場していた岡崎信用金庫の職員の目にとまり、この活動に協力できないかと検討して頂けたことになったのです。ただ、金融機関では段ボールでは使い道がないため、どうしようか悩んでいたところ、大林市郎理事長より、この地域の方の絵を現金封筒にしてはどうか?と、逆にご提案頂きました。できた現金封筒の評判はとてもよく、当初はキャッシュコーナーに置くとすぐになくなってしまうほどでした。

これを契機に、須藤伸枝が(株)須藤事務所を拠点とし、岡崎信用金庫・太啓建設(株)などの企業の協力をえて、参加企業、作品ともに増え、キャッシュカード、ボックスティッシュ、住宅用仮囲い、冊子の表紙、クリアファイルなどと形を変えながら、その活動を広げていきました。





そして、平成 25 年 1 月に「一般社団法人だんだんアティックアート」を立ち上げ、須藤伸枝が代表理事に就任することになりました。

任意団体では企業様からの参画が積極的に得られにくいため、法律の専門家、福祉の専門の方、福祉関係施設の方、地元の有力企業などと協力して、社団法人として社会に認知して頂き、信用される体制を整えることにしたためです。

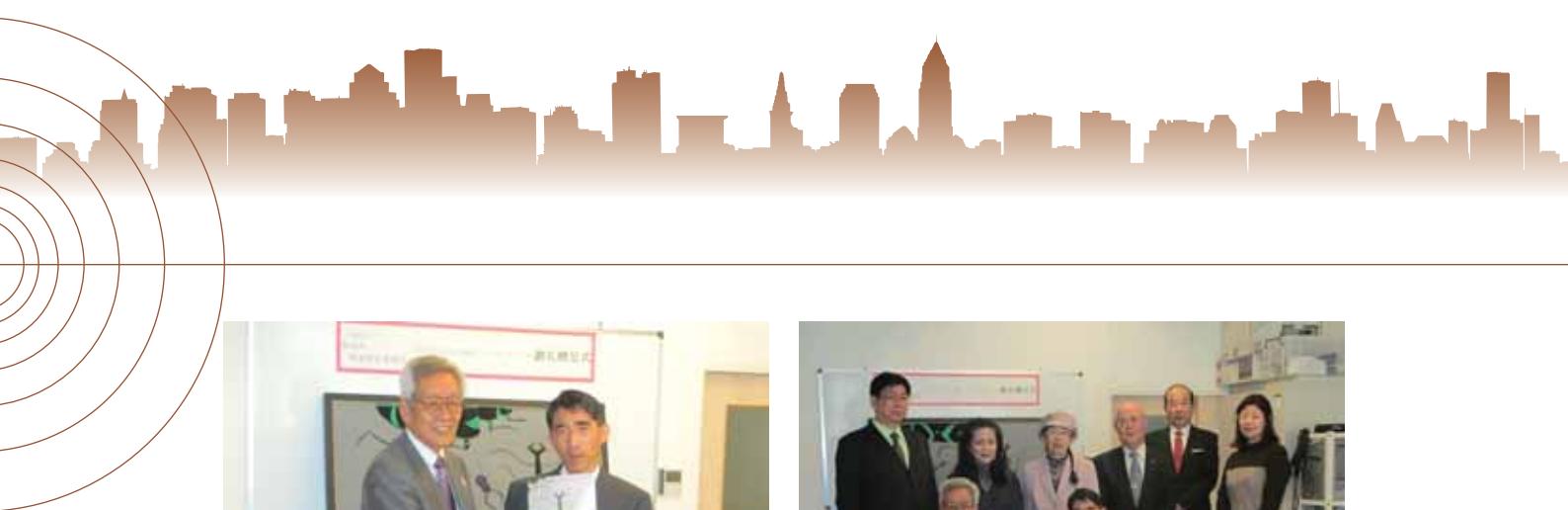
今ではたくさん企業様に採用して頂き、良い作品が多く生まれております。そして、だんだんアティックアートの活動は、採用していただいた企業から直接アーティストの方に謝礼金を渡して頂いております。このことがアーティストの方の励みもなっています。また、企業様からも「ビジネスを通じて障害者の作品が世にでるしくみがすばらしい。喜びが喜びを生む感動の輪がこの活動の魅力だ」と絶賛して頂いています。

そして、一般社団法人愛知県測量設計業協会も、この活動に共鳴し参画することとなりました。機関紙「方位」第 34 号では、『新しい福祉の「方位』と「一歩』』というタイトルでだんだんボックス レポートを掲載し、大きな反響を頂くことができました。

そして、機関紙「方位」第 35 号では表紙のデザインに採用し、2013 年 3 月 26 日に、愛知県測量設計業協会より、アーティストの宇平さん絵画採用の謝礼金の贈呈式を行いました。



機関紙「方位」第 35 号の表紙デザインは、皆様からの高い評価を頂くことができ、引き続き機関紙「方位」第 36 号の表紙のデザインにも採用しました。2014 年 2 月 15 日には、愛知県測量設計業協会より、アーティスト 9 名の絵の絵画採用の謝礼金と記念品の贈呈式も行いました。



贈呈式では、アーティストと直接顔を合わせることができ信頼関係も築け、アーティストの方の社会参加できたことの感動が伝わってきて、とても心温まる式となりました。

一般社団法人だんだんアティックアートは、今後も今まで培った信頼を損ねることのないように、世間に認められる作品を派出し、より多くの方に完成を認めてもらうべくクオリティーの高い作品の監修に努め、自発的に企業やアーティストが参加したくなるような活動を行っていく、とのことです。そして、(一社) 愛知県測量設計業協会は、C S R活動として、これからも一般社団法人だんだんアティックアートを支援していきたいと思っています。



## 一般社団法人だんだんアティックアート の会員のご紹介

株式会社須藤事務所  
太啓建設株式会社  
岡崎信用金庫  
株式会社鵜飼哲矢事務所  
有限会社尚友社製本所  
角文株式会社  
関興業株式会社  
小原建設株式会社  
株式会社ミックス  
株式会社マツタニ  
社会福祉法人 あさみどりの会  
社会福祉法人昭徳会助産所 高浜安立  
特定非営利法人こすもす畠

## 一緒に応援している仲間たち

株式会社須藤事務所  
太啓建設株式会社  
岡崎信用金庫  
東レ株式会社  
株式会社プレジデントワン  
愛知県ボウリング場協会  
角文株式会社  
株式会社トラスト  
株式会社メニコン  
株式会社おとうふ工房石川  
株式会社刈谷ハイウェイオアシス  
碧海信用金庫  
スターツ株式会社  
中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株式会社  
N P O 法人ナチュラルズ俱楽部  
小原建設株式会社  
一般社団法人刈谷防災まちづくり協議会  
関興業株式会社  
近畿日本ツーリスト  
一般社団法人愛知県測量設計業協会  
刈谷法人会 青年部  
東邦ガス株式会社



## 委員会報告



豊田高等特別支援学校(卒)／小林 正典「ライオンの家族」

40th  
Anniversary

## 委員会報告

総務委員会

広報委員会

測量委員会

建設コンサルタント委員会



愛測協は障がいが有りながらも自立を目指す  
才能あるアーティストを応援します。

# 委員会報告

## 総務委員会

委員長 久松 顯  
副委員長 寺島 新吾  
副委員長 梶川 洋

### 【組織改変】

総務委員会は、総会、定例勉強会及び全員研修会の開催と会員の資質向上及び福利厚生に関する事項などを活動内容としておりました。

平成 22 年度に、理事会及び協会の運営に対して合理化（省力化）と効率化の議論が高まり、二村会長から総務委員会に対して、協会活動のあり方など精査して組織全体の改革の検討を行うよう依頼されました。そこで、総務委員会がセンターとなり「組織改革委員会：通称青年部会」を組織し、「会員の受注拡大と経営基盤の安定」に寄与できるよう協会の効率的な在り方を検討しました。2 年間に渡る議論の末、平成 24 年度に以下の旧委員会の再編を実施しました。

### 旧委員会

- ・ 総務委員会
- ・ 公益委員会
- ・ 広報委員会
- ・ 技術委員会
- ・ 経営委員会
- ・ コンプライアンス委員会

### 新委員会

- ・ 総務委員会
- ・ 広報委員会
- ・ 測量委員会
- ・ 建設コンサルタンツ委員会

### 【総務委員会活動】

総務委員会は、旧総務委員会、旧経営委員会、旧コンプライアンス委員会が統合されて新しくなりました。

活動内容は、それぞれの旧委員会の活動を継承しており、

- ① 法人の管理運営
- ② 入退会及び表彰
- ③ 独禁法の遵守及び相談
- ④ 測量設計業務の実態調査及び解析
- ⑤ 会員の資質向上に関する研修会の開催

⑥その他、他の委員会に属さない事項  
となっています。

具体的な活動は以下の通りです。

- ・全員研修会及び経営研修会の開催
- ・通常総会の開催
- ・賀詞交換会の開催
- ・定例勉強会の開催
- ・独禁法遵守講習会
- ・県建設部受注実態調査及び分析
- ・県建設部、建設事務所への要望活動
- ・営業研修会の開催
- ・協会員の経営分析
- ・給与実態調査

尚、会員の親睦を目的に開催されていました「愛測会」は平成 23 年開催の第 196 回をもつて休会となりました。



定例勉強会



全員研修会



賀詞交歓会



営業研修会

## 【一般社団法人移行】

平成 25 年度当初における一般社団法人への移行を目指して、平成 24 年 10 月には臨時総会を開催し、新定款を議決した。10 月 17 日付で愛知県知事に対し移行認可申請を行い、県公益認定等審議会の諮問、答申を経て、平成 25 年 3 月 21 日付で認可されました。平成 25 年 4 月 1 日付で移行登記が完了し、一般社団法人として発足しました。

# 委員会報告

## 広報委員会

委員長 石田 徹  
副委員長 浅井 俊治  
副委員長 須藤 一彦  
副委員長 早川 正喜

広報委員会は、広く県民の皆様に測量・設計業に対する認識を深めていただくための広報活動や災害緊急時における技術協力への対応など、公益性の高い事業を担当しております。

### 各発注機関への要望活動

当協会員の更なる活用と受注機会の拡大を図るため、毎年5月に全会員が参加して国、県、市町村の各発注機関に対して要望活動を実施しております。

今年も全会員が25班に分かれて、5月19日～5月23日の期間で要望書や会員名簿、技術機関誌「テクノアイ」を配布して要望活動を行いました。

### 広報誌「方位」の発刊

当協会の存在と測量設計業の社会的意義が広く一般の皆様にも周知されるよう毎年11月に広報誌「方位」を発刊しています。

今年度は当協会が40周年を迎えますので、「40周年記念誌」として発刊を行い、各発注機関および関係団体の代表の方々からのお祝いのお言葉や40年間の建設行政と当協会の歩み、これから社会資本整備など40周年に因んだ特集記事を掲載いたしました。この広報誌「方位」は、各発注機関のみならず公立図書館や技術系学校にも配布し、業界のアピールに努めています。

### 災害等緊急時における協力体制整備と災害連絡模擬訓練の実施

当協会では、昭和51年8月に災害協力体制を確立して以来、長年にわたり災害発生時に地域社会へ貢献すべく歩みを進めてまいりました。

平成14年度には名古屋市との災害協定を締結し、平成15年度には当協会の上部組織にあたる全測連中部地区協議会と国土交通省中部地方整備局が災害協定を締結、平成23年3月には全測連中部地区協議会を構成する愛知・岐阜・静岡の三県測協間で「災害時における中部地区県測協の応援に関する協定」を結び、被害が広範囲に及ぶ大規模災害を想定した業者間の連携強化にも努めてまいりました。

そして、三県測協間の災害応援協定を締結した直後の平成23年3月25日、愛知県とも災害協力に関する協定を締結し、愛知県建設部が管理する公共土木施設が被災した場合などにおいて、県当局から当協会の会員に対して、緊急的な応急対策の支援を目的とした出動要請を行い、当協会は必要に応じて会員各社に関する情報を県当局に提供することが定められました。

このような各関係機関との協定にもとづいて、災害発生時に迅速かつ的確な対応を実現するため、当協会では災害対策本部と愛知県内9地区から成る災害協力体制を構築しております。

また、災害連絡模擬訓練を毎年実施することで、会員各社の被災状況や出動可能な技術者数等の情報収集を迅速に行い、各発注機関からの情報提供の要請に備えるとともに災害発生時の会員相互支援体制の確立に努めています。



建通新聞（2014年9月3日掲載記事）

### B C P（事業継続計画）への取り組み

災害発生時に各関係機関と連携して復旧・復興支援を行うためには、会員各社が常日頃から防災への意識を高めるとともに、「緊急時における事業継続」に備える必要があると考え、今年7月にB C Pワーキンググループを発足しました。

ワーキンググループの活動目的は「会員各社のB C P策定支援」と「協会B C Pの策定」ですが、今年度は会員各社のB C P策定を支援するために以下の取り組みを行っております。

#### 会員向けB C Pガイドブック&サンプル作成

愛知県が作成した「あいちB C Pモデル」を測量設計業向けにアレンジして、会員向けのB C Pガイドブックと事業継続計画書サンプルを作成します。（平成26年7月～12月）

#### 勉強会によるB C P策定支援（平成27年1月～3月）

作成した会員向けB C Pガイドブックと事業継続計画書サンプルを使って勉強会を開催します。



以上、広報委員会の活動についてご紹介をさせていただきました。

広報委員会は正副会長指導の下、16名の委員で活動していますが、BCPのワーキンググループでは委員以外の会員6社の方々にも参加いただいております。

また、要望活動や広報誌「方位」の配布、災害協力体制、災害連絡模擬訓練につきましても会員各社のご協力のおかげで実施することができます。

この誌面をお借りして、皆様に御礼申し上げますとともに、今後とも広報委員会の活動に対してご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

# 委員会報告

## 測量委員会

委員長 中西喜久雄  
副委員長 榊原 雅彦  
副委員長 森 正樹

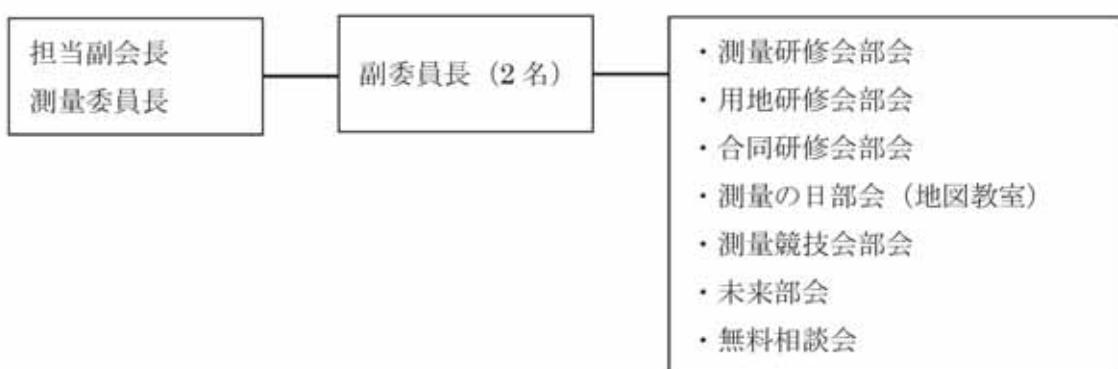
測量委員会は平成 24 年の組織改革により、旧技術委員会、公益委員会、広報委員会より測量関連の事業を引き継ぎ、

- ①測量技術（地理空間情報等）の研鑽
- ②研修会及び講師派遣（国・県・市町村等）
- ③測量無料相談（一般県民等）
- ④「測量の日」（国土地理院）記念事業の実施
- ⑤その他測量（用地業務含む）に関する事項

を命題として、中西委員長を先頭に 17 名のメンバーで活動しています。

以下に、組織図及びこの一年の主な活動を紹介します。

### <組織図>



### 1. 愛知県農業クラブ連盟測量競技会支援

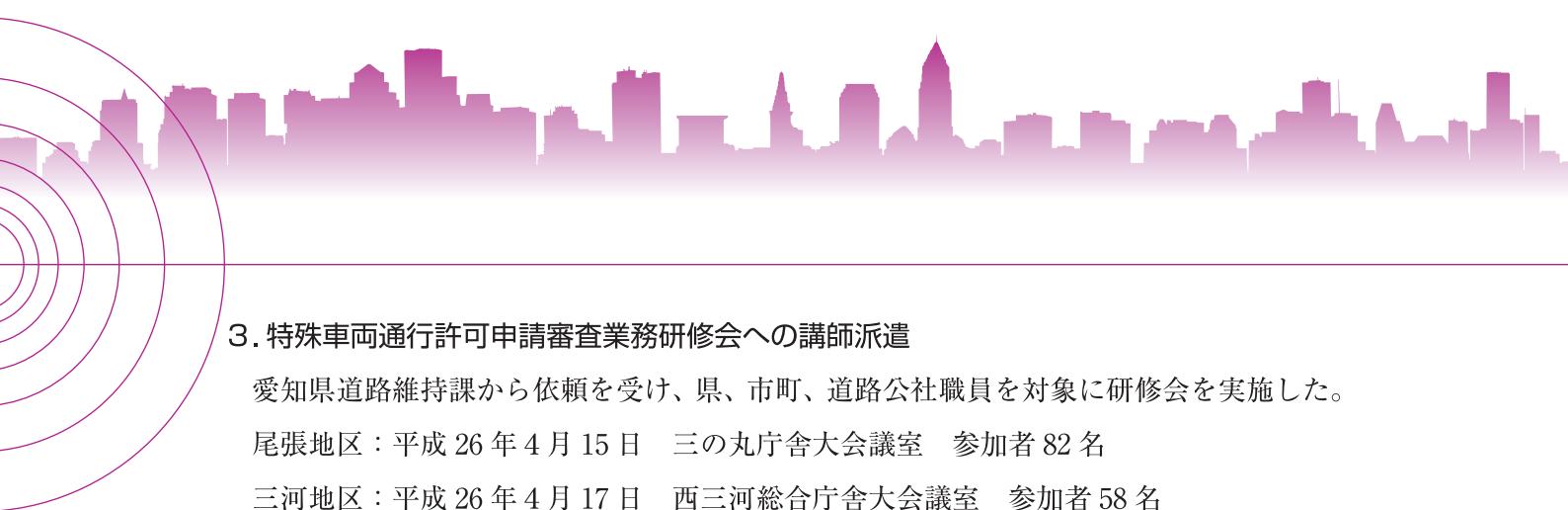
平成 26 年 6 月 11 日猿投農林高校を会場として開催され、愛測協は測量競技会の審査員と最新の測量技術（G N S S、3 D など）紹介を行った。

活動の詳細については「公益事業の紹介」ページをご覧ください。

### 2. 小学校での地図教室

「測量の日」関連事業として、今年度も国土地理院中部地方測量部と共に「地図教室と測量体験」を愛知県内の 3 校の小学校において実施した。

活動の詳細については「公益事業の紹介」ページをご覧ください。



### 3. 特殊車両通行許可申請審査業務研修会への講師派遣

愛知県道路維持課から依頼を受け、県、市町、道路公社職員を対象に研修会を実施した。

尾張地区：平成 26 年 4 月 15 日 三の丸庁舎大会議室 参加者 82 名

三河地区：平成 26 年 4 月 17 日 西三河総合庁舎大会議室 参加者 58 名

講 師：(株) カナエジオマチックス、(株) 愛河調査設計

### 4. 建設技術研修会への講師派遣

愛知県が職員向けに開催した平成 26 年度建設技術研修のカリキュラムの一コマに「測量概論・最新の測量技術」をテーマとして講義を行った。

講 師：愛測協技術顧問大西氏

### 5. 測量技術研修会開催

県及び市町職員の測量知識の研鑽と実務体験を目的に県内 4ヶ所の建設事務所に講師を派遣し講習会を行った。

カリキュラム：「測量概論・最新の測量技術」の講義及び「TS 測量」の実習

実施結果：H25.10.23 新城設楽建設事務所 参加者 27 名

H25.11.12 西三河建設事務所 参加者 20 名

H25.11.19 一宮建設事務所 参加者 42 名

H25.11.26 豊田加茂建設事務所 参加者 29 名 合計 118 名



### 6. 用地事務研修会開催

県及び市町職員を対象に用地測量知識の研鑽を目的に県内 2ヶ所の建設事務所に講師を派遣し講習会を行った。



カリキュラム：「用地測量業務から登記業務に至るまでの諸課題」の講義

実施結果：H25.10.30 一宮建設事務所 参加者 50 名

H25.11.18 西三河建設事務所 参加者 20 名 合計 70 名

上記以外にも測量無料相談会の開設や地理空間情報産学官中部地区連携協議会への参画、地籍整備推進講習会への講師派遣など行っていますが、今後は協会員の技術研鑽に資することも視野に入れ活動をしたいと考えています。

# 委員会報告

## 建設コンサルタンツ委員会

委員長 廣瀬 博  
副委員長 溝口 清孝  
副委員長 岩田 敏彦

「建設コンサルタンツ委員会」は、平成 24 年 4 月に愛測協の“組織改革”によりに新たにスタート致しました。平成 23 年度までは技術委員会名にて、測量全般および土木設計全般について各々技術の向上と改善に関する事項への活動してきました。

発足してから 3 年目、法人化への移行もあって 3 年間を 1 スパンとして活動計画を作成し、新たな委員会にて幾度も議論を重ね、県建設部建設企画課からのアドバイスも頂きました。次に「三つの A・I 活動」を活動名とその内容実績を報告致します。

### 「アソシエーション A・I」… 愛知県の社会資本整備を考える集団の現場研修会

「建設事務所」・「土木研究会」・「愛測協」の三者で、会員が設計担当した現場を現地で研修し、屋内で意見交換する。

研修目的：一宮地区の自転車歩行者道設置工事箇所の現状を見学し、その課題や問題点について検討会で意見交換を行う。

研修場所：1. 現地研修〔一般県道長洞犬山線 自転車歩行者道設置工事現場（犬山市大字前原地内）〕  
2. 検討会〔犬山国際観光センター フロイデ 2 階 多目的研修室（犬山市松本町 4-21）〕

研修日時：平成 24 年 11 月 22 日（木）13：30～16：20

参加者：62 名（愛知県一宮建設事務所 15 名、一宮土木研究会 15 名、愛知県測量設計業協会 19 社、32 名）



## 「シビルエンジニアA・I」…受発注技術者のコミュニケーションによる向上を目指す意見交換会

受発注者の立場の違いをふまえ、業務での意見、要望など自由に話し合い事業の円滑化とともに品質確保も図る。

### 「平成25年度 愛知県知立建設事務所」

日時：平成25年8月1日（木）13：30

場所：知立建設事務所 大会議室

参加：建設事務所7名、協会員19名



### 「平成26年度 愛知県豊田加茂建設事務所」

日時：平成26年10月7日（火）13：30

場所：豊田加茂建設事務所 大会議室

参加：建設事務所8名、協会員18名



## 「産・官・学A・I」…産官学による勉強会

「南海トラフ巨大地震」に対する「防災・減災」をテーマとして産官学による勉強会を開催する。

### その1 「大災害発生時における対応についての勉強会」開催

日 時：平成25年7月12日（金） 13：30～17：00

KKRホテル名古屋

第一部 「東日本大震災の復興支援業務（岩手県）を振り返って」 50分

愛知県建設部建設企画課 主査 松浦 元彦 様

第二部 「東日本大震災における業界の対応について」 110分

(一社) 宮城県測量設計業協会 技術者育成委員長 佐藤 泰法 様

第三部 「当協会及び建設コン委員会から提案したいこと」 20分

(一社) 愛知県測量設計業協会 建コン副委員長 岩田 敏彦 様

参加者：愛知県建設部企画課はじめ55名、名古屋市土木事務所はじめ6名、

(一社) 愛知県土木研究会事務局はじめ5名、愛測協会員78名、計144名



## その2 「災害に強い町つくり～地盤の液状化から我が家を守る～」勉強会開催

「南海トラフ巨大地震」に対する「防災・減災」をテーマとして産官学による勉強会を開催する。



日 時：平成 25 年 10 月 15 日（火） 15：00

場 所：名古屋通信会館

講 師：名古屋工業大学 高度防災工学センター長 張 鋒 様

内 容：地盤と構造物に関する知見、液状化現象とその対策

参 加：県建設部・各建設事務所 32 名、県土木研究会 2 名、愛測協会

員 59 名、計 93 名



## 紹介



豊田養護学校／赤尾 綾香「海の中、みんなで遊ぼう」

40th  
Anniversary



愛測協は障がいが有りながらも自立を目指す  
才能あるアーティストを応援します。

# 紹 介

## ○ 協会顧問のご紹介 ○ (敬称省略)

### 顧問団長



#### 倉知俊彦・(くらち としひこ)

愛知県議会議員（豊田市選出、当選11回）平成10年11月 顧問就任

##### ■略歴

- 昭和6年生  
昭和25年3月 愛知県立豊田西高等学校卒業  
昭和46年4月 愛知県議会議員当選  
昭和57年4月 自由民主党 愛知県議団幹事長  
昭和62年5月 愛知県議会議長  
平成2年7月 自由民主党 愛知県支部連合会幹事長  
平成9年5月 愛知県議会 首都機能移転・地方分権調査特別委員会委員長  
平成13年5月 愛知県議会 国際博覧会特別委員会委員長  
平成15年12月 自由民主党 愛知県支部連合会会长  
平成18年5月 愛知県議会 地方分権・道州制調査特別委員会委員長  
平成25年1月 自由民主党 愛知県支部連合会会长代理  
平成25年5月 愛知県議会 議員定数等調査特別委員会委員長

### 顧 問



#### 青山秋男・(あおやま あきお)

愛知県議会議員（岡崎市選出、当選6回）平成23年5月 顧問就任

##### ■略歴

- 昭和21年生  
昭和40年3月 愛知県立岡崎工業高等学校卒業  
平成3年4月 愛知県議会議員当選  
平成7年5月 愛知県議会 土木建築委員会委員長  
平成10年5月 愛知県議会 衛生環境委員会委員長  
平成18年5月 自由民主党 愛知県支部連合会広報委員長  
平成19年5月 愛知県議会 議長  
平成21年5月 自由民主党 愉知県支部連合会副会長  
平成22年5月 自由民主党 愉知県支部倫理党紀委員長  
平成23年5月 愛知県議会 議会運営委員会委員長  
平成24年5月 愛知県議会 行財政改革・道州制調査特別委員会委員長

### 顧 問



#### 久保田 浩文・(くぼた ひろふみ)

愛知県議会議員（稻沢市選出、当選5回）平成23年5月 顧問就任

##### ■略歴

- 昭和28年生  
昭和50年3月 日本大学経済学部卒業  
平成7年4月 愛知県議会議員当選  
平成13年5月 愛知県議会 企画環境委員会委員長  
平成19年5月 愛知県議会 議会運営委員会委員長  
平成20年5月 愛知県 監査委員  
平成21年10月 自由民主党 愉知県支部連合会組織委員長  
平成22年5月 自由民主党 愉知県支部連合会副会長  
平成25年5月 愛知県議会 議長  
平成26年6月 自由民主党 愉知県支部連合会幹事長

# 紹介

顧問



## 鈴木 孝昌・(すずき たかまさ)

愛知県議会議員（豊橋市選出、当選4回）平成23年5月 顧問就任

### ■略歴 昭和19年生

- 昭和45年3月 日本大学工学部卒業  
平成11年4月 愛知県議会議員当選  
平成16年5月 愛知県議会 健康福祉委員会委員長  
平成19年5月 自由民主党 愛知県支部連合会政調会副会長  
平成21年5月 愛知県議会 副議長  
平成23年5月 自由民主党 愛知県議会議員団長  
平成24年5月 愛知県 監査委員  
平成26年5月 愛知県議会 議会運営委員会委員長

顧問



## 澤田 丸四郎・(さわだ まるしろう)

愛知県議会議員（常滑市選出、当選4回）平成23年5月 顧問就任

### ■略歴 昭和30年生

- 昭和55年3月 慶應義塾大学経済学部卒業  
平成11年4月 愛知県議会議員当選  
平成17年5月 愛知県議会 建設委員会委員長  
平成21年5月 自由民主党 愛知県議会議員団幹事長  
平成22年5月 自由民主党 愛知県支部連合会組織委員長  
平成23年5月 愛知県 監査委員  
平成24年5月 愛知県議会 副議長  
平成26年6月 自由民主党 愛知県支部連合会組織委員長

# 紹 介

## 役 員 名 簿

(一社) 愛知県測量設計業協会

顧問団長	倉 知 俊 彦	愛知県議会議員
顧 問	青 山 秋 男	愛知県議会議員
〃	久保田 浩 文	愛知県議会議員
〃	鈴 木 孝 昌	愛知県議会議員
〃	澤 田 丸四郎	愛知県議会議員
会 長	二 村 貴 和	(株) 名邦テクノ
副 会 長	今 村 鐘 年	中部復建(株)
〃	青 木 拓 生	(株) 拓工
理 事	久 松 顯	久松測量設計(株)
〃	梶 川 洋	(株)梶川土木コンサルタント
〃	寺 島 新 吾	(株)中部テック
〃	石 田 徹	(株)石田技術コンサルタンツ
〃	浅 井 俊 治	(株)大増コンサルタンツ
〃	須 藤 一 彦	(株)須藤事務所
〃	早 川 正 喜	早川都市計画(株)
〃	中 西 喜久雄	(株)葵設計事務所
〃	森 正 樹	(株)カナエジオマチックス
〃	榎 原 雅 彦	玉野総合コンサルタント(株)
〃	廣瀬 博	(株)大建コンサルタント
〃	溝 口 清 孝	協和調査設計(株)
〃	岩 田 敏 彦	中日本建設コンサルタント(株)
監 事	藤 本 博 史	中央コンサルタンツ(株)
〃	長谷川 英 輝	公認会計士・税理士(北斗中央税理士法人)
理 事 (事務局長)	森 伸 行	(一社) 愛知県測量設計業協会

# 紹介

## 委員会名簿

<b>総務委員会</b>	委員長 久寺 新 委員 〃 〃 〃 〃 〃	副委員長 〃 梶中 慎 酒嶋 仁誠 井田 酒嶋 永浜 田田 酒嶋 浜哲	松島 川西 酒嶋 永浜 田田 酒嶋 浜哲	顧吾 洋仁 慎之 酒嶋 永浜 行哲	委員 員 員 担当副会長	木口 橋高 坂岩 石今	木口 橋野 坂木 黑村	木口 橋高 坂木 黑村	一朗 淳嗣 志和 年喜 英晃 利成 鐘
<b>広報委員会</b>	委員長 副委員長 〃 〃 〃 〃 〃 〃	石浅 須早 山青 相伊 香	田井 藤川 本井 原藤 村	徹治 彦喜 竜輔 生悟 信男	委員 員 員 担当副会長	酒確 加山 川加 大今	井井 納本 澄藤 山村	泰 章 健明 鐘	明稔 弘好 功司 夫年
<b>測量委員会</b>	委員長 副委員長 〃 〃 〃 〃 〃 〃	中森 榎柴 伊安 青鈴	西原 田藤 藤山 木	喜久 正雅 修宏 司一 晴善	委員 員 員 アドバイザー 担当副会長	富太 黒早 山大 青	田田 鍾川 田西 木	昌和 正友 雅俊 拓	也哉 男幸 登次 生
<b>建設コンサルタント委員会</b>	委員長 副委員長 〃 〃 〃 〃	廣瀬 溝岩 森舟 多伊 勢野	瀬口 田橋 賀真 暁彦	博孝 彦雄 富博 文澄 彦	委員 員 員 アドバイザー 担当副会長	濱加 鈴國 馬白 青	田藤 木崎 場木 木	常義 章順 慎敏 拓	雄規 夫二 一和 生

# 紹介 会員紹介

## (株)アイエスシイ



代表取締役 森 富雄  
〒 466-0059  
名古屋市昭和区福江2-9-33  
TEL 052-882-1201  
FAX 052-882-1303

### 登録部門

測量業 登録 平成22年1月13日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年11月28日  
一級建築士事務所 登録 平成24年11月22日  
地質調査業 登録 平成25年11月13日

## (株)愛河調査設計



代表取締役 山本四十三  
〒 457-0074  
名古屋市南区本地通六丁目8番地1  
TEL 052-819-6508  
FAX 052-819-6509

### 登録部門

測量業 登録 平成23年2月19日  
建設コンサルタント業 登録 平成24年12月18日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年9月30日  
一級建築士事務所 登録 平成22年2月15日

## 愛徳コンサルタント(株)



代表取締役 田中 康則  
〒 470-0342  
豊田市大清水町大清水38番地10  
TEL 0565-45-5557  
FAX 0565-47-7817

### 登録部門

測量業 登録 平成26年2月22日  
建設コンサルタント業 登録 平成25年5月16日  
補償コンサルタント業 登録 平成26年1月9日

## (株)愛龍設計事務所



代表取締役 小栗 金夫  
〒 470-0373  
豊田市四郷町森前2番地2  
TEL 0565-45-2935  
FAX 0565-45-9519

### 登録部門

測量業 登録 平成22年6月15日  
二級建築士事務所 登録 平成26年3月3日

## (株)葵エンジニアリング



代表取締役 吉永 次男  
〒 453-0018  
名古屋市中村区佐古前町22番6号  
TEL 052-486-2200  
FAX 052-483-5005

### 登録部門

測量業 登録 平成25年5月20日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年2月16日  
補償コンサルタント業 登録 平成21年11月30日  
一級建築士事務所 登録 平成22年3月3日  
地質調査業 登録 平成24年12月22日

## あおい建設コンサルタント(株)



代表取締役 青井 雅純  
〒 461-0005  
名古屋市東区東桜2丁目3-7  
TEL 052-933-2091  
FAX 052-933-2093

### 登録部門

測量業 登録 平成26年10月15日  
建設コンサルタント業 登録 平成24年6月10日  
補償コンサルタント業 登録 平成23年12月27日  
一級建築士事務所 登録 平成25年5月11日

## 葵コンサルタント(株)



代表取締役 中川 恵子  
〒 444-2118  
岡崎市河原町13番地2  
TEL 0564-22-7058  
FAX 0564-25-2975

### 登録部門

測量業 登録 平成22年12月12日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年5月25日  
補償コンサルタント業 登録 平成26年7月29日  
一級建築士事務所 登録 平成24年3月10日

## (株)葵設計事務所



代表取締役 中西喜久雄  
〒 440-0085  
豊橋市下地町二丁目51番地  
TEL 0532-55-5263  
FAX 0532-55-5218

### 登録部門

測量業 登録 平成22年10月18日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年9月1日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月25日



## (株)アクセス



代表取締役 赤松 光昭  
〒 448-0013  
刈谷市恩田町一丁目159番地1  
TEL 0566-23-8667  
FAX 0566-21-0801

### 登録部門

測量業 登録 平成26年8月4日  
建設コンサルタント業 登録 平成23年2月4日

## (株)朝日設計事務所



代表取締役 稲垣 芳郎  
〒 465-0024  
名古屋市名東区本郷三丁目118番地  
TEL 052-774-7181  
FAX 052-774-0090

### 登録部門

測量業 登録 平成23年1月24日  
建設コンサルタント業 登録 平成24年11月25日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月12日

## (有)旭測量事務所



代表取締役 金子 昭義  
〒 440-0851  
豊橋市前田南町一丁目4番地の12  
TEL 0532-54-5934  
FAX 0532-54-3645

### 登録部門

測量業 登録 平成25年5月27日  
建設コンサルタント業 登録 平成22年2月21日  
補償コンサルタント業 登録 平成23年8月29日

## (株)あづま



代表取締役 柴田 修身  
〒 440-0026  
豊橋市多米西町一丁目20番地9  
TEL 0532-63-1255  
FAX 0532-63-8075

### 登録部門

測量業 登録 平成26年4月22日  
建設コンサルタント業 登録 平成25年9月22日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年6月29日  
一級建築士事務所 登録 平成23年7月29日

## アマノコンサルタント(株)



代表取締役 天野 隆俊  
〒 444-2131  
岡崎市青木町22番地5  
TEL 0564-45-2445  
FAX 0564-45-7776

### 登録部門

測量業 登録 平成26年3月13日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年2月26日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月25日

## アローコンサルタント(株)



代表取締役 小川 隆三  
〒 462-0007  
名古屋市北区如意三丁目62番地  
TEL 052-901-7050  
FAX 052-901-7218

### 登録部門

測量業 登録 平成26年8月31日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年1月31日  
一級建築士事務所 登録 平成26年8月23日  
地質調査業 登録 平成25年5月31日

## (株)安藤調査設計事務所



代表取締役 安藤 礼志  
〒 444-0034  
岡崎市十王町2丁目31番地1  
TEL 0564-23-1457  
FAX 0564-23-3877

### 登録部門

測量業 登録 平成25年7月2日  
建設コンサルタント業 登録 平成25年12月12日  
補償コンサルタント業 登録 平成24年2月28日

## (株)石田技術コンサルタンツ



代表取締役 石田 徹  
〒 485-0028  
小牧市東新町50番地  
TEL 0568-73-1085  
FAX 0568-73-1099

### 登録部門

測量業 登録 平成25年11月13日  
建設コンサルタント業 登録 平成25年4月10日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月25日  
一級建築士事務所 登録 平成25年6月20日  
地質調査業 登録 平成25年7月27日

## (株)宇井測量設計

代表取締役 宇井 源悟  
〒 444-2528  
豊田市東渡合町根畑15番地  
  
TEL 0565-64-2427  
FAX 0565-64-2439

### 登録部門

測量業 登録 平成22年8月31日  
建設コンサルタント業 登録 平成25年6月5日  
補償コンサルタント業 登録 平成24年11月15日

## NTCコンサルタンツ(株)

代表取締役 大村 仁  
〒 460-0012  
名古屋市中区千代田二丁目16番10号  
TEL 052-261-1321  
FAX 052-261-1655

### 登録部門

測量業 登録 平成25年4月17日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年2月16日  
補償コンサルタント業 登録 平成26年1月30日  
一級建築士事務所 登録 平成23年7月15日  
地質調査業 登録 平成24年12月22日

## (株)MSS

  
代表取締役 酒井 誠  
〒 454-0054  
名古屋市中川区八剣町三丁目24番地  
TEL 052-602-7715  
FAX 052-602-7716

### 登録部門

測量業 登録 平成24年5月10日

## (株)オオバ名古屋支店

  
支店長 納村 和秀  
〒 460-0003  
名古屋市中区錦一丁目19番24号  
名古屋第一ビル7階  
TEL 052-219-0083  
FAX 052-219-0093

### 登録部門

測量業 登録 平成25年6月14日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年10月1日  
補償コンサルタント業 登録 平成26年1月9日  
一級建築士事務所 登録 平成25年4月16日  
地質調査業 登録 平成24年12月22日

## (有)大場測量設計事務所

  
代表取締役 大場 孝男  
〒 444-0835  
岡崎市城南町3丁目4-3  
  
TEL 0564-52-8505  
FAX 0564-52-7919

### 登録部門

測量業 登録 平成26年2月16日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年9月30日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月15日

## (株)大増コンサルタンツ

  
代表取締役 増井 壽子  
〒 454-0828  
名古屋市中川区小本2丁目14番5号  
  
TEL 052-363-1131  
FAX 052-363-6045

### 登録部門

測量業 登録 平成25年6月14日  
建設コンサルタント業 登録 平成25年3月15日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月12日  
二級建築士事務所 登録 平成23年11月30日  
地質調査業 登録 平成23年4月30日

## (株)大屋測量設計

  
代表取締役 大屋 恵雄  
〒 451-0025  
名古屋市西区上名古屋三丁目20番2号 大井ビル301号  
TEL 0566-24-6606  
FAX 0566-24-6413

### 登録部門

測量業 登録 平成24年6月19日

## (株)梶川土木コンサルタント

  
代表取締役 梶川 洋  
〒 448-0037  
刈谷市高倉町4丁目508番地  
  
TEL 0566-24-6606  
FAX 0566-24-6413

### 登録部門

測量業 登録 平成22年2月19日  
建設コンサルタント業 登録 平成24年5月15日  
補償コンサルタント業 登録 平成24年3月27日  
一級建築士事務所 登録 平成22年6月7日



## (株)カナエジオマチックス



代表取締役 森 正樹  
〒 460-0012  
名古屋市中区千代田一丁目12番5号  
TEL 052-249-9611  
FAX 052-249-9601

### 登録部門

測 量 業	登録 平成23年1月21日
建設コンサルタント業	登録 平成23年8月6日
補償コンサルタント業	登録 平成22年4月10日

## (株)神田設計



代表取締役 伊藤 悟  
〒 451-0062  
名古屋市西区花の木一丁目3番5号  
TEL 052-522-3121  
FAX 052-522-3000

### 登録部門

測 量 業	登録 平成26年9月1日
建設コンサルタント業	登録 平成26年10月1日
補償コンサルタント業	登録 平成26年5月14日
一級建築士事務所	登録 平成21年12月2日

## (株)協同コンサルタント



代表取締役 近藤 優  
〒 458-0801  
名古屋市緑区鳴海町字中汐田84番地1  
TEL 052-624-3311  
FAX 052-624-1740

### 登録部門

測 量 業	登録 平成22年5月27日
建設コンサルタント業	登録 平成24年7月31日
補償コンサルタント業	登録 平成26年1月30日
一級建築士事務所	登録 平成23年1月29日

## 協和調査設計(株)



代表取締役 溝口 清孝  
〒 454-0839  
名古屋市中川区篠原橋通二丁目44番地  
TEL 052-365-3711  
FAX 052-365-3712

### 登録部門

測 量 業	登録 平成23年1月21日
建設コンサルタント業	登録 平成26年10月1日
補償コンサルタント業	登録 平成25年4月26日
一級建築士事務所	登録 平成26年3月22日
地質調査業	登録 平成25年6月1日

## (株)小嶋コンサルタント



代表取締役 町田 穂積  
〒 445-0073  
西尾市寄住町上田34番地1  
TEL 0563-53-5331  
FAX 0563-53-5341

### 登録部門

測 量 業	登録 平成26年2月26日
建設コンサルタント業	登録 平成25年7月9日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月12日

## コムワークスエンジニアリング(株)



代表取締役 今枝 晃  
〒 466-0058  
名古屋市昭和区白金三丁目19番15号  
TEL 052-884-8411  
FAX 052-884-8488

### 登録部門

測 量 業	登録 平成25年6月6日
-------	--------------

## (株)酒井設計事務所



代表取締役 酒井 利之  
〒 471-0827  
豊田市平山町5丁目1番地  
TEL 0565-27-1762  
FAX 0565-29-8747

### 登録部門

測 量 業	登録 平成26年6月30日
一級建築士事務所	登録 平成24年6月20日

## 栄土地測量設計(株)



代表取締役 青山 紘一  
〒 440-0806  
豊橋市八町通四丁目49番地  
TEL 0532-55-1230  
FAX 0532-55-3107

### 登録部門

測 量 業	登録 平成25年10月2日
建設コンサルタント業	登録 平成26年8月17日
補償コンサルタント業	登録 平成23年5月31日

## (株)三愛設計



代表取締役 渡辺 武雄  
〒 492-8144  
稻沢市小池一丁目5番8号

TEL 0587-32-8313  
FAX 0587-23-2007

### 登録部門

測量業 登録 平成21年12月16日  
建設コンサルタント業 登録 平成25年11月5日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月12日  
一級建築士事務所 登録 平成23年6月4日

## (株)サンキ



代表取締役 鈴木 勝彦  
〒 456-0032  
名古屋市熱田区三本松町6番5号

TEL 052-884-2555  
FAX 052-882-8001

### 登録部門

測量業 登録 平成26年9月22日

## 三協調査設計(株)



代表取締役 浜田 哲也  
〒 460-0015  
名古屋市中区大井町4番17号

TEL 052-331-5371  
FAX 052-331-8619

### 登録部門

測量業 登録 平成25年5月20日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月12日  
一級建築士事務所 登録 平成25年12月15日

## 敷島測量設計(株)



代表取締役 中島 正義  
〒 462-0014  
名古屋市北区楠味鏡三丁目302番地

TEL 052-901-5005  
FAX 052-901-6780

### 登録部門

測量業 登録 平成26年7月24日

## 設楽測量設計(株)



代表取締役 加藤 博俊  
〒 441-2302  
北設楽郡設楽町清崎字岩井25番地2  
TEL 0536-62-1456  
FAX 0536-62-2080

### 登録部門

測量業 登録 平成25年2月23日  
補償コンサルタント業 登録 平成26年8月31日

## 柴山コンサルタント(株)



代表取締役 加藤 銑彦  
〒 461-0011  
名古屋市東区白壁一丁目69番地

TEL 052-961-0111  
FAX 052-961-8560

### 登録部門

測量業 登録 平成25年9月10日  
建設コンサルタント業 登録 平成24年12月2日  
補償コンサルタント業 登録 平成24年3月27日  
一級建築士事務所 登録 平成25年5月22日

## 信栄測量設計(株)



代表取締役 高木 喜一  
〒 471-0024  
豊田市元城町4丁目28番地

TEL 0565-31-1113  
FAX 0565-31-1149

### 登録部門

測量業 登録 平成22年12月21日  
建設コンサルタント業 登録 平成24年11月1日  
補償コンサルタント業 登録 平成23年11月26日  
一級建築士事務所 登録 平成22年6月27日

## 新栄測量設計(株)



代表取締役 赤石 和彦  
〒 485-0044  
小牧市常普請3-124

TEL 0568-76-1755  
FAX 0568-76-1749

### 登録部門

測量業 登録 平成21年2月22日  
建設コンサルタント業 登録 平成22年7月12日  
補償コンサルタント業 登録 平成26年1月29日



## 新晃コンサルタント(株)



代表取締役 鈴木 善晴  
〒 462-0853  
名古屋市北区志賀本通二丁目46  
番地  
TEL 052-911-1286  
FAX 052-914-5553

### 登録部門

測 量 業	登録 平成26年 1月23日
建設コンサルタント業	登録 平成25年 8月27日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月12日

## (株)新城測量設計



代表取締役 加納 弘  
〒 441-1325  
新城市字二本松10番地の7  
TEL 0536-22-2730  
FAX 0536-22-2733

### 登録部門

測 量 業	登録 平成26年 8月15日
建設コンサルタント業	登録 平成25年11月 9日
補償コンサルタント業	登録 平成26年 5月31日

## (株)新日



代表取締役 秋山 学  
〒 454-0011  
名古屋市中川区山王一丁目8-28  
TEL 052-331-5356  
FAX 052-331-4010

### 登録部門

測 量 業	登録 平成25年 6月14日
建設コンサルタント業	登録 平成24年 1月23日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月12日
一級建築士事務所	登録 平成22年 8月13日

## 杉浦測量(有)



代表取締役 高木 清  
〒 444-0802  
岡崎市美合町字西屋敷24番地1  
TEL 0564-51-0037  
FAX 0564-55-6544

### 登録部門

測 量 業	登録 平成22年 1月26日
-------	----------------

## (有)杉田測量設計事務所



代表取締役 杉田 正春  
〒 444-3502  
岡崎市大幡町字東方便野22  
TEL 0564-48-7511  
FAX 0564-48-5061

### 登録部門

測 量 業	登録 平成22年 2月 1日
-------	----------------

## (株)須藤事務所



代表取締役 須藤 一彦  
〒 471-0842  
愛知県豊田市土橋町四丁目67番地  
TEL 0565-29-0281  
FAX 0565-29-0641

### 登録部門

測 量 業	登録 平成26年 2月17日
-------	----------------

## セイコー測量設計(株)



代表取締役 松本 正則  
〒 463-0042  
名古屋市守山区野萩町13番8号  
TEL 052-791-3150  
FAX 052-793-3459

### 登録部門

測 量 業	登録 平成25年 4月19日
-------	----------------

## 双和測量設計(株)



代表取締役 日置 俊夫  
〒 452-0839  
名古屋市西区見寄町173番地  
TEL 052-503-2109  
FAX 052-503-3083

### 登録部門

測 量 業	登録 平成22年 8月31日
-------	----------------

## 太栄コンサルタンツ(株)



代表取締役 川口 英朗  
〒 460-0012  
名古屋市中区千代田三丁目26番  
18号  
TEL 052-332-3355  
FAX 052-321-3275

### 登録部門

測量業	登録 平成25年5月17日
建設コンサルタント業	登録 平成26年2月17日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月18日
一級建築士事務所	登録 平成25年1月18日
地質調査業	登録 平成24年2月23日

## (株)大建コンサルタント



代表取締役 廣瀬 博  
〒 460-0011  
名古屋市中区大須四丁目11番17号  
TEL 052-252-5171  
FAX 052-252-8044

### 登録部門

測量業	登録 平成21年12月22日
建設コンサルタント業	登録 平成23年11月26日
補償コンサルタント業	登録 平成24年4月30日
一級建築士事務所	登録 平成24年5月21日

## (株)大地コンサルタント



代表取締役 山本 章好  
〒 440-0026  
豊橋市多米西町一丁目21番地3  
TEL 0532-21-6649  
FAX 0532-21-6604

### 登録部門

測量業	登録 平成23年1月11日
建設コンサルタント業	登録 平成23年12月5日
補償コンサルタント業	登録 平成26年7月18日
二級建築士事務所	登録 平成25年10月17日

## (株)拓工



代表取締役 青木 拓生  
〒 456-0004  
名古屋市熱田区桜田町15番22号  
TEL 052-883-2711  
FAX 052-883-2716

### 登録部門

測量業	登録 平成26年7月21日
建設コンサルタント業	登録 平成26年10月1日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月25日
一級建築士事務所	登録 平成22年4月5日
地質調査業	登録 平成24年3月27日

## 玉野総合コンサルタント(株)



代表取締役会長 田部井伸夫  
〒 461-0005  
名古屋市東区東桜二丁目17番14号  
TEL 052-979-9111  
FAX 052-979-9112

### 登録部門

測量業	登録 平成25年6月4日
建設コンサルタント業	登録 平成26年10月1日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月18日
一級建築士事務所	登録 平成24年6月22日
地質調査業	登録 平成24年12月22日

## 中央コンサルタンツ(株)



代表取締役 藤本 博史  
〒 451-0042  
名古屋市西区那古野二丁目11番  
23号  
TEL 052-551-2541  
FAX 052-551-2540

### 登録部門

測量業	登録 平成25年6月14日
建設コンサルタント業	登録 平成26年10月1日
補償コンサルタント業	登録 平成23年8月30日
一級建築士事務所	登録 平成24年6月22日
地質調査業	登録 平成24年11月1日

## (株)中建



代表取締役 岩木 利志  
〒 464-0823  
名古屋市千種区松竹町一丁目40  
番地  
TEL 052-762-1341  
FAX 052-762-1633

### 登録部門

測量業	登録 平成25年7月11日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月12日

## 中部地域整備(株)



代表取締役 青山 茂喜  
〒 460-0002  
名古屋市中区丸の内二丁目2番15号  
TEL 052-201-2831  
FAX 052-204-4858

### 登録部門

測量業	登録 平成24年9月28日
建設コンサルタント業	登録 平成25年10月18日



## (株)中部テクノス



代表取締役 筒 俊充  
〒 465-0051  
名古屋市名東区社が丘一丁目501番地  
TEL 052-703-0890  
FAX 052-704-3390

### 登録部門

測 量 業 登録 平成26年6月24日

## (株)中部テック



代表取締役 寺島 新吾  
〒 465-0092  
名古屋市名東区社台三丁目48番地  
TEL 052-771-1251  
FAX 052-775-1310

### 登録部門

測 量 業	登録 平成25年4月17日
建設コンサルタント業	登録 平成25年11月30日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月12日

## 中部土地調査(株)



代表取締役 小田 文昭  
〒 451-0042  
名古屋市西区那古野二丁目26番8号  
TEL 052-565-1881  
FAX 052-565-1895

### 登録部門

測 量 業	登録 平成26年8月28日
建設コンサルタント業	登録 平成25年11月26日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月12日
一級建築士事務所	登録 平成26年6月22日

## 中部復建(株)



代表取締役 今村 鐘年  
〒 466-0059  
名古屋市昭和区福江一丁目1805番地  
TEL 052-882-6611  
FAX 052-882-9844

### 登録部門

測 量 業	登録 平成25年5月20日
建設コンサルタント業	登録 平成26年10月1日
補償コンサルタント業	登録 平成26年1月11日
一級建築士事務所	登録 平成23年6月15日

## 司開発(株)



代表取締役 川澄 功  
〒 448-0028  
刈谷市桜町一丁目10番地  
TEL 0566-23-1056  
FAX 0566-23-1196

### 登録部門

測 量 業	登録 平成22年2月19日
建設コンサルタント業	登録 平成25年12月12日
補償コンサルタント業	登録 平成23年8月30日
一級建築士事務所	登録 平成25年8月25日

## (株)つかもと



代表取締役 塚本 兼之  
〒 486-0927  
春日井市柏井町2丁目59番地  
TEL 0568-31-7268  
FAX 0568-31-4509

### 登録部門

測 量 業	登録 平成26年6月20日
建設コンサルタント業	登録 平成25年9月12日
補償コンサルタント業	登録 平成26年1月24日

## 東亜測量設計(株)



代表取締役 亀井 尚  
〒 468-0064  
名古屋市天白区道明町195番地  
TEL 052-832-7322  
FAX 052-834-8526

### 登録部門

測 量 業	登録 平成22年1月29日
補償コンサルタント業	登録 平成25年8月29日

## (株)東海コンサルタンツ



代表取締役 中沢 真三  
〒 440-0862  
豊橋市向山大池町17番地11  
TEL 0532-53-3400  
FAX 0532-53-3401

### 登録部門

測 量 業	登録 平成24年12月25日
建設コンサルタント業	登録 平成25年11月13日

## 東洋測量設計(株)



代表取締役 柳田 博  
〒 462-0011  
名古屋市北区五反田町81番地  
TEL 052-902-1811  
FAX 052-902-3503

### 登録部門

測 量 業 登録 平成25年4月30日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月18日

## 中日本建設コンサルタント(株)



代表取締役 安藤 敏博  
〒 460-0003  
名古屋市中区錦一丁目8番6号  
ストーカビル名古屋  
TEL 052-232-6032  
FAX 052-221-7827

### 登録部門

測 量 業 登録 平成25年4月17日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年10月1日  
補償コンサルタント業 登録 平成23年9月20日  
一級建築士事務所 登録 平成23年4月25日  
地 質 調 査 業 登録 平成23年10月1日

## 中日本航空測量(株)



代表取締役 住吉 豊祐  
〒 456-0033  
名古屋市熱田区花表町20番35号  
TEL 052-881-6178  
FAX 052-871-7188

### 登録部門

測 量 業 登録 平成23年2月21日  
補償コンサルタント業 登録 平成23年3月1日

## (有)西尾測量



代表取締役 西尾 榮司  
〒 471-0842  
豊田市土橋町5丁目9番地3  
TEL 0565-29-7124  
FAX 0565-26-1891

### 登録部門

測 量 業 登録 平成26年4月24日

## (株)日進サーべー



代表取締役 浅井 立  
〒 462-0037  
名古屋市北区志賀町三丁目22番地の3  
TEL 052-914-2678  
FAX 052-913-3746

### 登録部門

測 量 業 登録 平成25年7月16日  
補償コンサルタント業 登録 平成24年11月30日

## ニチイコンサルタント(株)



代表取締役 杉谷 芳征  
〒 491-0837  
一宮市多加木二丁目9番3号  
TEL 0586-71-8781  
FAX 0586-71-8786

### 登録部門

測 量 業 登録 平成22年8月3日  
建設コンサルタント業 登録 平成25年8月23日  
補償コンサルタント業 登録 平成24年8月30日

## 早川都市計画(株)



代表取締役 早川 正喜  
〒 471-0805  
豊田市美里二丁目17番地の5  
TEL 0565-89-8068  
FAX 0565-89-8067

### 登録部門

測 量 業 登録 平成26年1月19日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年3月27日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年2月26日

## 久松測量設計(株)



代表取締役 久松 順  
〒 492-8143  
稻沢市駅前四丁目7番11号  
TEL 0587-21-4077  
FAX 0587-24-1245

### 登録部門

測 量 業 登録 平成24年1月16日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年1月30日

## 不地弘測量設計(株)



代表取締役 太田 昭彦  
〒 470-0374  
豊田市伊保町上北野49番地2  
TEL 0565-45-8336  
FAX 0565-45-3292

### 登録部門

測 量 業 登録 平成23年8月15日

## 藤コンサル(株)



代表取締役 藤本 桂介  
〒 451-0025  
名古屋市西区上名古屋三丁目12番5号  
TEL 052-522-7701  
FAX 052 - 531-2545

### 登録部門

測 量 業 登録 平成24年11月27日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年2月2日  
補償コンサルタント業 登録 平成25年12月25日

## フジコンサルタント(株)



代表取締役 加藤 健司  
〒 497-0044  
海部郡蟹江町大字蟹江新田字前波226番地  
TEL 0567-96-1063  
FAX 0567-96-1647

### 登録部門

測 量 業 登録 平成23年3月15日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年1月19日  
補償コンサルタント業 登録 平成24年4月26日

## (株)丸太測量設計事務所



代表取締役 梅村 正明  
〒 471-0024  
豊田市元城町2丁目8番地2  
TEL 0565-32-5121  
FAX 0565-31-9167

### 登録部門

測 量 業 登録 平成22年5月24日

## (株)メイトーテック



代表取締役 上山 善富  
〒 455-0003  
名古屋市港区辰巳町1番44号  
TEL 052-654-0363  
FAX 052-654-5416

### 登録部門

測 量 業 登録 平成23年1月24日

## (株)名邦テクノ



代表取締役 山崎 武男  
〒 457-0048  
名古屋市南区大磯通六丁目9番地2  
TEL 052-823-7111  
FAX 052-823-7110

### 登録部門

測 量 業 登録 平成22年7月26日  
建設コンサルタント業 登録 平成25年4月20日  
補償コンサルタント業 登録 平成24年7月30日  
一級建築士事務所 登録 平成24年11月13日

## (株)名北総合技研



代表取締役 山田 雅登  
〒 462-0801  
名古屋市北区新堀町49  
TEL 052-981-4916  
FAX 052-981-4878

### 登録部門

測 量 業 登録 平成26年11月19日  
建設コンサルタント業 登録 平成26年3月4日  
補償コンサルタント業 登録 平成26年1月9日

## (株)横測



代表取締役 宮川 栄一  
〒 477-0037  
東海市高横須賀町西畠14番地  
TEL 0562-33-1294  
FAX 0562-33-0468

### 登録部門

測 量 業 登録 平成25年4月14日  
補償コンサルタント業 登録 平成24年10月15日

## リード測量設計(株)



代表取締役 音部祥一郎  
〒 444-0116  
額田郡幸田町大字芦谷字要善1番地7  
TEL 0564-62-6367  
FAX 0564-62-6567

### 登録部門

測量業 登録 平成25年9月16日

## 若鈴コンサルタンツ(株)



代表取締役 前田 元弘  
〒 452-0807  
名古屋市西区歌里町349番地  
TEL 052-501-1361  
FAX 052-502-1628

### 登録部門

測量業	登録 平成26年3月25日
建設コンサルタント業	登録 平成26年10月1日
補償コンサルタント業	登録 平成26年1月30日
一級建築士事務所	登録 平成23年9月21日
地質調査業	登録 平成24年1月13日

## (株)フジヤマ名古屋支店



支店長 山本 貴嗣  
〒 460-0002  
名古屋市中区丸の内一丁目11番  
15号  
TEL 052-218-4300  
FAX 052-218-4301

### 登録部門

測量業	登録 平成26年8月20日
建設コンサルタント業	登録 平成26年11月5日
補償コンサルタント業	登録 平成25年12月12日
一級建築士事務所	登録 平成24年6月1日
地質調査業	登録 平成26年10月27日

## (株)ランド・コンサルタント中部支社



取締役社長 洞ノ口一伸  
〒 467-0862  
名古屋市瑞穂区堀田通八丁目18番地  
ウイスティア堀田201号室  
TEL 052-693-6218  
FAX 052-884-7221

### 登録部門

測量業	登録 平成25年10月3日
補償コンサルタント業	登録 平成26年1月9日
一級建築士事務所	登録 平成24年1月31日

# 愛知県測量設計業協会会員

正会員

平成26年11月1日現在

社名	代表者名	所在地	TEL/FAX/mail
(株) アイエスシイ	代表取締役 森 富雄	466-0059 名古屋市昭和区福江2-9-33	TEL 052-882-1201 fax 052-882-1303 manage@isc-ngo.co.jp
(株) 愛河調査設計	代表取締役 山本四十三	457-0074 名古屋市南区本地通六丁目8番地1	TEL 052-819-6508 fax 052-819-6509 somu@aiga-cc.co.jp
愛徳コンサルタント(株)	代表取締役 田中康則	470-0342 豊田市大清水町大清水38番地10	TEL 0565-45-5557 fax 0565-47-7817 aitoku-c@woody.ocn.ne.jp
(株) 愛龍設計事務所	代表取締役 小栗金夫	470-0373 豊田市四郷町森前2番地2	TEL 0565-45-2935 fax 0565-45-9519 airyu@hm6.aitai.ne.jp
(株) 葵エンジニアリング	代表取締役 吉永次男	453-0018 名古屋市中村区佐古前町22番6号	TEL 052-486-2200 fax 052-483-5005 iso@aoi-eng.co.jp
あおい建設コンサルタント(株)	代表取締役 青井雅純	461-0005 名古屋市東区東桜2丁目3-7	TEL 052-933-2091 fax 052-933-2093 aoi@japan-net.ne.jp
葵コンサルタント(株)	代表取締役 中川恵子	444-2118 岡崎市河原町13番地2	TEL 0564-22-7058 fax 0564-25-2975 soumu2@aoi-con.co.jp
(株) 葵設計事務所	代表取締役 中西喜久雄	440-0085 豊橋市下地町二丁目51番地	TEL 0532-55-5263 fax 0532-55-5218 soumu@aoi-sekkei.jp
(株) アクセス	代表取締役 赤松光昭	448-0013 刈谷市恩田町一丁目159番地1	TEL 0566-23-8667 fax 0566-21-0801 access_survey@katch.ne.jp
(株) 朝日設計事務所	代表取締役 稻垣芳郎	465-0024 名古屋市名東区本郷三丁目118番地	TEL 052-774-7181 fax 052-774-0090 soumu@asahisekkeijimusho.co.jp
(有) 旭測量事務所	代表取締役 金子昭義	440-0851 豊橋市前田南町一丁目4番地の12	TEL 0532-54-5934 fax 0532-54-3645 surveyor@cello.ocn.ne.jp
(株) 旭調査	代表取締役 村瀬伸吾	468-0052 名古屋市天白区井口一丁目2017番地	TEL 052-838-7721 fax 052-838-7722 asahi@asahi-c.co.jp
(株) あづま	代表取締役 柴田修身	440-0026 豊橋市多米西町一丁目20番地9	TEL 0532-63-1255 fax 0532-63-8075 aduma@631255.jp
アマノコンサルタント(株)	代表取締役 天野隆俊	444-2131 岡崎市青木町22番地5	TEL 0564-45-2445 fax 0564-45-7776 info@amano-c.com

社 名	代 表 者 名	所 在 地	TEL/FAX/mail
アローコンサルタント(株)	代表取締役 小川 隆三	462-0007 名古屋市北区如意三丁目62番地	TEL 052-901-7050 fax 052-901-7218 soumu@arrow-c.co.jp
株安藤調査設計事務所	代表取締役 安藤 礼志	444-0034 岡崎市十王町2丁目31番地1	TEL 0564-23-1457 fax 0564-23-3877 acsm@titan.ocn.ne.jp
(株)石田技術コンサルタント	代表取締役 石田 徹	485-0028 小牧市東新町50番地	TEL 0568-73-1085 fax 0568-73-1099 itcsom@itcnet.co.jp
井上測量設計(株)	代表取締役 佐々木康次	461-0017 名古屋市東区東外堀町3番地	TEL 052-951-1441 fax 052-951-1039 inoue-s@uranus.dti.ne.jp
(株)宇井測量設計	代表取締役 宇井 源悟	444-2528 豊田市東渡合町根畑15番地	TEL 0565-64-2427 fax 0565-64-2439 uiiss@lilac.ocn.ne.jp
NTCコンサルタント(株)	代表取締役 大村 仁	460-0012 名古屋市中区千代田二丁目16番10号	TEL 052-261-1321 fax 052-261-1655 eigyou.hn@ntc-c.co.jp
(株)MSS	代表取締役 酒井 誠	454-0054 名古屋市中川区八剣町三丁目24番地	TEL 052-602-7715 fax 052-602-7716 jimusyo@kkmss.co.jp
(株)オオバ名古屋支店	支店長 納村 和秀	460-0003 名古屋市中区錦一丁目19番24号 名古屋第一ビル7階	TEL 052-219-0083 fax 052-219-0093 info_na@k-ohba.co.jp
(有)大場測量設計事務所	代表取締役 大場 孝男	444-0835 岡崎市城南町3丁目4-3	TEL 0564-52-8505 fax 0564-52-7919 ohba@mikaworld.com
(株)大増コンサルタント	代表取締役 増井 壽子	454-0828 名古屋市中川区小本2丁目14番5号	TEL 052-363-1131 fax 052-363-6045 soumu@ohmasu.co.jp
(株)大屋測量設計	代表取締役 大屋 恵雄	451-0025 名古屋市西区上名古屋三丁目20番2号 大井ビル301号	TEL 052-908-0672 fax 052-908-0673 ohyasv@sepia.ocn.ne.jp
(株)梶川土木コンサルタント	代表取締役 梶川 洋	448-0037 刈谷市高倉町4丁目508番地	TEL 0566-24-6606 fax 0566-24-6413 info@k-cc.co.jp
(株)カナエジオマチックス	代表取締役 森 正樹	460-0012 名古屋市中区千代田一丁目12番5号	TEL 052-249-9611 fax 052-249-9601 kanal@kanal.co.jp
(株)神田設計	代表取締役 伊藤 悟	451-0062 名古屋市西区花の木一丁目3番5号	TEL 052-522-3121 fax 052-522-3000 info@kanda-s.co.jp
(株)協同コンサルタント	代表取締役 近藤 優	458-0801 名古屋市緑区鳴海町字中汐田84番地1	TEL 052-624-3311 fax 052-624-1740 eigyou@kyodoconsul.com
協和調査設計(株)	代表取締役 溝口 清孝	454-0839 名古屋市中川区篠原橋通二丁目44番地	TEL 052-365-3711 fax 052-365-3712 soumu@ky-cs.co.jp
(株)小嶋コンサルタント	代表取締役 町田 穂積	445-0073 西尾市寄住町上田34番地1	TEL 0563-53-5331 fax 0563-53-5341 kojima-j@kojima-ss.com

社名	代表者名	所在地	TEL/FAX/mail
コムワーカス エンジニアリング(株)	代表取締役 今枝 晃	466-0058 名古屋市昭和区白金三丁目19番15号	TEL 052-884-8411 fax 052-884-8488 sales@com-worx.co.jp
(株)酒井設計事務所	代表取締役 酒井利之	471-0827 豊田市平山町5丁目1番地	TEL 0565-27-1762 fax 0565-29-8747 sakai@hm6.aitai.ne.jp
栄土地測量設計(株)	代表取締役 青山 紘一	440-0806 豊橋市八町通四丁目49番地	TEL 0532-55-1230 fax 0532-55-3107 info@sakaetochi.co.jp
(株)三愛設計	代表取締役 渡辺 武雄	492-8144 稻沢市小池一丁目5番8号	TEL 0587-32-8313 fax 0587-23-2007 office@sanai-sekkei.co.jp
(株)サンキ	代表取締役 鈴木 勝彦	456-0032 名古屋市熱田区三本松町6番5号	TEL 052-884-2555 fax 052-882-8001 sanki@3ki.co.jp
三協調査設計(株)	代表取締役 浜田 哲也	460-0015 名古屋市中区大井町4番17号	TEL 052-331-5371 fax 052-331-8619 sohmu@sankyocon.co.jp
敷島測量設計(株)	代表取締役 中島 正義	462-0014 名古屋市北区楠味鋤三丁目302番地	TEL 052-901-5005 fax 052-901-6780 BCH10311@nifty.com
設楽測量設計(株)	代表取締役 加藤 博俊	441-2302 北設楽郡設楽町清崎字岩井25番地2	TEL 0536-62-1456 fax 0536-62-2080 sitasoku@guitar.ocn.ne.jp
柴山コンサルタント(株)	代表取締役 加藤 銑彦	461-0011 名古屋市東区白壁一丁目69番地	TEL 052-961-0111 fax 052-961-8560 eigyo@shibayama-consul.co.jp
信栄測量設計(株)	代表取締役 高木 喜一	471-0024 豊田市元城町4丁目28番地	TEL 0565-31-1113 fax 0565-31-1149 scc@ruby.ocn.ne.jp
新栄測量設計(株)	代表取締役 赤石 和彦	485-0044 小牧市常普請3-124	TEL 0568-76-1755 fax 0568-76-1749 akakiko@r3.dion.ne.jp
新晃コンサルタント(株)	代表取締役 鈴木 善晴	462-0853 名古屋市北区志賀本通二丁目46番地	TEL 052-911-1286 fax 052-914-5553 info@shinko-c.com
(株)新城測量設計	代表取締役 加納 弘	441-1325 新城市字二本松10番地の7	TEL 0536-22-2730 fax 0536-22-2733 sv@shinsoku.jp
(株)新日	代表取締役 秋山 学	454-0011 名古屋市中川区山王一丁目8-28	TEL 052-331-5356 fax 052-331-4010 business@shinnichi.co.jp
(株)伸和	代表取締役 林 清一	457-0863 名古屋市南区豊一丁目45番12号	TEL 052-692-0146 fax 052-692-0423 hayashi@kk-shinwa.com
杉浦測量(有)	代表取締役 高木 清	444-0802 岡崎市美合町字西屋敷24番地1	TEL 0564-51-0037 fax 0564-55-6544 sugiuras@smile.ocn.ne.jp
(有)杉田測量設計事務所	代表取締役 杉田 正春	444-3502 岡崎市大幡町字東方便野22	TEL 0564-48-7511 fax 0564-48-5061 sugisoku@m3.catvmics.ne.jp

社名	代表者名	所在地	TEL/FAX/mail
(株)須藤事務所	代表取締役 須藤一彦	471-0842 豊田市土橋町四丁目67番地	TEL 0565-29-0281 fax 0565-29-0641 bond@sudou.net
セイコー測量設計(株)	代表取締役 松本正則	463-0042 名古屋市守山区野萩町13番8号	TEL 052-791-3150 fax 052-793-3459 seiko_survey@nifty.com
双和測量設計(株)	代表取締役 日置俊夫	452-0839 名古屋市西区見寄町173番地	TEL 052-503-2109 fax 052-503-3083 SOWA2109@guitar.ocn.ne.jp
太栄コンサルタンツ(株)	代表取締役 川口英朗	460-0012 名古屋市中区千代田三丁目26番18号	TEL 052-332-3355 fax 052-321-3275 soumu@daiei-con.co.jp
(株)大建コンサルタント	代表取締役 廣瀬博	460-0011 名古屋市中区大須四丁目11番17号	TEL 052-252-5171 fax 052-252-8044 gyoumu@daikenc.jp
(株)大地コンサルタント	代表取締役 山本章好	440-0026 豊橋市多米西町一丁目21番地3	TEL 0532-21-6649 fax 0532-21-6604 ddm@daichi-c.jp
(株)拓工	代表取締役 青木拓生	456-0004 名古屋市熱田区桜田町15番22号	TEL 052-883-2711 fax 052-883-2716 kanri-honbu@c-takko.co.jp
玉野総合コンサルタント(株)	代表取締役会長 田部井伸夫	461-0005 名古屋市東区東桜二丁目17番14号	TEL 052-979-9111 fax 052-979-9112 ts-society@tamano.co.jp
中央コンサルタンツ(株)	代表取締役 藤本博史	451-0042 名古屋市西区那古野二丁目11番23号	TEL 052-551-2541 fax 052-551-2540 honsha-info@chuoh-c.co.jp
(株)中建	代表取締役 岩木利志	464-0823 名古屋市千種区松竹町一丁目40番地	TEL 052-762-1341 fax 052-762-1633 chukken@k7.dion.ne.jp
中部地域整備(株)	代表取締役 青山茂喜	460-0002 名古屋市中区丸の内二丁目2番15号	TEL 052-201-2831 fax 052-204-4858 CRD@chance.ne.jp
(株)中部テクノス	代表取締役 筒俊充	465-0051 名古屋市名東区社が丘一丁目501番地	TEL 052-703-0890 fax 052-704-3390 eb.ngy@c-aas.co.jp
(株)中部テック	代表取締役 寺島新吾	465-0092 名古屋市名東区社台三丁目48番地	TEL 052-771-1251 fax 052-775-1310 info@chubu-tech.co.jp
中部土地調査(株)	代表取締役 小田文昭	451-0042 名古屋市西区那古野二丁目26番8号	TEL 052-565-1881 fax 052-565-1895 c-tochi@chubutochichousa.co.jp
中部復建(株)	代表取締役 今村鐘年	466-0059 名古屋市昭和区福江一丁目1805番地	TEL 052-882-6611 fax 052-882-9844 eigyou@chubu-fk.co.jp
司開発(株)	代表取締役 川澄功	448-0028 刈谷市桜町一丁目10番地	TEL 0566-23-1056 fax 0566-23-1196 info@tsukasa-kaihatsu.com
(株)つかもと	代表取締役 塚本兼之	486-0927 春日井市柏井町2丁目59番地	TEL 0568-31-7268 fax 0568-31-4509 soumu@tukamoto.co.jp

社名	代表者名	所在地	TEL/FAX/mail
東亜測量設計(株)	代表取締役 亀井 尚	468-0064 名古屋市天白区道明町195番地	TEL 052-832-7322 fax 052-834-8526 toua@toua-kk.com
東栄測量設計(株)	代表取締役 松本 幸三	454-0961 名古屋市中川区戸田明正二丁目 2210番地	TEL 052-618-8760 fax 052-618-8761 t-soumu@touei.ecnet.jp
(株)東海コンサルタンツ	代表取締役 中沢 真三	440-0862 豊橋市向山大池町17番地11	TEL 0532-53-3400 fax 0532-53-3401 main@tokai-con.jp
東洋測量設計(株)	代表取締役 柳田 博	462-0011 名古屋市北区五反田町81番地	TEL 052-902-1811 fax 052-902-3503 somu@tc-toyo.co.jp
(株)豊橋コンサルタント	代表取締役 内藤 孜	440-0004 豊橋市忠興二丁目6番地の22	TEL 0532-61-6055 fax 0532-61-6275 toyocon@par.odn.ne.jp
中日本建設コンサルタント(株)	代表取締役 安藤 敏博	460-0003 名古屋市中区錦一丁目8番6号 ストーカビル名古屋	TEL 052-232-6032 fax 052-221-7827 t_iwata@nakanihon.co.jp
中日本航空測量(株)	代表取締役 住吉 肇祐	456-0033 名古屋市熱田区花表町20番35号	TEL 052-881-6178 fax 052-871-7188 nks50@k9.dion.ne.jp
(有)西尾測量	代表取締役 西尾 榮司	471-0842 豊田市土橋町5丁目9番地3	TEL 0565-29-7124 fax 0565-26-1891 nishio-s@hm3.aitai.ne.jp
(株)西三河都市計画	代表取締役 林 孝善	444-0807 岡崎市美合西町7番地3	TEL 0564-63-0233 fax 0564-63-1829 nt-co@sk2.aitai.ne.jp
(株)日進サーべー	代表取締役 浅井 立	462-0037 名古屋市北区志賀町三丁目22番地の3	TEL 052-914-2678 fax 052-913-3746 nissin-s@gamma.ocn.ne.jp
ニチイコンサルタント(株)	代表取締役 杉谷 芳征	491-0837 一宮市多加木二丁目9番3号	TEL 0586-71-8781 fax 0586-71-8786 NICHII@nichii.co.jp
(有)額田測量	代表取締役 高橋 有	444-2223 豊田市松平志賀町マゴイチ10-14	TEL 0565-86-1321 fax 0565-86-1322 nukataso@hm9.aitai.ne.jp
早川都市計画(株)	代表取締役 早川 正喜	471-0805 豊田市美里二丁目17番地の5	TEL 0565-89-8068 fax 0565-89-8067 toyota@hayakawa-t.co.jp
久松測量設計(株)	代表取締役 久松 顕	492-8143 稻沢市駅前四丁目7番11号	TEL 0587-21-4077 fax 0587-24-1245 info@hisasoku.com
富士エンジニアリング(株)	代表取締役 寺本 博亘	464-0067 名古屋市千種区池下一丁目11番21号 サンコート池下5階	TEL 052-763-1616 fax 052-763-1675 a.takeuti@fuji-eng.co.jp
不地弘測量設計(株)	代表取締役 太田 昭彦	470-0374 豊田市伊保町上北野49番地2	TEL 0565-45-8336 fax 0565-45-3292 fujikoh-ota@nifty.com
藤コンサル(株)	代表取締役 藤本 桂介	451-0025 名古屋市西区上名古屋三丁目12番5号	TEL 052-522-7701 fax 052-531-2545 eigyo@fuji-con.co.jp

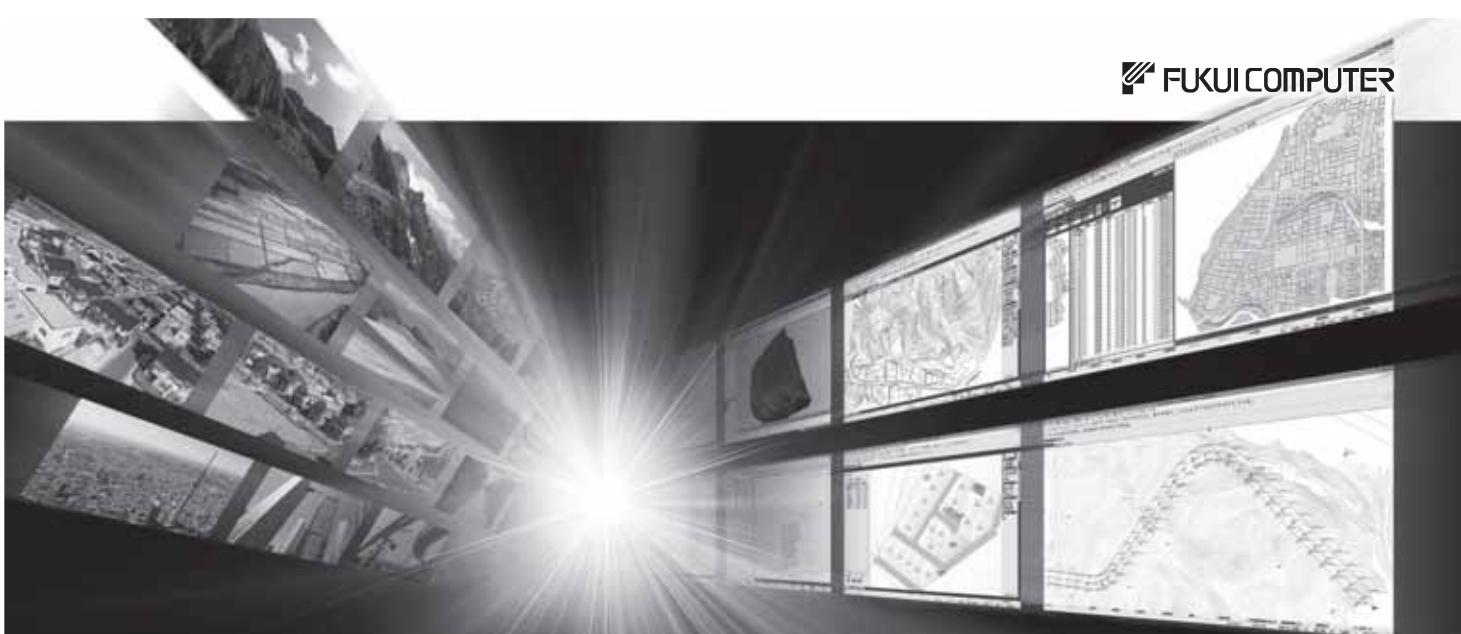
社名	代表者名	所在地	TEL/FAX/mail
フジコンサルタント(株)	代表取締役 加藤 健司	497-0044 海部郡蟹江町大字蟹江新田字前波 226番地	TEL 0567-96-1063 fax 0567-96-1647 info@fujicon-c.co.jp
(株)丸太測量設計事務所	代表取締役 梅村 正明	471-0024 豊田市元城町2丁目8番地2	TEL 0565-32-5121 fax 0565-31-9167 marutas@estate.ocn.ne.jp
(株)メイトー テック	代表取締役 上山 善富	455-0003 名古屋市港区辰巳町1番44号	TEL 052-654-0363 fax 052-654-5416 k.yoshiyuki@meito-tech.co.jp
(株)名邦テクノ	代表取締役 山崎 武男	457-0048 名古屋市南区大磯通六丁目9番地2	TEL 052-823-7111 fax 052-823-7110 soumu@meiho-techno.co.jp
(株)名北総合技研	代表取締役 山田 雅登	462-0801 名古屋市北区新堀町49	TEL 052-981-4916 fax 052-981-4878 eigyo@meihoku-sg.co.jp
(株)横測	代表取締役 宮川 栄一	477-0037 東海市高横須賀町西畠14番地	TEL 0562-33-1294 fax 0562-33-0468 info@aichi-yokosoku.co.jp
リード測量設計(株)	代表取締役 音部祥一郎	444-0116 額田郡幸田町大字芦谷字要善1番地7	TEL 0564-62-6367 fax 0564-62-6567 lead@viola.ocn.ne.jp
若鈴コンサルタンツ(株)	代表取締役 前田 元弘	452-0807 名古屋市西区歌里町349番地	TEL 052-501-1361 fax 052-502-1628 soumu@wakasuzuc.co.jp

**準会員**

社名	代表者名	所在地	TEL/FAX/mail
株フジヤマ名古屋支店	支店長 山本 貴嗣	460-0002 名古屋市中区丸の内一丁目11番15号	TEL 052-218-4300 fax 052-218-4301 nagoya@con-fujiyama.com
株ランド・コンサルタント 中部支社	取締役支社長 洞ノロ一伸	467-0862 名古屋市瑞穂区堀田通八丁目18番地 ウイステリア堀田201号室	TEL 052-693-6218 fax 052-884-7221 chubu-b.o@land-c.co.jp

**賛助会員**

社名	代表者名	所在地	TEL/FAX/mail
株日刊建設工業新聞社 名古屋支社	取締役支社長 西田 匠	461-0001 名古屋市東区泉一丁目22番22号 TODAビル	TEL 052-961-2631 fax 052-961-2635 nagoya@decn.co.jp
中京コピー(株)	代表取締役 嶋津誠司	461-0001 名古屋市東区泉三丁目30番3号	TEL 052-931-2611 fax 052-931-2366 c-net@chukyocopy.co.jp
(株)東海八嶋	代表取締役 嶋津誠司	456-0004 名古屋市熱田区桜田町16番3号	TEL 052-883-3015 fax 052-883-3010 tohachi@chukyocopy.co.jp



# フィールドデザインで日本の未来を創る

測量計算CADシステム「BLUETREND XA」

豊富な測量計算機能と、それに連動した専用CADで、  
「都市部」「平野部」「山間部」などあらゆるフィールドの測量業務に迅速に対応。

BLUETREND

X1  
NEW!  
2015

測量計算CADシステム【ブルートレンド エグザ】



フィールドワークからオフィスワーク、  
データの管理・活用・連携まで  
**測量業務をフルサポート!**

軽快なフィールドワークを担う!



**X-FIELD**

現場端末システム【クロスフィールド】

現場仕様の抜群の操作性! 情報収集・集約もこの1台! さらに成果に直結!  
現況観測はもちろん、縦断観測・横断観測も!

新登場!



どこでも観測

——アンドロイド スマホアプリ——

測る! 撮る! 収集!  
現場で手軽に軽快に!

Google™  
地図を背景に



2014年8月上旬リリース予定《無料!》

さらなる効率化とスピードアップを生み出す高価値のデータ連携!  
外業＆内業の連携で、成果に向けてトータルサポート!

福井コンピュータ株式会社

本社／〒910-0297 福井県坂井市丸岡町磯部福庄5-6

札幌・青森・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・埼玉・千葉・東京・横浜・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・山口・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

●製品に関する  
お問い合わせは



**0570-550-291**

カスタマーサポートセンター【受付時間】9:00~12:00/13:00~18:00

\*土曜・日曜・祝祭日、弊社指定の休業日は除きます。

上記ナビダイヤルは福井県坂井市に着信し、着信地までの通話料はお客様のご負担となります。また、通話料につきましてはマイラインの登録に関わらず、NTTコミュニケーションズからの請求となります。携帯電話からのご利用の場合は20秒ごとに10円の通話料がお客様のご負担となります。

●製品の詳しい情報、カタログのご請求は

福井コンピュータ

検索

<http://const.fukuicompu.co.jp>

一般社団法人  
全国測量設計業協会連合会中部地区協議会

# グループ保険制度

(こども特約付災害保障特約付こども災害保障特約付災害割増特約付こども災害割増特約付新・団体定期保険)



●制度内容(企業負担型・個人負担型共通)

区分	口数	月額保険料	一般の死亡または高度障害(死亡・高度障害保険金)	不慮の事故による死亡または特定感染症による死亡(死亡保険金+災害保険金)	不慮の事故による高度障害(※①)(高度障害者保険金+災害高度障害保険金+障害給付金【給付割合表(第1級)】)	不慮の事故による身体障害(程度により)(障害給付金【給付割合表第2級～第6級】)	不慮の事故による5日以上の入院(120日を限度として)(入院給付金)
本人	60	円 5,820	万円 1,200	万円 2,400	万円 2,400	万円 60～420	万円 1日につき 9,000
	50	円 4,850	万円 1,000	万円 2,000	万円 2,000	万円 50～350	万円 1日につき 7,500
	40	円 3,880	万円 800	万円 1,600	万円 1,600	万円 40～280	万円 1日につき 6,000
	30	円 2,910	万円 600	万円 1,200	万円 1,200	万円 30～210	万円 1日につき 4,500
	20	円 1,940	万円 400	万円 800	万円 800	万円 20～140	万円 1日につき 3,000
	10	円 970	万円 200	万円 400	万円 400	万円 10～70	万円 1日につき 1,500

(※①) 不慮の事故による高度障害の場合、高度障害保険金+災害割増特約から災害高度障害保険金+災害保障特約から障害給付金(給付割合表第1級)をお支払いします。  
特定感染症による高度障害の場合、高度障害保険金+災害割増特約から災害高度障害保険金をお支払いします。

(注)配当率は、お支払い時期の前年度決算により決定しますので、将来お支払いする配当金額は現時点では確定できません。

◎本人コースの他に、配偶者コース・こどもコースもあります。  
(配偶者コース・こどもコースは個人負担型のみ取扱い可能です。)  
◎記載の保険料は正規保険料です。  
◎保険料は、年齢に関係なく一律です。  
◎制度内容等詳細についてはパンフレットをご一読ください。

お問合せ先 (一社)全国測量設計業協会連合会中部地区協議会

引受会社 明治安田生命保険(相) 中部公法人部 法人営業第一部 TEL 052-951-9100

MY-A-14-LF-005973

## 厚生年金基金 国の年金の上積み給付

国の厚生年金を代行し、さらに基金独自の上積み(約25%程度)した年金給付や退職時・死亡時の一時金の給付を行います。

また、結婚、出産、就学、死亡等の様々な慶弔金及び災害に対する見舞金、全国各地の宿泊保養施設の宿泊補助金等の支給を行います。

基金に加入することにより、事業主様には、上積み給付の原資及び基金運営のための事務費として1.7%の掛金を負担して頂くことになりますが、従業員の方は、基金に加入しても一切負担増はありません。

## 確定拠出年金 (DC)

従来の年金制度と異なり、将来の給付額は個人(従業員)の運用結果で変動します。  
事業主様が負担する掛金は定額で、運用結果等で変動することはありません。

### そくりようDCのメリット

- 制度導入・運営等の事務費負担軽減
- 高品質・低コストな運用商品



## 全国測量業厚生年金基金

〒162-8626 東京都新宿区山吹町11番地1 測量年金会館

TEL: 03-3235-7211 (総務部) URL: <http://www.sokuryokin.or.jp>

保証事業を通じて  
安全で活力のある社会を創るために  
お手伝いをしています



## 東日本建設業保証株式会社

- 業務委託着手時の資金調達には
- 契約時に保証金を積む代わりに

- ➡ 前払金保証
- ➡ 契約保証

## KKS 株式会社建設経営サービス

- 出来高に応じた資金調達手段として
- 最大利益を生み出すには

- ➡ 出来高融資
- ➡ 土木施工管理者のための  
CPDS認定WEBセミナー

## npn 日本電子認証株式会社

- 電子入札の応札時に
- 様々な電子申請に対応

- ➡ AOSignサービス
- ➡ 法人認証カード

各種お申込・お問合せは

## 東日本建設業保証株式会社 愛知支店

〒461-0008 愛知県名古屋市東区武平町5-1 名古屋栄ビルディング3F

TEL 052-962-3461 FAX 0120-027-516

URL <http://www.ejcs.co.jp>

# 大切な催しにレセプションハウスの “おもてなし”をお役立てください。



レセプションハウス 名古屋通信会館



レセプションハウス コアセルベート



ノリタケの森 レストランキルン

進化を続ける名古屋駅前から北へ徒歩6分。

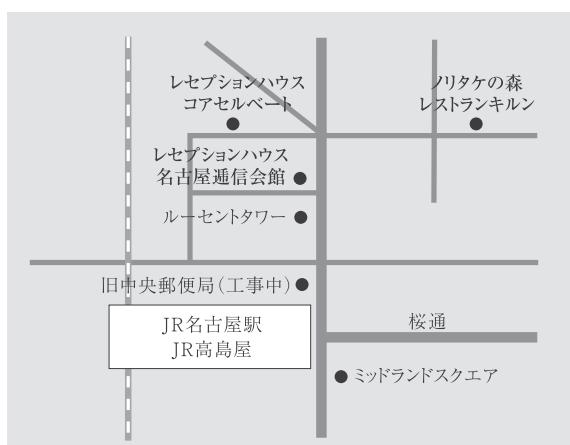
充実した設備と真心こもった

おもてなしのレセプションハウス。

パーティーや会議・セミナーなど多彩な催しが

可能な3つの館をご用意し、

みなさまのご利用をお待ち申し上げております。



Reception  
House  
レセプションハウス名古屋通信会館

レセプションハウス名古屋通信会館

レセプションハウス 名古屋通信会館

〒451-0046 名古屋市西区牛島町5番6号  
tel.052-551-5111 fax.052-551-5151  
[www.teishin.co.jp](http://www.teishin.co.jp)

RECEPTION HOUSE  
COACERVATE

レセプションハウス コアセルベート

〒451-0046 名古屋市西区牛島町4番8号  
tel.052-551-5110 fax.052-551-5255  
[www.coacervate.jp](http://www.coacervate.jp)

RESTAURANT  
Kirlun

ノリタケの森 レストランキルン

〒451-8501 名古屋市西区則武新町3丁目1番36号  
tel.052-561-7304 fax.052-561-7308  
[www.noritake.co.jp](http://www.noritake.co.jp)

50<sup>th</sup>  
CHUKYOCOPY

感謝を複写して半世紀

## お客様へ、6つの約束

### 1 24時間 365日対応

中京コピーは「24時間365日作業体制」を敷いております。  
週末や深夜時間帯も計画に入れて工程を組みますので、突発的な大量物件にも「驚きの短納期対応」を実現します。  
また当社のオンラインデータ入稿サービス「CC\_Web」をご利用いただけますと、例えば深夜入稿→翌朝納品といったフローでお客様をサポートすることも可能です。

### 4 入力から出力まで 一貫して対応

1つの物件で、編集作業はA社へ、  
印刷・製本はB社へ、バラバラに発注  
しなければならず、仕上がりをまとめる  
タイミングが合わない…というような、  
煩わしい思いをされていませんか？  
中京コピーなら、データ編集、出力から  
最終加工まですべて「社内一貫作業」です。

### 2 品質管理の 徹底

最新鋭のオーダーメイド印刷機をはじめ、  
大型・高速スキャナや高品質製本機器などを  
駆使してお客様をバックアップします。  
用紙選択から加工・梱包に至るまで、作業段階ごとに整備された  
マニュアルに基づき、ご満足いただける商品づくりに努めております。

### 5 万全なセキュリティ体制で 安全を確保

お客様からお預かりした原稿データや機密情報は、  
納品完了後、マニュアルに基づき速やかに削除して  
おります。  
プライバシーマーク認証をはじめ、セキュリティ  
に関する有資格者の在籍、個人情報漏洩保険への  
加入、日常の入退室管理などについても徹底し、  
情報漏洩防止に努めています。

### 3 全国各地へ 営業・出張対応

中部地区はもちろん、全国どこへでも

お伺いいたします。

「現地事務所内で機密資料を電子化」、「  
原稿確認とお見積り」など、なんでも  
お気軽にご相談ください。  
最良のプランをご提案さしあげます。



### 6 お客様の書類管理を 有資格者がサポート

「JIIIMA：文書情報管理士」  
「JACIC : CALS/ECインストラクター」  
「OCF : SXF技術者」  
「NOMA : ファイリング・デザイナー」  
「知的財産管理技術士」  
などの有資格者が多数在籍しております。  
外部講習への参加や、社内勉強会の定期開催など、  
日々最新情報の収集にも努めています。



## プリントオンデマンド

### 少部数＆低コスト印刷の決定版

必要な時に必要な数だけ安く印刷したい…そんな時代の声にお応えする印刷方式「プリントオンデマンド」。カラーコピーやインクジェットプリンターより高品質で、製本などの仕上げもパーフェクト。ビジネスにもプライベートにもお気軽にご利用いただけます。

#### ■個人出版

一冊からでも心を込めて印刷・製本。  
表紙のデザインもご提案！



#### ■会議資料・マニュアル

「明日の会議に間に合わせたい…」  
そんなご要望にもスピーディーに対応！

#### ■カタログ・パンフレット

必要な部数だけ印刷し、  
販促コストを大幅に削減！



#### ■メニュー

写真差し替えもすぐに対応。  
オリジナルメニューでイメージアップ！



## プロットアウト

### 小物から垂れ幕サイズまで出力

図面データや大型カラーポスターなど、一般的のプリンターでは出力不可能なサイズに対応します。

## 電子納品

### 専門インストラクターが完全サポート

CALS/ECインストラクターが多数在籍し、お客様の電子納品を完全サポート。業界トップの設備と実績でご要望にお応えします。



## スキャニング・電子ファイリング

### 膨大な資料を超コンパクト化

- お客様の紙原稿をデジタルデータ化。
- MO、CD-R、DVD-R他、お好みのメディアに保存。
- 書類の保存、保管に最適。
- 倉庫、書庫の省スペース化を図り、コストを削減。
- 必要な書類の検索や出力が簡単。
- PDF、しおり、サムネールなどもOK。
- 当社オリジナルのNeoviewもご用意。
- お客様のニーズに合わせたカスタマイズも可能。



**中京コピー 株式会社 TEL 052-931-2611**

ISO 14001認証取得 工コ事業所認定

[www.chukyocopy.co.jp](http://www.chukyocopy.co.jp)

## 編集後記

昭和49年11月に愛知県知事より、－社団法人愛知県測量設計業協会－として設立許可を頂きました。平成26年11月を持って、創立40周年を迎えることが出来ました。11月11日に開催させて頂いた記念式典に、国土交通省中部地方整備局においては、八鍬局長様始め多くの幹部の皆様、愛知県においては、大村知事様始め多くの幹部の皆様、他機関においても多くの幹部の皆様がお祝いに駆けつけて頂き、身に余る祝辞を賜りました。会員一同になりかわり感謝申し上げます。

創立当時は、御発注者様のお手伝いから始まった測量設計業は、今ではパートナーの位置付けとなり、国民の安心、安全、経済の発展等となる社会資本整備に貢献していると自負しています。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の死者行方不明の方は、18,550人（警察庁発表 H25.3.11）を数えます。平成26年9月27日に発生した御嶽山噴火において、死者行方不明の方は63名を数えます。また、多くの集中豪雨による激甚災害が発生しています。迫り来る南海トラフ大震災など、自然災害への対応、老朽ストックへの対応などに備えて、私共エンジニアは、更なる技術力向上に努めてまいります。

ご多忙の中、御祝辞を賜りました皆様方、～写真で紹介するこの10年間の社会資本整備～にご寄稿頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

広報グループ

## 『方位』 第37号

発行／ 平成26年12月10日発行

発行者／ 一般社団法人 愛知県測量設計業協会  
〒460-0002  
名古屋市中区丸の内3丁目19番30号  
愛知県住宅供給公社ビル3階  
TEL(052) 953-5021  
FAX(052) 953-5020  
E-mail:jimukyoku@aisokkyo.or.jp

編集／ 担当副会長 今村 鐘年  
広報委員長 石田 徹  
広報グループ  
事務局



印刷／ 中京コピー株式会社

